

実践のあゆみ

第16号

平成24年度研究紀要
千葉県立特別支援学校流山高等学園



ま え が き

校 長 京坂 和憲

流山高等学園は、平成２２年度に第二キャンパスを開設し、１学年が５学級から１２学級に、定員が５０名から１２０名になりました。またこの時「福祉・流通サービス科」を新設しました。新たなテーマで学校づくりが始まった年でした。

今年度（平成２４年度）は第二キャンパス開設から３年、平成２２年度に入学した生徒が卒業する年、新しく立ち上げた「福祉・流通サービス科」が最初の卒業生を出す年となりました。研究テーマ「キャリア発達を促す専門教科のあり方 ～自立へのステージアップを促す授業改善～」は、就労を目指す学校としてより充実した学校を作ろうと掲げたテーマです。日々の教育実践を振り返りながら、新たな流山高等学園の教育環境、教育内容の整備・充実を目指してきました。

特にテーマを「キャリア教育の視点に立つ専門教科のあり方」よりも、「キャリア発達を促す専門教科のあり方」としたのは、学校としてキャリア教育の枠組みを構築する時に個々の生徒のキャリア発達をいかに促すかを大切にしたいというベクトルの共有があります。また、サブテーマに「授業改善」と入れたのは、実践の中での努力と工夫を大切にしたい、授業で教師が勝負するには、いかに授業を振り返って、実践を積み上げていくかを問うていきたいという本校の実践研究の姿勢の表れであったと思います。

今年度は、授業改善を目指して、学習指導案の中にキャリア発達を促す授業のポイントを明記するようにしました。公開研究会では、北は北海道、南は沖縄県から参加していただきました。企業の方の参加もあり、活発な協議ができました。初めてポスター発表を取り入れ、各教科、道徳、総合的な学習の時間、部活動等の実践を紹介しました。ポスター発表を通してそれぞれの活動がキャリア発達を促す工夫をどのように行っているか、整理しました。全体講演では森脇勤氏から「学校のカタチ ～キャリア発達を支援する学校のデザイン～」の講話をいただき、「生徒と教師が評価を共有する」という大きな課題をいただきました。公開研究会は、貴重な示唆をたくさん得ることができ、価値のある研究会になりました。また生徒にとっても学習に取り組む姿勢を高く評価していただけたことは、大変有意義であったと思います。

さらに本校の研究は、教育課程の改善と一体となっています。授業改善を図り、個々の生徒へのキャリア発達の支援のあり方をより明確にし、本校に必要な教育活動を全職員で考え、工夫し、新しい教育課程として再構築していきたいと思っています。今年度は新しい教育活動として、３年生で学校設定教科「キャリア・チャレンジ」を始めました。地域と連携した清掃、販売、植栽、あじさい通り整備、その他さまざまな活動を行い、地域に密着した実践的な活動を重視した取組ができたと思います。

末筆になりましたが、御多忙にもかかわらず熱心にご指導ご助言をいただきました多くの講師の先生方に、心から感謝申し上げる次第です。

目 次

1	テーマ	
	(1) 研究主題	3
	(2) 主題設定の理由	3
2	目的	3
3	本校の概要	
	(1) 教育課程	4
	(2) 本校舎と第二キャンパス	6
	(3) 社会自立・職業自立に向けた進路指導の取組	8
4	本研究主題によるこれまでの取組	
	(1) 1年目（平成22年度）の取組	11
	①専門教科の充実	
	②サービスの活動を取り入れた新しい専門教科の実践	
	(2) 2年目（平成23年度）の取組	13
	①自立へのステージアップ表の作成と活用	
	②ワークショップ型授業研究会の実践	
5	今年度の実践	
	(1) 内容と方法	15
	(2) 研究組織	16
	(3) 研究計画	16
	(4) 平成24年度研究講師	17
6	研究結果	
	(1) キャリア発達を促す専門教科の取組	17
	①園芸技術科農業コースの実践	18
	②園芸技術科園芸コースの実践	20
	③工業技術科木工コースの実践	22
	④工業技術科窯業コースの実践	24
	⑤工業技術科成型コースの実践	26
	⑥生活技術科縫製コースの実践	28
	⑦生活技術科手芸コースの実践	30
	⑧福祉・流通サービス科福祉サービスコースの実践	32
	⑨福祉・流通サービス科流通サービスコースの実践	34
	(2) 「キャリア・チャレンジ」（学校設定教科）の実践	36
7	考察	
	(1) キャリア発達を促すポイントを明らかにした授業実践	41
	(2) 3年間の系統的・段階的・発展的な教育活動の構築	42
	(3) 「キャリア・チャレンジ」（学校設定教科）の取組について	43
8	まとめ	
	キャリア発達を促す授業のあり方とは	44
9	今後の課題	45
10	関係資料	46

1 テーマ

(1) 研究主題

キャリア発達を促す専門教科のあり方 ～自立へのステージアップを促す授業改善～

(2) 主題設定の理由

本校は、職業学科を置く高等部単独の特別支援学校として「社会自立・職業自立」を目指す教育の充実を目標にしている。これまで、「キャリア発達」を促す支援の工夫に焦点を当てた実践的な研究を進め、「自立」のためのよりよい支援のあり方を追求しながら「キャリア教育」の実践を深めてきた。キャリア教育は全ての教育活動を通して実施しているが、特に中核をなすのは「専門教科」の授業であり、その授業数は週11～15時間、3年間でおよそ1300時間にも達する。本校の専門教科の特色は、各専門コースに分かれて行う「もの作り」と「サービスの活動」で、それらの活動を通して「働く力」の基礎・基本の定着を図っている。その活動は専門的な知識・技能の習得に加えて、働くことの意義や大切さの理解を促し、「労働意欲」や「態度」を伸長する「心の教育」にも力を注いできた。

平成22年に第二キャンパスを開設し、新学科（福祉・流通サービス科）の設置とともに120名の新入生を迎え入れた。大幅な定員増と予想されるニーズの広がり、新学科の開設などを背景に、次の二点が課題として明らかになった。①本校舎・第二キャンパスの2つの校舎での教育課程づくり、②新しい職業教育の構築である。

①本校舎・第二キャンパスの2つの校舎での教育課程づくりでは、大幅な定員増に対応すること、生徒のニーズの広がりに関わった実践を進めること、新しいキャンパスでもこれまで以上にキャリア教育を推進すること、第二キャンパス（1・2年生）の活動から本校舎（3年生）への系統的かつ発展的な活動を構築することを主な課題とした。

②新しい職業教育の構築では、120人体制における専門教科を充実すること、新学科「福祉・流通サービス科」を立ち上げてサービス主体の専門教科を充実させること、これまで築いてきた「もの作り」と新しい「サービス」の活動を取り入れた専門教科を充実・改善することを主な課題とした。

課題解決を進め、新しい時代や環境に対応するためには、これまで実践してきた専門教科の取り組みを充実し、専門教科の取り組みをベースに教育活動全体の充実を図ることが重要であると考え。専門教科の充実を図るとともに、専門教科の実践を「キャリア発達の視点」から改善することで、より発展的な取り組みにしていくことができる。本研究では、専門教科の授業改善と支援の工夫に焦点を当て、学校の教育活動全体の土台を固めていきたい。そして、新しい時代や新しい環境に対応したキャリア発達を促す専門教科のあり方を明らかにすることで、本校のキャリア教育をさらに充実していきたいと考える。

2 目的

生徒一人一人のキャリア発達のために、実態の的確な把握、共通理解、授業改善と支援方法の工夫により、生徒が主体的に「社会自立・職業自立」へ向かう環境を整え、一人一人のステージに合わせた支援を行う。

3 本校の概要

(1) 教育課程

① はじめに

本校は、知的障害者を対象とし、職業に関する専門学科を設置する高等部のみの定員制の特別支援学校である。既存の「農業」「工業」「家政」に関する学科に加え、平成22年度より「福祉」「流通・サービス」に関する学科を設置し、4学科9コース体制となった(図表1)。

また、定員も1学年45名(平成21年度のみ50名)から、現2・3年生は120名定員、現1年生から96名定員となり、今年度は全学年12クラス体制となって全校生徒数は333名となった(平成24年5月1日現在)。

本校の学校教育目標は、職業教育を推進し、社会自立・職業自立を図ることである。そして、本校の教育課程は、それを具現化するために、社会自立・職業自立に必要な知識・技能・態度の育成を図り、卒業後の就労を目指すものとなっている。

本校の教育課程は、ア 教科別の指導 イ 領域別の指導 ウ 総合的な学習の時間の3つによって編成している(図表2)。

図表1 専門教科コース一覧

学科	コース
園芸技術科	農業コース
	園芸コース
工業技術科	窯業コース
	木工コース
	成型コース
生活技術科	縫製コース
	手芸コース
福祉・流通サービス科	福祉サービスコース
	流通サービスコース

② 教科別の指導

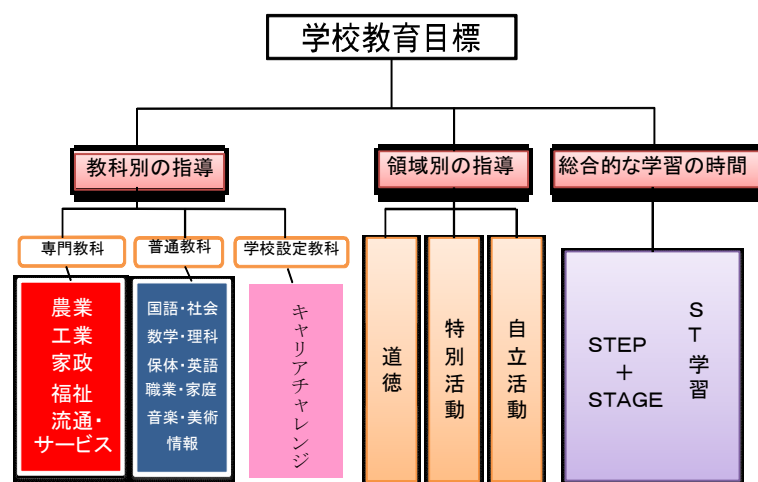
教科別の指導は、「専門教科」「普通教科」「学校設定教科」からなっている。日課表では、午前専門教科を各コースで行い、午後は普通教科をクラスごとに実施している。学校設定教科は、3年のみに週1日設定し、2学科ごとに実施している。

(図表3)

専門教科は、専門実習を中心に行い、生産計画から販売に至るまでを学習活動として、働くための基礎・基本の育成を目指して取り組んでいる。専門教科の授業時数は、1・2年生で週15時間、3年生で週11時間を設定し、本校のキャリア教育・職業教育の中核をなす教育活動である。「園芸技術科」「工業技術科」「生活技術科」では「もの作り」の実習を中心に、「福祉・流通サービス科」では「サービス」の実習を中心に、学校として「もの作り」と「サービス」を共存させながら、「社会自立・職業自立」を目指した教育活動を行っている。

普通教科は、自立に必要な知識や技能を身に付けるとともに、学習意欲の向上を目指し、教科の目標にそった年間指導計画により、キャリア発達の視点を踏まえながら計画的に指導している。

図表2 本校の教育課程



図表3 週日課表

週日課表(3年)

	月	火	水	木	金
1	道徳	専門教科	専門教科	キャリア・チャレンジ (学校設定教科)	総合
2	専門教科				家庭
3					
4					
5	保体	国語	数学		HR
6	美術	職業	保体		自立活動
7	理科	社会	英語/情報		音楽

「キャリア・チャレンジ」(学校設定教科)は、今年度より3年生に設定した教科である。詳細については後述するが、地域や企業等と連携・協働した教育活動を通して、キャリア発達を促す教科である。

③ 領域別の指導

領域別の指導の、「道徳」「特別活動」「自立活動」は、日課表にも位置付け、指導にあたっている。

道徳は、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を高めることをねらい、生徒の特性や発達段階を踏まえた資料を使用している。

特別活動では、「ホームルーム活動」「生徒会活動」「学校行事」でのさまざまな集団活動を通して、より良い学校づくりに参画し、望ましい人間関係づくりや、協力して課題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てることを目指している。

自立活動では、特に「人間関係の形成」や「コミュニケーション能力」の育成に重点を置き、指導・支援を行っている。

④ 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間は、本校では「ST学習」と呼んでいる。一人一人が自らの step を乗り越えながら、次の stage へと進む学習であることから、共通する「ST」の文字をとって「ST学習」を名付けた。「ST学習」は、生徒がふだんの学習で学んだことを応用・実践しながら、自ら設定した課題を解決するための学習である。学級集団で共に課題について考えることを通して問題解決の力を培うとともに、「働くことの大切さ」や「将来の生活」などについて考えていけることを目指している。自分が将来「こうありたい」「こうなりたい」という「願い」や「夢」「希望」を大切にし、これまでの自分を振り返ったり、今後の自分はどうか進んでいくのか考えていったりする学習を行い、自己のあり方・生き方を考える力を培うことで、生徒一人一人のキャリア発達を支援している。



(2) 本校舎と第二キャンパス

① 第二キャンパス開設の経緯と概要

第二キャンパス開設の背景には、特別支援学校の在籍幼児児童生徒数の増加があげられる。平成9年度から年々増加しており、ここ10年間で、約1、500人増加している。（県立特別支援学校整備計画 H23.3 千葉県教育委員会）特に知的障害のある児童生徒数の増加が著しく、校舎の増築や特別教室等の普通教室への変更等の対策で、特別支援学校の過密化に対応してきた。

平成19年3月に策定した「千葉県特別支援教育推進基本計画」においては、児童生徒増による特別支援学校過密化の解消と、就労を目指す高等部生徒の職業的自立を図る教育を充実するために、県内の高等学校の空き校舎や余裕教室等を活用して、特別支援学校の分校等の設置について検討を進めることとなった。

また、主として職業的自立を目指す、知的障害のある高等部段階の生徒を対象に、分校等を整備し、教育環境の充実を図ることとした。さらに、入学志願者の多い本校は定員を見直すこととなった。

具体的には、平成24年度現在、柏特別支援学校流山分教室（流山高等学校内）、市原特別支援学校つるまい風の丘分校（鶴舞桜が丘高等学校グリーンキャンパス内）、我孫子特別支援学校清新分校（沼南高柳高等学校内）、流山高等学園第二キャンパス（旧流山東高等学校跡施設）、市川大野高等学園（旧市川北高校跡施設）、印旛特別支援学校さくら分校（佐倉南高等学校内）が開設した。

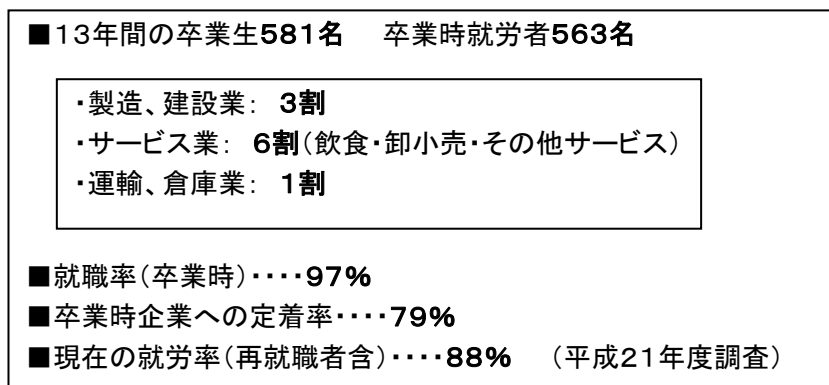
② 第二キャンパス開設に伴う新学科設置のねらい

第二キャンパスを開設するに当たって、新たに「福祉・流通サービス科」を設置した。この学科は、平成21年に告示された特別支援学校高等部学習指導要領で示されている専門教科「流通・サービス」と「福祉」を学習する学科である。

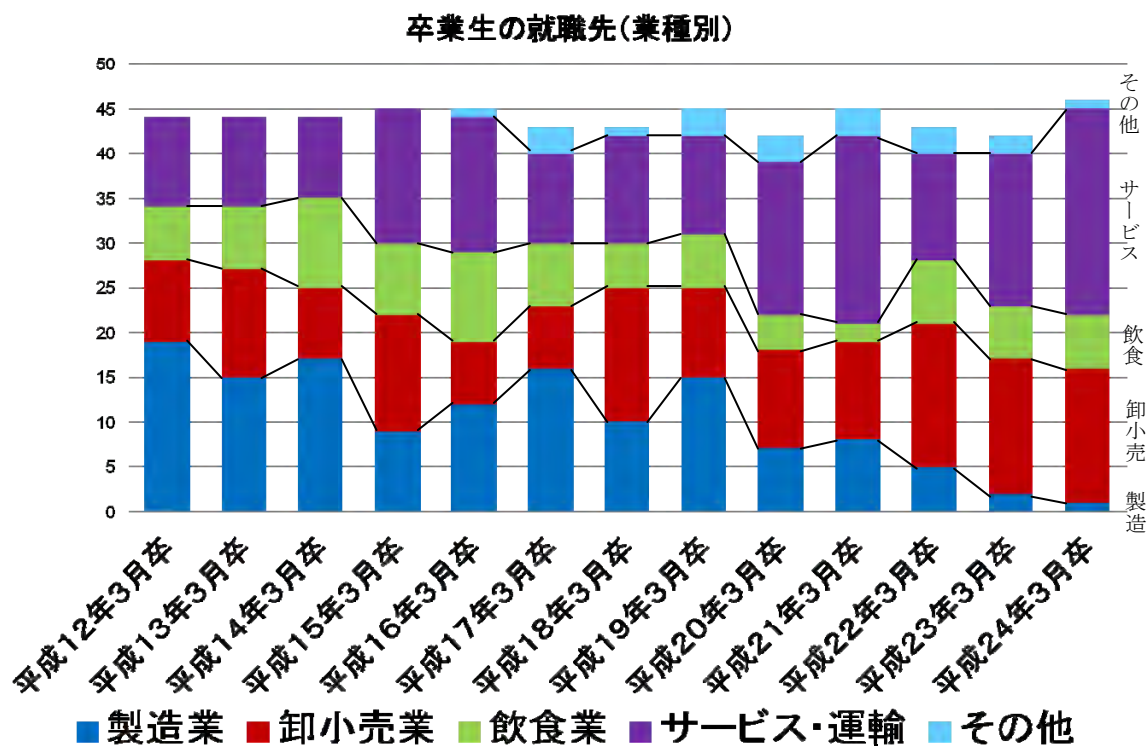
学科新設の背景には、障害者の就労先の変化があげられる。これまで知的障害者の就労先は製造業の割合が高かった。本校でも、「もの作り」を中心とした専門教科の学習を通して、働くための知識・技能・態度の育成を図り、高い就職率を保ってきた。（図表4）しかし、産業構造の変化に伴い、第三次産業への就労割合が高くなり（図表5）、時代の流れに合わせた専門学科の設置が重要と考えられるようになってきた。そこで、第二キャンパス開設に伴い、第三次産業に対応した「福祉・流通サービス科」を設置し、社会福祉や流通・サービスに関する基礎的・基本的な知識・技能の習得と態度の育成を図り、円滑な就労を目指すこととした。



図表4 本校におけるこれまでの企業就労



図表5 卒業生の就職先（業種別）



③ 本校舎と第二キャンパスの活動

本校舎と第二キャンパスの活動は、基本的に学年別としている。1・2年生が第二キャンパス、3年生が本校舎を主生活の場とし、専門教科や各教科等の授業に取り組んでいる。

本校は、これまで生徒の「先輩・後輩の関係」を活かした特色ある授業作りを進めてきた。専門教科では、3年間同一の専門コースに所属して学び、上級生が下級生の手本となる体制をとってきた。上級生が作業内容を下級生に伝えながら活動を進め、具体的な生産技術や技能を教えるなど、実社会で見られる組織の関係を授業の中に組み込むことで、対人関係の伸長、役割や責任を遂行することによる自信へとつなげている。このような取り組みは、第二キャンパス1・2年生の活動でも引き継がれ、生徒一人一人が働く力の基礎・基本を身に付けるとともに、働くことへの「自信」を積み重ねている。3年生は、本校舎での発展的な活動を通し、第二キャンパスで身に付けた働く力の基礎・基本をより確かなものに磨き上げていく。第二キャンパスの開設とともに、これまでの流山高等学園の実践を引き継ぎながら、さらに特色ある教育活動の実践に取り組んでいる。

1・2年生で身に付けた働く力の基礎・基本をベースに、3年生ではより発展的な活動に取り組み、地域と連携・協働した活動にもチャレンジすることで「自立」への力を確かなものにしていきたい。また、本校舎と第二キャンパス2つの校舎ができたことによる新しい環境を活用し、3年間の系統的かつ発展的な活動内容を明らかにして実践することで、生徒一人一人のキャリア発達を確実にしていきたい。

(3) 社会自立・職業自立に向けた進路指導の取組

① 方針および目標

《基本方針》

- ・社会自立・職業自立を目指す職業教育を中心とした後期中等教育の場であることを踏まえ、生徒の能力や適性を客観的かつ十分に把握しながら、望ましい職業観を養う。
- ・保護者や関係機関と緊密な連携を図りながら、実践的な活動を通して職業人としての資質を育成するとともに、生徒一人一人の意思を大切にしながら、本人の適性にあった進路選択ができるよう支援・指導にあたる。

《1学年》

【主な内容：基本的生活習慣・療育手帳と障害受容・マナー・協調性・役割分担等】

生徒自身が望ましい将来像を意識すると同時に、社会生活に必要な体力・知識・技能・態度などの生活習慣を確立するよう支援する。また、社会自立に必要な基礎的な力を確実に身につけ、次学年からの産業現場等における実習に向けての準備を行う。

《2学年》

【主な内容：自分の適性・産業現場等における実習・働く場と生活の場等】

1学年で身につけた基本的生活習慣および職業準備の進捗状況を見極め、より実践的な学習を通じて能力の伸長を図るとともに、将来の進路先の見通しが持てるように支援する。また、産業現場等における実習での課題を日々の学習活動を通じて補い、卒業後の希望の実現に向けての筋道を確実なものとする。

《3学年》

【主な内容：自分の適性と希望する進路先・卒後の相談機関・離職時の対応等】

卒業後の生活を意識し、社会自立・職業自立に必要な体力・知識・技能・態度を確実な

ものにするとともに、社会人としての望ましい姿を意識することができるよう支援する。
また、卒業予定者全員が希望の進路先へ進むことができるよう、全ての場面において最善の方策を尽くすとともに、個別移行支援計画を策定し、卒業後の生活につなげる。
なお、本人自身の課題の達成状況によっては就労支援施設への移行等、本人の適性に応じた進路先の確保に努める。

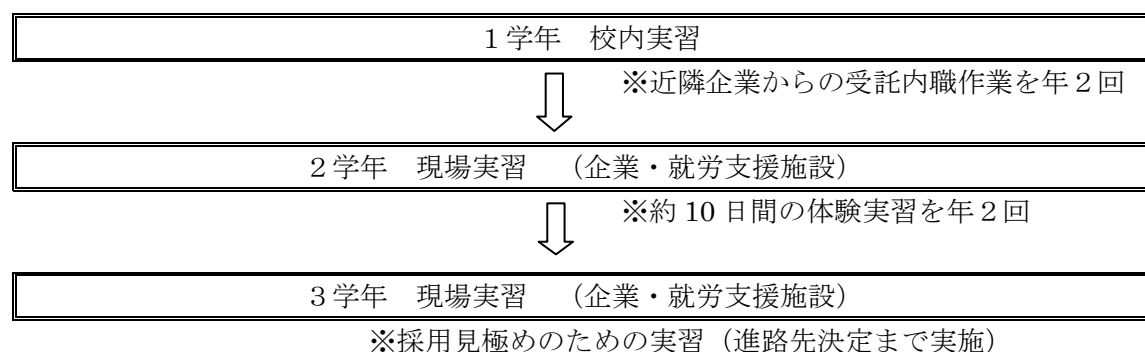
《卒業生》

社会人としての生活状況を的確に把握し、進路先の一員として定着していけるよう支援する。特に卒業後3年目までの卒業生については、訪問支援等を計画的に行い、進路先での定着状況を把握しつつ、必要な支援を実施するとともに、地域の就労支援機関等とのパイプをより緊密にして緩やかな移行を図る。また、KOYOクラブ（保護者の会）とも連携しながら、卒業4年目以降の卒業生からの相談にも対応し、支援機関の紹介等の支援を行う。

図表6 各学年の目標

	第1学年	第2学年	第3学年
	基本的生活習慣の確立	社会性の向上	適正な職業観の獲得
クリ ア 項 目	《基本的生活習慣》 挨拶・生活習慣・身だしなみ 《意思交換》 日常会話・返事 《体力等》 労働に耐えうる体力	《基本的生活習慣》 挨拶・時間の意識・衛生 《意思交換》 返事・報告 《体力等》 体力・集中力・健康管理	《基本的生活習慣》 挨拶・主体的な生活・責任感 《意思交換》 報告・相談・意思の伝達 《体力等》 体力(長時間労働)・健康管理

② 実習の取り組み



- ・実習先は、生徒・保護者の意向を踏まえ、校内で十分に検討した上で決定。
- ・発達段階（本人の成長の様子）や適性に応じた実習先を推薦。

③ 職員の取り組み

ア 職場開拓

通年職場開拓	年間を通じた職場開拓	進路指導担当職員
春季 〃	修学旅行週間	進路及び担任・副担任以外の3学年職員
夏季 〃	夏季休業中	全職員
年度末 〃	卒業式後	進路指導担当＋3学年職員

イ 保護者向け進路説明会・研修会等の実施（PTAと連携）

ウ 企業向け学校見学会の実施

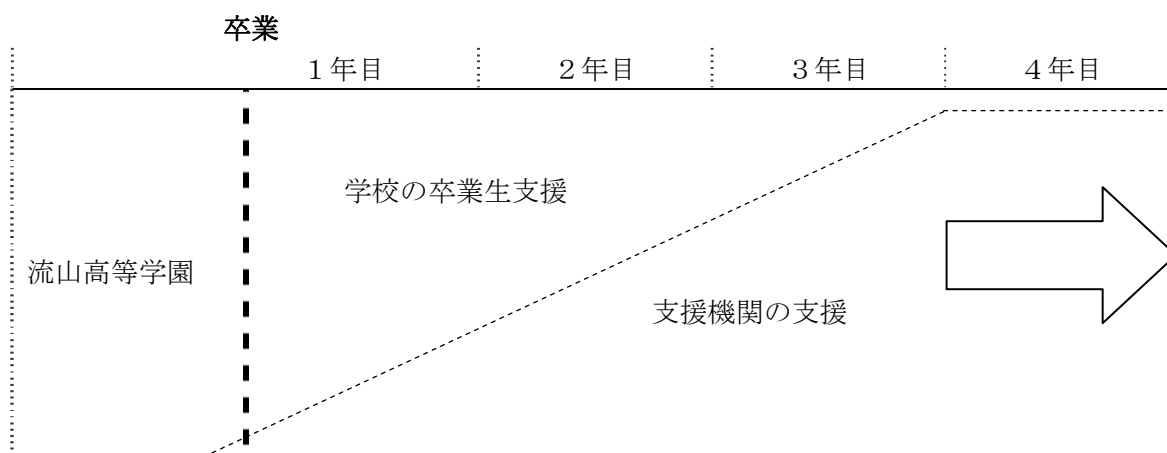
エ 移行支援（図表7）

- ・個別移行支援計画の作成
- ・障害者就労支援センター等への登録と緩やかな移行
（支援機関職員との面談や移行支援ケース会議の実施）
- ・必要に応じて生活支援センターへ相談
- ・進路先事業所への適切な引き継ぎ

オ 卒業生支援

- ・卒業生が進路先へ定着できるように、地域にある関係機関と緊密な連携を保ちながら定着支援を行うとともに、支援機関への緩やかな移行を図る。
- ・卒業生の定着支援を行うことにより、社会へ出た後に起こる諸々の問題を把握し、在学中の教育内容にも反映する。
- ・卒業生が就業している企業を訪問することにより、採用計画を把握する。

図表7 支援機関への移行の推移



4 本研究主題によるこれまでの取組

(1) 1 年目（平成 22 年度）の取組

① 専門教科の充実

本研究主題 1 年目の平成 22 年度は、第二キャンパスの開設、定員の増員、学科の新設と、新しいスタートを切る大きな節目の年度であった。副題に「第二キャンパス開設に伴う新しい職業教育の構築を目指して」を掲げ、幅広いニーズをもつ生徒一人一人の実態に応じた授業づくりと、定員増や新学科・コース開設に対応した授業づくりを各コースで検討及び実践することが主な研究内容であった。流山高等学園では、これまで「キャリア発達の視点」や「人間力を高める教育実践」について研究を深めてきた。ここで明らかにした流山高等学園が考える人間力「はたらく生きがいを見つけ、主体的に参加しながら自立していくための力」や、「人間力につながる五つの要素」（コミュニケーション能力、体力、生活力、知識・技能、問題解決力・実践力）は、本校教育目標である「社会自立・職業自立」に必要な力である。本校が実践する「キャリア教育」とも関係が深い。また、これまでの実践・研究の成果を生かし、働く力の基礎・基本として「人間力につながる五つの要素」を、コミュニケーション能力、体力、生活力、知識・技能、問題解決力・実践力とし、本校におけるキャリア教育の中核である「専門教科」の取り組みにあらためて焦点をあてた。「専門教科」の実践を見直し、本校教育活動の土台であることを再確認することで、「社会自立・職業自立」に向けた指導・支援の充実を図り、第二キャンパス開設に伴う諸課題の解決と新しい職業教育の構築を目指した。

本校の「専門教科」は、これまで「ものづくり」中心の活動を通して「働く力」の基礎・基本の定着を図ってきた。開校から 13 年間の卒業生は 581 名で、そのほとんどが企業就労している。卒業生の就労率（平成 24 年 2 月現在で企業に就労している卒業生の割合）は 8 割と高い数値を示し、本校の教育は生徒一人一人の社会自立・職業自立につながっているとと言える。本校専門教科の特徴は、「生徒が主体」となった授業づくりで、以下の点を大切に授業を展開している。

- ・ 生徒が進んで取り組める状況を作る。
- ・ 集団・個人で目標をもち、課題に取り組み、責任をもって仕事の完遂を目指す。
- ・ 対人関係の伸長を意識した場面の設定を行う。
- ・ 集団の力を発揮し、達成感や充実感を共有する。
- ・ 専門教科として、完成度が高い、価値ある製品作りを通して、実社会に近い活動を組織する。
- ・ 規律（ルール）ある学習環境を整える。

また、体験的に学習する場面を段階的に設定し、具体的な働く経験の中での学習の積み重ねを重視してきた。第二キャンパス開設では、大幅な定員増と予想されるニーズの拡大に対応した授業展開が課題となったが、これまでの実践を生かし、生徒数増や生徒の実態に合わせた工夫を加えることで、専門教科の授業はうまく軌道に乗った。新しい教室に慣れるより早く、専門教科の授業では流山高等学園の伝統的な授業が展開されていった。こうした専門教科の取り組みが教育活動全体の土台となり、新しいキャンパスの活動を早い時期から整えていくことができたと考える。

② サービスの活動を取り入れた新しい専門教科の実践

第二キャンパス開設と同時に、新学科「福祉・流通サービス科」を設置した。「福祉・流

通サービス科」は、「流通サービスコース」と「福祉サービスコース」の 2 つのコースから成り立っており、各コースの学習内容は次のように設定している。(図表 8)

図表 8 「福祉・流通サービス科」各コースの主な活動内容

流通サービスコース
○商品管理 ・本校生産物の管理 ・販売活動 ・伝票作成 ・企業と連携した活動 など
○事務サービス ・注文名刺の作成 ・宛名印刷 ・封筒作り ・文書の電子化 ・データ入力 ・外部講師によるパソコン講座
○クリーンサービス ・基本的な清掃技術の習得と実践 ・校内、校外での清掃活動 ・外部講師による清掃講座 ・清掃検定 ・定期清掃
福祉サービスコース
○福祉実習（介護） ・社会福祉に関する学習と基礎介護技術の習得 ・タオル、シーツ等リネン関係 ・外部講師による講義と演習
○福祉実習（家事援助） ・家事全般の学習と家事援助技術の習得
○接客実習 ・第二キャンパス内の喫茶店「n CAFE BAKERY」での接客サービス
○パン製造 ・パン作り

新設した「福祉・流通サービス科」は、サービスを主とする学習活動を展開する学科であるが、これまでの「もの作り」を通して確立してきた職業教育の実践と目指すものは同じである。新設学科の学習内容はどれも新しいものばかりであるが、実際の授業を組み立てていく過程では、「生徒が主体」となった授業作りなど、これまでの実践で得た成果を役立てていくことで「働く力」の基礎・基本を身につける学習活動を構築していくことができた。

平成 22 年度は、文部科学省委託事業研究の特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究『『時代に合った新しい専門教科の取組』～販売・流通の充実に向けて～』のまとめの年度でもあった。研究では、「流通サービスコース」の商品管理の実践から、実際の製品を扱い、現実度の高い学習活動を構築したことで、生徒が役割や責任を持ち、仕事を遂行していくことによる自信へとつながっていく取り組みを明らかにした。報告書では、サービス主体の活動でも、成功体験や充実感、成就感を体験するような活動を準備し、評価方法や支援方法の工夫で意欲や達成感を得るような実践が大切であることを明らかにした。

(2) 2年目（平成23年度）の取組

① 自立へのステージアップ表の作成と活用

2年目から、副題を「自立へのステージアップを促す授業改善」に変更した。専門教科に焦点を当てた研究を継続したが、1年目で新キャンパスの土台となる授業展開ができたので、2年目からは授業改善を目指した取組へと進展することとした。生徒が社会自立・職業自立する力をつけていく過程をステージととらえ、生徒が主体的に自立へと近づいていくことをステージアップとし、生徒の自立を支援できるような授業改善を目指した。

自立へのステージアップ表は、一人一人へのより適切な支援と、専門教科の授業をキャリア発達の視点で捉えて授業改善に生かすことをねらい、作成を進めた。「働く力の基礎・基本」である「コミュニケーション能力」「体力」「生活力」「知識・技能」「問題解決能力・実践力」の5つの要素に分類して発達課題をまとめ、全部で26項目の発達課題を明らかにし、それぞれに5段階のステージを設けた。（図表9）

図表9 自立へのステージアップ表

自立へのステージアップ表								
学年 組			記入日		評価者名			
年 組			平成 年 月 日					
働く力基礎基本5項目	中項目	小項目	具体的項目		ステージ			
コミュニケーション能力 (A)	対人スキル	あいさつ	自分からあいさつすることができる		1	2	3	4
		返事	返事ができる		1	2	3	4
		謝罪	自分から、失敗を謝ることができる		1	2	3	4
	謝意	お礼	自分から、相手に感謝の気持ちを伝えることができる		1	2	3	4
		報告・連絡	自分から、報告・連絡できる		1	2	3	4
	報告等	質問・相談	自分から、質問・相談できる		1	2	3	4
		意思表示	自分から、好き・嫌い、同意・不同意を他者に伝えることができる		1	2	3	4
体力(B)	遂行力	集中力	集中して作業に取り組める		1	2	3	4
		忍耐力	途中で投げ出さず、作業に取り組める		1	2	3	4
生活力 (C)	モチベーション	意欲	働く理由、動機がはっきりしているか、働きたいと思っている		1	2	3	4
		積極性	積極的に作業に取り組むことができる		1	2	3	4
		身だしなみ	清潔な服装ができる		1	2	3	4
	生活習慣	髪・爪など	ひげそりや、爪切りができています		1	2	3	4
		共同作業	共同作業ができる		1	2	3	4
知識・技能 (D)	協調性	ルール理解	きまりを守ることができる		1	2	3	4
		厳密性	細かい作業ができる		1	2	3	4
	作業スキル	正確性	正確な作業ができる		1	2	3	4
		効率性	工夫しながら作業することができる		1	2	3	4
		生産性	慣れると作業スピードが上がる		1	2	3	4
	理解力	指示の理解	口答での指示が理解できる		1	2	3	4
		スケジュールの理解	本日の作業内容等が理解できる		1	2	3	4
	マナー	言葉遣い	丁寧な言葉遣い		1	2	3	4
問題解決力・実践力 (E)	問題解決	状況判断	自分で状況判断しながら作業ができる		1	2	3	4
	安全管理	危険認知	危険を認知し、回避することができる		1	2	3	4
		安全管理	周りにの人に危険がないよう、配慮して作業できる		1	2	3	4
	清掃	清掃作業実行力	一人で先を見通して清掃作業ができる		1	2	3	4

評価は以下の4段階を参考に行います

1…できない(できていない) 2…あまりできない(あまりできていない) 3…だいたいできる(だいたいできている) 4…できる(できている)

この自立へのステージアップ表は、生徒の実態を捉え、支援の手立てを工夫する基礎資料として活用した。その際に職員で共通理解したのは、この表は生徒の長所を大切にすることで、弱い部分や抜け落ちている部分のみに着目し、集中的に指導を行う形式は取らないということである。例えば、「知識・技能」の中の生産性・効率性がステージ1であっても、就職可能な生徒もいる。弱い部分の把握をし、成長を促すが、それ以上にステージ3以上の成長が見込める部分や、個人の得意な部分をさらに伸ばさせるという視点を大切にしていきたい。

ステージアップ表は、生徒のアセスメントからニーズの明確化と共通理解を図るものである。大きな活用方法としては、学習指導案の生徒の実態の欄に添付するようにした。ここでは、生徒の共通理解が進んだ反面、この表では浮かんでこない課題等も浮き彫りになり改良が必要であることがわかった。さらに、この基礎資料が個別の教育支援計画や個別の指導計画にも応用できないかという意見もあり、今後の検討事項となった。

② ワークショップ型授業研究会の実践

1 学年の生徒定員が 50 名から 120 名に増員となり、教職員も大幅に増え、およそ 3 分の 2 が新しく赴任した教職員となった。本校教育活動の中核となる専門教科の授業を深めていくために、教職員同士が主体的に意見を交わせるような環境作りをしていくこととした。そこで、平成 22 年度より「ワークショップ型授業研究会」の取組をはじめた。

ワークショップ型授業研究会は、専門教科の研究授業後に開催し、研究授業の振り返りを行う取組である。本研究会の目的は次の 4 点である。

- ・ 参観者が主体的に参加し、活発な意見交換を行う。
- ・ 課題解決に向けて、職員全体で取り組む体制を作る。
- ・ 成果と課題の集約化を図る。
- ・ 全体で共有化を図り、参加者全員の授業改善に活かす。

研究授業の参観者は、授業を見ながら、学習指導案に明記してある「参観の視点」(各コースで明らかにした授業のポイント)に沿って付箋紙に気づいた点を記入する。(付箋を書くときの約束について図表 10 参照) 記入した付箋は、研究協議会で使用する。

図表 10 付箋を書くときの約束

研究授業参観の視点に即した意見・感想を書く 青色の付箋・・・教師の指導方法、手立ての効果(+)や課題(-) (手立てについての成果、学んだ点、感心したこと、工夫が見られる点、良さ、課題についての改善案など) 黄色の付箋・・・生徒の様子、活動状況の成果(+)と課題(-) (生徒の指導方法や手立てがどう生きていたかなど)	
横書き 大きな字 (2行程度) 名前	・ のりが着いた部分が上。横書き。 ・ 1つの付箋に1つの事柄を記入。 ・ 書いた人の名前を右下に記入。 ・ どんな気づきでもよい。自由な発想で書く。 ・ 大きな字で簡潔に書く。 ・ ボールペンかサインペンで書く。 ・ 課題だけでなく、良い点や改善策も書く。

研究協議会は以下のように進める。

ア 研究協議の進め方について説明する。

イ 授業のねらいや反省等の発表(簡潔に)。

ウ 小グループに分かれて授業分析、成果と課題についての協議。ファシリテーター(進行役)とグラフィッカー(グループ配布の模造紙へ記録とイメージ図の作成を行う。)

エ 各グループの発表

オ 全体協議

カ 助言者による講評とまとめ

ワークショップ型授業研究会は、専門教科 9 コース全てで開催した。各研究会ともに活発な意見交換が行われた。課題解決に向けて職員全体で意見交換をすることができ、成果と課題の集約化と共有化が図れた。

5 今年度の実践

(1) 内容と方法

① キャリア発達を促すポイントを明らかにした授業実践と授業改善

内容	・専門教科各コースにおいて、キャリア発達を促すポイントを明らかにし、研究授業を開催する。 ・授業改善を進める。
方法	・各コースでキャリア発達を促すポイントを明らかにする。 ・各コースでキャリア発達を促すポイントを明記した学習指導案を作成し、研究授業を開催する。 ・アセスメントに「自立へのステージアップ表」を活用する。 ・ワークショップ型授業研究会を開催する。 ・研究会の内容をまとめる。 ・授業改善シートを作成する。

② 3年間の系統的・発展的な教育活動の構築

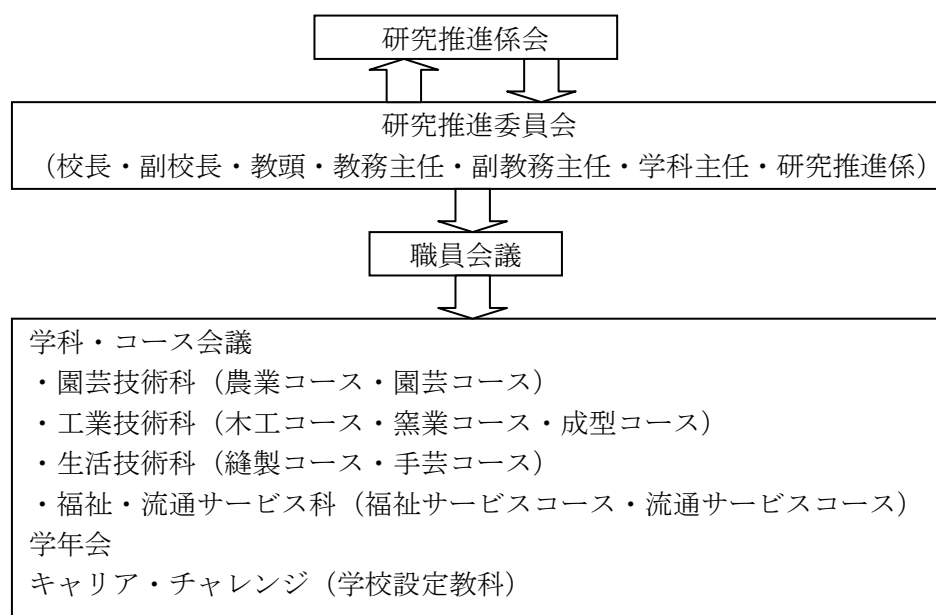
内容	・専門教科各コース3年生の活動について発展的な取り組みを明らかにする。
方法	・専門教科各コースにおいて、3年間の活動を整理する。 ・3年生の発展的な活動を明らかにする。 ・研究授業では、本校舎と第二キャンパスそれぞれで学習指導案を作成し、1・2年生の活動と3年生の活動の系統性・発展性を明らかにする。 ・3年間の系統的・発展的な活動を整理する。

③ 地域社会と連携・協働したキャリア発達のための実践

内容	・「キャリア・チャレンジ」（学校設定教科）の取組について、キャリア発達を促す実践としてのねらいを明らかにし、実践の成果や課題点をまとめる。
方法	・「キャリア・チャレンジ」（学校設定教科）の実践を行う。 ・実践のねらい、内容等について整理する。 ・実践の検証とまとめを行う。



(2) 研究組織



(3) 研究計画

月	研究推進係・研究推進委員会の活動	研究計画
4	・年間計画の作成	・年間計画の検討 ・専門教科授業計画の作成
5 ・ 6 ・ 7	・ステージアップ表の活用について検討 ・生徒のアセスメント・評価方法の検討 ・校内授業研究会の持ち方の検討、提案	・専門教科の授業実践 ・キャリア・チャレンジ (学校設定教科) の実践
8		・校内研修会 (8 / 21) 「キャリア教育と キャリアカウンセリング」 講師：立教大学 特任教授 渡辺三枝子先生
9	・公開研究会企画・提案	・校内研修会 (9 / 27) 「キャリア発達を促す支援について」 講師：国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 菊地一文先生

10 ・ 11	・校内授業研究会の運営 ・授業改善シートの検討	・校内授業研究会の開催 ・生活技術科授業研究会 10/12 (縫製コース、手芸コース) ・福祉・流通サービス科授業研究会 10/17 (流通サービスコース、福祉サービスコース) ・工業技術科授業研究会 10/24、25 (木工コース、窯業コース、成型コース) ・園芸技術科授業研究会 10/30 (農業コース、園芸コース)
12	・公開研究会の運営	・公開研究会（12／13）
1	・研究紀要「実践のあゆみ」作成	・研究のまとめと授業改善シートの作成 (各コース)
2	・研究のまとめと今後の方向性について	
3	・研究資料整理 ・研究紀要の発送	

（４）平成２４年度研究講師

	所属・氏名	招聘時期
①	国立特別支援教育総合研究所 教育支援部 主任研究員 菊地 一文氏	校内研修会 公開研講師
②	京都市教育委員会 指導部 総合育成支援課 専門主事 （前京都市立白河総合支援学校校長） 森脇 勤氏	公開研究 分科会助言者 講演会講師
③	立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科 特任教授 渡辺 三枝子氏	校内研修会 講演 公開研究会 全体講師 分科会助言者
④	千葉県教育庁特別支援教育課 指導主事 小倉 京子氏	公開研究会 分科会助言者
⑤	静岡大学教授 静岡大学教育学部附属特別支援学校校長 渡辺 明広氏	公開研究会 分科会助言者

6 研究結果

（１）キャリア発達を促す専門教科の取組

① 園芸技術科 農業コースの実践

「キャリア発達を促す」農業コースの取り組み

達成目標を段階的に明らかにし、自分で目標を立てて仕事に取り組むことでキャリアアップが実感できる取り組みを進め、「企業で働き続ける力」を育てる農業コースの実践。

1 コースの概要

A・B・Cの3つの目標別グループを編成し、1年生～3年生までの縦割りグループで作業している。Aグループは、現段階ではほぼ企業就労できると思われる生徒が所属している。（1年生2人、2年生3人、3年生6人の計11人）その日の作業内容に応じて、各畑で1・2年生と3年生が合流して活動している。

2 ねらい・目標

＜農業コース目標＞「企業で働き続ける力を育てる」

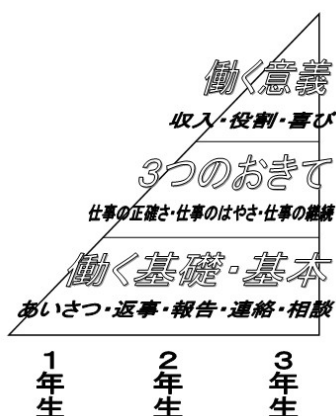
- ①働くための基礎・基本を身につける。（挨拶・返事・報告・連絡・相談）
- ②責任を持って仕事に取り組む力を身につける。（仕事の正確さ・はやさ・継続）
- ③働く意義を理解し、意欲を持って、我慢強く、働く力を身につける。

＜Aグループ目標＞「企業でよりよい仕事ができる力をつける」

3 キャリア発達を促すポイントについて（キャリア発達の視点における授業改善方針）

農業コースは学年ごとに左記の通り、学年ごとの達成目標を設定している。それに基づき、

農業コース 達成目標



各作業におけるキャリア発達を促すポイントについて検討している。

＜Aグループ「食品加工して販売しよう」の場合＞

1年

仕事に必要なコミュニケーションの力が育つように、工程の引継ぎの際に言葉を添える場面を設け、お互いに気持ちよく仕事に取り組めるようにする。

2年

仕事を正確に、はやく行い、継続できる力が育つように、加工の手順や方法において基準をつくり、仕上げる量（目標）を明確にする。

3年

働くことへの自信をつけられるように、写真入りの手順・加工基準表を用意し、自分から仕事に取り組み、自分の役割を果たせるようにする。

4 取り組みの成果

写真入りの手順・加工基準表を用意することで、自分で考え、自分で判断し、自分から取り組めるようになってきた。また、切り干し大根の長さの基準、仕上げる量（目標）を明確にすることで見通しを持って進んで作業するようになってきた。

5 課題

- ・基準表を見て、仕上がり具合をチェックするが、より厳密にチェックするにはどうしたらよいか。
- ・工程を引き継ぐ際など、場に応じた言葉かけをどう身につけていくか。
- ・仕上がり具合で袋詰めに時間がかからないように、どう効率よく行っていくか。

授業改善シート

学年	Aグループ (1年、2年、3年)	場所	本校調理室	単元の目標	○報告・連絡・相談をしながら、収穫・調整・食品加工に取り組む。 ○ていねいに、効率よく、休まず続けて、収穫・調整・食品加工に取り組む。 ○収穫の喜びを味わうとともに、販売会を通してお客様に喜んでいただくことで、働く喜びを感じる。
コース名	農業	指導者	鈴木一弘 鎌田崇史 山形敏明		
単元名	「秋冬野菜の収穫及び 食品加工して販売しよう」			キャリア発達を促すポイント	○働くことへの自信をつけられるように、写真入りの手順・加工基準表を用意し、自分から仕事に取り組む、自分の役割を果たせるようにする。

現状と課題
(現状) ○調理室の他、農業実習室でも行うことがあった。 ○曲がった大根を使用することが多かった。 ○切り干し器を手で支えるが道具が動きやすかった。 (課題) ○衛生面での配慮が足りないのではないか。 ○おろした大根の長さがまちまちで、お客様にとっては調理しづらいのではないか。 ○切り干し器が動きやすく、作業しづらいのではないか。 ○動線を整理すると、より作業しやすいのではないか。
自立へのステージアップ表との関連
○コミュニケーション能力(報告、連絡、質問、相談) ○知識・技能(効率性、正確性) ○問題解決力・実践力(状況判断)

現状の写真など before
  

改善点
○主な活動場所を調理室にした。 ○長さの基準を設け、切り干し大根の長さをできるだけ統一にした。 ○作業しやすいように切り干し器にストッパーをつけた。 ○おろした大根をうすく均一になるようにトレイの上に広げた。 ○写真入りの手順表を用意することで、自分から仕事に取り組めるようにした。 ○仕事が円滑に進むように、工程ごとに場所を決めた。

改善点の写真など after
  

改善後の生徒の様子
○衛生面に対する意識が向上した。 ○基準を設けることで自分自身で判断し、正確に作業しようとする様子が多く見られた。 ○作業がしやすくなり、効率性が上がった。 ○手順表を見て、自分で考えながら、作業を進めることができた。 ○自分の役割を最後まで果たす責任感と状況を見ながら作業する臨機応変さが身についてきた。 ○的確なコミュニケーションがとれるようになってきた。

②園芸技術科 園芸コースの実践

「キャリア発達を促す」園芸コースの取り組み

仲間と協力しながら自主的に取り組むことで、働くことの目的意識や意欲を育てる園芸コースの取り組み。

1 コースの概要

①組織（生徒42名、教職員12名）

- ・第二キャンパス・・・1年生12名、2年生15名、教職員8名
- ・本校・・・・・・・・3年生15名、教職員4名

②実習の内容

春夏咲きの花を約3万1,500株（含：ドライフラワー用）、秋冬咲きの花を約2万2,000株、種や苗から育てている。そのための活動として、土作りや苗移植、水やり、施肥、摘芯、枯れ花取り、苗整理等の作業を各学年共3グループに分かれて行っている。また、咲いた花の販売や納品、植栽などの活動や、ドライフラワーを使った製品も作っている。いずれの作業も3年間を見通した段階的で系統的な内容となっており、基礎基本から応用・発展的な活動ができるようになっている。

2 ねらい・目標

〈園芸コースの指導目標〉

- ・職業人、社会人として自立できる生徒の育成
- ・社会の流れや変化に対応できる生徒の育成
- ・社会のニーズに応えられる生徒の育成
- ・社会に適応し、自分らしく生きていくことができる生徒の育成



3 キャリア発達を促すポイントについて

〈キャリア発達の視点に立った平成24年度の授業改善(方針)〉

- ・自己決定やチャレンジする経験の導入
- ・緊張感やつまづき、それを乗り越える経験の導入
- ・「認められ」「役に立つ」ことが実感できる経験の導入
- ・仲間とのコミュニケーションを大切にし、みんなで達成感が味わえる経験の導入

以上の4つのポイントをふまえ、本年度は「植栽」活動において、「千鳥植え」から「寄せ植え」への転換（チャレンジ）を試みた。



4 取り組みの成果

新しい取り組み（「千鳥植え」から「寄せ植え」へ）にチャレンジすることにより、生徒個人の意欲や創造性、自主性、協調性を高めることができた。また、「寄せ植えづくり」に向けての話し合いや試行などを繰り返すことにより、生徒同士のつながりや信頼、忍耐力、集中力の向上につながった。さらに、「寄せ植え」に対して高い評価を受けたことにより、喜びや達成感を味わうことができ、自信や誇りをもつことができた。

5 課題

「寄せ植え」は目標設定が難しいため、個人の目標も設定しづらい。そのため作業に向けての自己調整や、作業後の自己評価が難しいところがある。

授業改善シート

学年	3 年	場所	おおたかの森駅周辺花壇	単元の目標	○花の生長に関心を持ち、一連の作業に意欲的に取り組むことができる。 ○ていねいで確実な作業に心がけ、効率よく作業するための方法や道具の扱い方を身につける。 ○仲間と協力し合い、最後まで粘り強くやり遂げようとする気持ちや、体力を身につける。
コース名	園芸コース	指導者	栃木輝秋 高木歩美 森千賀子 石井葉子		○自分たちで話し合っ考えた花壇のデザインをもとに、実際に寄せ植え植栽を行うことで、仕事をする喜びや達成感、社会で役に立っているという自信ややりがいをもつことができる。
単元名	地域の植栽を成功させよう			キャリア発達を促すポイント	

現状と課題
○園芸コースの「植栽」は、長年にわたり「千鳥植え」や「直線植え」を基本としてきた。しかし近年は、「寄せ植え」で花壇を植栽するところも多くなってきており、ニーズも増えてきた。流山市役所から委託されている「おおたかの森駅周辺の花壇」においても「寄せ植え」の要望があり、今年度から取り組むことにした。
○生徒たちにとっては初めての取り組みであるため、寄せ植えの基本からスタートし、試行錯誤しながらスキルの段階的な習得法を作り上げていかなければならなかった。
自立へのステージアップ表との関連
【コミュニケーション能力(意思表示)】 【生活力(共同作業)】 【問題解決力・実践力(状況判断)】

現状の写真など before

「千鳥植え」(等間隔で幾何学模様仕上げる)

改善点
○委託された花壇の植栽を行うにあたり、学校で事前にグループでの話し合いを行い、「寄せ植えのデザイン」を考えることとした。また、学校の花壇やプランター等を利用して色や高さのバランスを確認し、「寄せ植え」の基本的な技能の習得を行うことにした。(ただし、1・2年生は基礎・基本の定着を図るため千鳥植え、直線植えとする。)
○「寄せ植え」を体験することにより、「自己決定やチャレンジする経験」、「緊張感やつまずきと、それを乗り越える経験」、「認められ、役に立つことが実感できる経験」、「仲間とのコミュニケーションを大切に、みんなで達成感が味わえる経験」ができるため、キャリア発達を十分に促すことができた。

改善点の写真など after

「寄せ植え」(自分のセンスで好みのバランス仕上げる)

改善後の生徒の様子
流山おおたかの森駅周辺の雰囲気と、寄せ植え花壇がマッチングし、通行人からお褒めの言葉をもらったり、事後に流山市長からお礼状が送られてきたりしたため、「やりがい」や「喜び」、「誇り」をもつことができ、大きな「自信」につながった様子である。また、初めて行った「寄せ植え」に挑戦し、次々出てくる問題を仲間と協力しながら一つ一つ解決していくことができたため、「忍耐」や「努力」、「信頼」、「協調」の大切さも理解できた様子である。 さらに社会のニーズに応えられたことにより、大きな達成感を持つことができ、職業人、社会人としての自立への一歩となった。

③工業技術科 木工コースの実践

「キャリア発達を促す」木工コースの取り組み

役割をやり遂げ、ステージアップを確認することで自信を持ち、働く中で自立への意欲を高めていく木工コースの実践。

1 コースの概要

(1)主な取り組み

- ① 1 年生（基本題材）・プランター・タートルチェア
- ② 2 年生（応用題材）・ぷらん樽・OK プランター・ベンチ・スパイダーものほし
・SL ぷらんたあ・ぱんだチェア・ラティス
- ③ 3 年生（発展題材）・折りたたみチェア・デスクチェスト

(2)実習の内容

- ① 1 年生は、前期 6 種類のプランター生産加工、後期はタートルチェアともう一つの題材の生産加工に取り組む。
- ② 2 年生は、前期はひとつの題材を生産加工、後期は、題材を変えての生産加工、2 月からは、3 年生の題材に取り組む。
- ③ 3 年生は、前期後期通してひとつの題材を生産加工

(3)活動の方法

1 年生は、入学後 2 年生から教わり、加工技術の基本を学習し、2 年生は、題材変更時には、先行加工していた生徒が後発の生徒を教える「教え合い学習」の方法を取り入れ活動している。3 年生の学習は、2 年生後期後半（2 月から）から発展題材を学習し、3 年生になってからは年間通して同じ題材に取り組んでいる。

(4)グループ編成

1、2 年生は第二キャンパスで題材毎のグループを編成。3 年生は本校舎で、題材毎のグループを編成。

2 ねらい・目標

- (1)木材加工に関心を持ち自ら進んで意欲的に実践しようとする態度の育成。
- (2)木材加工に関する基礎的・基本的な知識と技能の習得を図り、工業の意義と役割の理解を深めるとともに、工業に関する職業に必要な能力と実践的な態度の育成。
- (3)木工用機器の安全な使い方を理解し、試行錯誤しながら効率的かつ効果的に使用できる態度の育成。
- (4)加工手順のや加工方法を創意工夫しながら正確かつより多く生産していく態度の育成。
- (5)同じ工業技術科及び同じ木工コースという生産現場での仲間として、加工方法を教え合い加工精度を高めていける態度の育成。

3 キャリア発達を促すポイントについて(キャリア発達の視点における授業改善方針)

単位時間内で効率的に加工技能を向上していくために、本年度より複数題材の生産加工体制（ダブルセクション）を実施し、思考の幅を広げるように改善してきた。

4 取り組みの成果

製作意欲が向上し、今までの取り組みより先の見通しが持てるようになってきている。

5 課題

複数題材のため、片方の題材の生産が終わると前の題材の加工方法を忘れていた生徒が多く、失敗も多い。慣れるまでに時間がかかることが課題である。

授業改善シート

学年	1, 2年生	場所	第二キャンパス 木工実習室	単元の目標	・複数種類の生産物を正確に量産できる。 ・机上の部材や木工用機器を整理整頓し、効率よく加工できる。
コース名	木工コース	指導者	正岡 嗣啓 平山 基樹 塩田 正勝 古江 陽子 保泉 真由美 齋藤勝義		
単元名	「クリスマスフェア」 に向けて		キャリア発達を促すポイント	作業スキル(緻密性・正確性・効率性・生産性)が向上するように、加工方法の工夫を促す。	

現状と課題
・現状:作業スキルの面で、ひとつの題材で取り組んでいるので、能力の向上に上限があり、次のステップへ上昇する機会が限定される現状がある。また、売れ筋の生産物の生産が間に合わないこと。 ・課題:技能の向上面で、単位時間で効率的に作り上げる技術をいかにして向上させていくか。また、より効率的に生産活動を展開するかが課題である。さらに、社会的なニーズの高い生産物を量産していくためには、どのようなシステムが適しているかも今後の課題としてあげられる。
自立へのステージ表との関連
・作業スキルを向上と、スケジュールの理解を促すシステムの構築を目指す。

現状の写真など before
・単一題材(シングルセクション)題材ひとつを生産する。 

改善点
1年生は、後期よりプランターセクションが終了し新しいセクションに取り組む。昨年度までは、新セクションとしての題材はひとつに絞って取り組むようなシステムで行っていたが、今年度より販売会等でニーズの高い題材(タートルチェア)を合わせ、複数の題材に取り組むようなシステムに移行した。このシステム導入により、二つの加工方法やたくさんの木工用機器の扱いを学習することになり生徒は、今までより思考する時間が多くなるとともに経験の幅が大きく広がった。また、先のことを見通し加工工程を構築するスケジュール管理能力も一段と向上してきた。さらに、社会的ニーズの高い生産物を量産することで、販売促進会等でのお客様からの声を励みに次の題材に向けた意欲を向上させることにもつながっている。

改善点の写真など after
・複数題材(ダブルセクション)二つの題材を交互に生産する。  

改善後の生徒の様子
・複数題材(ダブルセクション)にしたことで、大変意欲的に取り組む姿が見られた。また、教え合い学習も一段と活発になってきている。反面、題材が替わったときなどは今までより失敗の回数が多くなっており、経験を多く必要とするシステムである。木工用機器の扱いという面では、ダブルセクションで取り組むことで、経験値が向上し、たくさんの木工用機器を使いこなすことができるようになった。スケジュール管理能力の面では、先の先までの見通しが持てるようになり、今の題材が終わったら次はなにをするのかまで理解が進むようになってきた。今後は、自分で1クールあたりの生産台数を決定するような思考力の向上を目指すとともに、失敗の経験から精度をさらに向上させるためのポイントが理解できるよう努めたい。

④工業技術科 窯業コースの実践

「キャリア発達を促す」窯業コースの取り組み

自分の仕事を理解することで自信を持ち、併せて、ステージアップを意識していくことで、関心や意欲を高めていく窯業コースの実践。

1 コースの概要

窯業コースはたたらグループ、機械ろくろグループ、泥しょうグループの成形内容の違う3つのグループで構成している。各グループでの成形方法に合わせて、一人一人が責任を持って製品を完成させるようにしている。また成形活動に留まらず、3年間で必ずコースに関わる全ての仕事を経験するようにして、最終的には全工程を習得することを目指している。

2 ねらい・目標

- ・日常的な挨拶、作業中の返事や報告の徹底を図り、社会人としてふさわしい態度を身につける。
 - ・生産活動を通し、思考する力を身に付け、自ら進んで行動する力を培う。
 - ・学び合いの機会を多く設け、コミュニケーション力を豊かにする。
- 1年生 基礎的な成形技術を習得、専門で求められる態度を身につける。
- 2年生 下級生への製作指導を行い、自らの技術を向上させる。
- 3年生 就労に向けての具体的な意識を持ち、コミュニケーション能力の向上を図る。

3 キャリア発達を促すポイント

- ・製作目標や製作内容に段階を設けて生徒個々にステージアップを意識できるようにする。



- ・自己判断ができる手立てや環境を整えて、自を持って取り組めるようにする。



- ・下級生を教えることで、仕事への理解の深化を目指し、意欲を身につける。

4 取り組みの成果

製品の担当に段階を設けることで、生徒一人一人の自己の目標や課題を意識することができ、努力目標が具体的になり、より意欲的に取り組んでいる。また、できるだけ先輩・後輩のつながりを意識して仕事を進めることで、上級生はより、自分の立場を自覚しての行動が見られるようになってきた。

5 課題

- ・技能に関する個人差により、なかなかステージアップが進みにくい生徒への対応の検討。
- ・製品によっては、規格が曖昧で、製品としての良し悪しが伝えづらいこと。
- ・作業種はひとつであるが、製品が完成するまでの工程が多く、一連の仕事の流れを理解するまでに時間がかかる。

授業改善シート

学年	1. 2年生	場所	第2窯業室	単元の目標	○自分の仕事に責任を持ち、より良い仕上がりを意識していねいに成形、修正を行う。 ○自信を持って、仕事を進められるようにする。
コース名	窯業コース	指導者	T1長谷川緑 T2松澤淳一 T3岡田賢治		
単元名	「より質の高い製品作りを目指す」		キャリア発達を促すポイント	○生産目標を達成することを目安に、達成感を味わう。 ○前回よりも成長した点を認めることで意欲につなげていく。	

現状と課題
窯業コース(第二キャンパス)では2つのグループに分かれて取り組んでいる。成形方法の精選を図り、より良い製品作りを目指すようにした。合わせて、先に作業手順をマスターした。生徒から、技術や手順について学ぶという方法を積極的に取り入れて行っている。教える方の生徒にとっての自信につなげることも考えた。 製品の基準が分かりづらく、自己判断で完成を決めることが難しい面もある。
自立へのステージ表との関連
【知識・技能】での正確さを高める。 【コミュニケーション能力】相手に分かりやすく伝える力をつける。

現状の写真など before

口頭で仕上がりの形や重さなどを伝える。

改善点
たたら成形が初めての1年生に対して、2年生が一生懸命になって教える姿が見られ、先輩としての自覚や使命が感じられた。しかしその中で、一人で判断して進めていく場面が必要と考え、数字による基準を設定した。それによって、一人でも行え、安心感や自信につなげていける活動になった。また、製作目標を設けることで、自分の努力と成果が分かり、意欲につながった。また、今後のステージアップ目標を持つことで、そこに向かおうとする意欲の向上を図ることができた。

改善点の写真など after

自己判断ができるようにスケールで確認する。

改善後の生徒の様子
今までは、製作見本や口頭での指示が中心であったが、基準を設けたことで自己判断が可能になった。そのため、仕上がりのばらつきが少なくなったことと、生徒が自信を持って進める場面が増えてきた。また、繰り返し行うことで生徒自身が作品の良し悪しを理解するようになったきた。良い製品をたくさん作ることを目標にすることで、質の高い製品が揃うようになってきた。

⑤工業技術科 成型コースの実践

「キャリア発達を促す」成型コースの取り組み

役割をやり遂げ、ステージアップを確認することで自信を持ち、働く中で自立への意識を高めていく成型コースの実践。



1 コースの概要

	活動	担当学年	活動内容・方法
2 キ ャ ン	コンクリート	1, 2年	平板・アートブロック等をチームで協力して製造することでチームワークを強め、体力を付ける。
	ガラス加工	1年後期～ 2年	ステージアップ表に基づき、基本技術を習得しながら段階別に難易度の高い製品作りを行う。
本 校	紙工	3年	大判和紙、色紙等お得意様の注文品を製造。
	ガラス加工	3年	自分でデザイン、カット、組み立てを行う。
	鉄加工 溶接免許取得学習	2年・週1回 3年	ステージアップ表に基づき技術習得することで、安全管理を踏まえた製品作りをおこなう。

* 1日専門の日は、できるだけ施工工事实習を計画し、地域から依頼のあった工事を全学年で協力して取り組んでいる。

2 ねらい・目標など

- ・製品の生産及び販売活動・施工工事实習などを通して、製品を作ることへの喜びと働く意欲・態度を育てるとともに、作業に必要な知識や技能を養う。また、使い手・買い手の立場になって作業する態度を身につける。
- ・協同作業に伴う分担作業を通して、仕事のけじめと役割意識、責任感や我慢強さを養う。
- ・機械や道具の使用を通して技術の向上を図り、ルールを守り安全に作業する態度を養う。

3 キャリア発達を促すポイントについて

- ・得意な分野を伸ばして自信をつけることができるように希望優先のグループ編成にする。
- ・製品完成まで自分で責任をもって仕事をやり遂げる、学年としての自分の仕事を確実に実行する、施工工事实習を通して実際に地域の中で働く等、役割をやり遂げ自信がつく活動にする。
- ・基本技術を確実に身につけながらステージアップを確認し、自信がつく活動にする。

4 取り組みの成果

- ・学年間で協力し実際に地域で行う施工工事实習は、役割と目的が明確で意欲が向上した。
- ・ステージアップに沿った活動を行うことで、克服点がはっきりし成功体験が増えた。また、すべての製品を販売するため、達成感を味わうことができた。
- ・ガス溶接免許取得によりさらにステージアップした活動内容に取り組み、意欲が高まった。

5 課題

- ・活動内容の精選・・・生徒のニーズに合わせながら、確実に継続可能な活動に精選し、より充実した内容にしていかなければならない。
- ・活動の継続の重視・・・校舎別で活動内容が分かるとステージアップできた活動の継続が難しいため、校舎間でできるだけ活動を連携したい。

授業改善シート

学年	2, 3年	場所	本校成型実習室	単元の目標	○KOYO祭に向けて、よりよい製品作りを目指し協力して取り組む。 ○ステージアップ表の段階にもとづき、各作業工程で正確な作業方法を確認し、身につける。 ○挨拶、返事、報告、確認、安全面等を意識して取り組む。
コース名	成型	指導者	鳥潟 鳥井		
単元名	KOYO祭に向けて協力して新製品をたくさんつくろう			キャリア発達を促すポイント	役割をやり遂げ、ステージアップを確認することで自信を持ち、自立への意識を高める。

現状と課題
＜現状＞鉄加工の活動は、本校のみでステージアップに沿って行っている。2年は校舎を移動して活動に取り組むため、ステージアップに時間がかかる。また、ステージ2に上がるまで先輩から教えてもらう機会が少なく、交流を深めにくい。3年も学年としての役割の達成感が得にくい。 ＜課題＞2年生は第二キャンパスでもステージ1段階の鉄加工を行えるようにする。学年間の交流を深めるため、2年生の本校での鉄加工はステージ2以上の課題に取り組めるようにする。
自立へのステージアップ表との関連
コミュニケーション能力(報告・連絡、質問・相談) 知識・技能(生産性・効率性)

現状の写真など before
・ステージ1の鉄曲げ活動に2年が集中し、混雑気味である。 ・3年生がステージ5の製品の部材を作るときに、スペースがなく、2年がいらないときに準備しなければならない。 ・同じ校舎で先輩と学習していても、高いステージ段階の先輩と同じ活動をするまでに時間がかかる。

狭くて混雑する本校の鉄曲げスペース

改善点
＜第二キャンパスでの鉄加工活動開始についての対策＞カラーブロックの木製型枠組み立て作業の効率化をはかり、鉄加工に取り組む時間を確保する必要がある。 ・木製型枠の代わりに鉄型枠を自作し、打ち込み・組み立て作業時間を短縮する。 知識・技能(生産性・効率性) ・鉄加工ステージ1段階の鉄曲げ加工補助具を自作し、第二キャンパス成型実習室にも設置し、意欲のある生徒は随時鉄加工に取り組めるようにする。 生活力(積極性・意欲) ・第二キャンパスでステージ1をできるだけマスターし、本校ではステージ2以上を3年生と一緒に行うようにすることで、学年間の交流を深める。 ステージアップの確認及び役割をやり遂げ自信を持つ活動

改善点の写真など after
木製型枠：1片ずつビスで止めて組み立てる。手間がかかり、破損しやすい。

鉄製型枠：1度にブロック6個を生産できる。丈夫で、打ち込み・組み立てが簡単。


改善後の生徒の様子
・第二キャンパスでのコンクリート型枠組み立てと打ち込みの仕事が、鉄製型枠をすることで大幅に効率化できるようになった。 ・鉄製型枠は、鉄加工の授業で、部材のやすりかけなどを行い、自分たちで自作したという自己肯定感や達成感も味わうことができ、積極性や意欲につながることができた。 ・2年生のステージアップの進捗が進み、ステージ1で曲げた部材の熱処理加工を3年生から教わるできるようになった。 ・3年もガス溶接機の取り扱いを直接2年に教えることができ、役割を担う責任感を実感することができた。

⑥生活技術科 縫製コースの実践

「キャリア発達を促す」縫製コースの取り組み

ステップアップ課題を活用し、自己肯定感を高め自信をつけることで働く力を高める縫製コースの実践。



1 コースの概要

○3年生・・・15名 本校舎で活動

裁断グループ・工業用ミシン太糸グループ・工業用ミシン細糸グループで編成

PVC加工布で、バックやポーチ類の製作を行っている

○1. 2年生・・・1年生8名、2年生15名 第二キャンパスで活動

部品グループ・太糸工業用ミシングループ・細糸工業ミシングループ・細糸職業用ミシングループで編成

PVC加工布でのバック、ポーチ類製作・ナイロンオックス布でペンケース・ポーチ帆布でキャンパスバック、ポーチ類の製作

2 ねらい・目標

年間目標

○実習を通して、職業自立で必要となる働く意欲と態度を育てる。

○実習の技術を身につけ、一人一人が自信を持って製作に取り組む

3 キャリア発達を促すポイントについて

- ・働く力の基礎・基本が身につくように支援を継続した。
- ・適材適所での仕事内容で意欲的に取り組めるようにした。
- ・自分の仕事に自信を持って取り組み、自己肯定感が高まるように支援をした。

4 取り組みの成果

- ・働く力の基礎・基本が、継続して指導することで身に付いてきている。
- ・製品製作の効率が上がり、自信を持って製作する姿が見られるようになった。
- ・生徒同士で仕事を教え合うことで、仕事の再確認や自信、達成感を得られ、自己肯定感を高められるようになった

5 課題

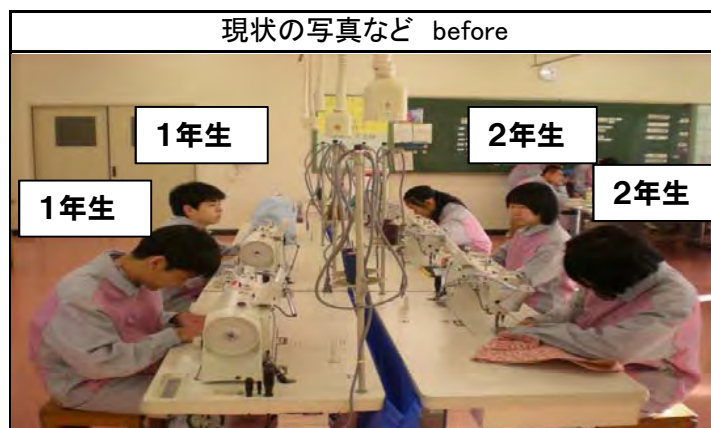
- ・能力差が大きくなってきて、働く意味が理解できる指導や、意欲を高める取り組みを検討していかなければならない。
- ・定員数の変更に伴う生徒数の減少で、運営方法の検討が必要。
- ・製品製作工程の見直しが必要。



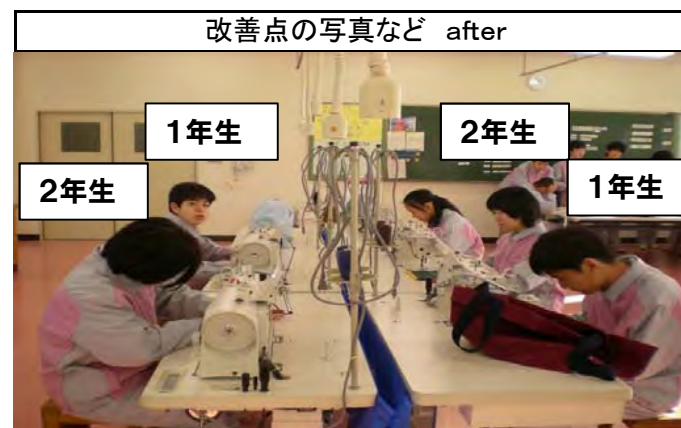
授業改善シート

学年	1, 2学年	場所	第二キャンパス縫製室	単元の目標	○自分の仕事内容を把握し、次々と製作に取り組む。 ○工程表や注意点表を活用して、正確な製作をする。 ○あいさつ、報告、返事や働く姿勢、態度を意識して取り組む。
コース名	縫製コース	指導者	山崎 唯光		
単元名	「KOYO祭」で「からふる屋」を盛り上げよう			キャリア発達を促すポイント	○生徒達が自分の仕事(縫う所、縫い方)をわかり、自信をもって次々と製品作りに取り組むことができる。

現状と課題
【現状】工業用マシン太系グループは、1年生2名、2年生3名の計5名で構成している。2年生は昨年度からの積み重ねで、製作に見通しをもって取り組んでいる。1年生はバッグ作りの全ての工程に取り組むことが課題だが、少しずつできる仕事が増えてきた。 【課題】特に1年生が、分からないことがあった時にミスを報告しにくかったり、相談せずに自分自身で解決しようとしていたことがあった。教師に聞くだけでなく、仲間同士で教えあう雰囲気や状況を作っていきたい。
自立へのステージアップ表との関連
コミュニケーション能力(報告・連絡・質問・相談・意思表示)
知識・技能(生産性・正確性)



改善点
○2年生と1年生がそれぞれの列で仕事に取り組んでいたため、配置を変えて、交互に座って仕事をするようにした。(質問をしやすい場の設定) ○2年生と1年生でペアを作り、1年生は、困った時にペアの先輩に質問するよう指導した。また、2年生も自分のペアの1年生を気かけながら仕事をするよう指導した。



改善後の生徒の様子
1年生は、分からないことがあった時に先輩へ質問しやすくなり、結果としてミスが減少した。 2年生は、「ペアの1年生がミスをしたら、自分の責任でもある」という意識が少しずつ芽生え、責任感が育まれた。 生徒同士で教えあいながら仕事に取り組むことで、出来栄の良い製品が増えた。また、必要なコミュニケーションを取り合う機会が多くなったことで、仕事をする雰囲気が良くなり、生産数も上がった。

⑦生活技術科 手芸コースの実践

「キャリア発達を促す」手芸コースの取り組み

自分の現状分析をし、課題解決のための目標を立て目標達成に向け取り組むことで、一人一人が自分の仕事に自信をもつことができる手芸コースの実践。

1 コースの概要

手芸コースは、染め、織り、加工グループの3グループで活動している。染めグループは化学染料や本すくもの藍染めで布や糸を染め、織りグループは、染めた糸を使ってコースター、テーブルセンター、マフラー、生地などを織っている。加工グループは、染めた布や織り生地を使い、テッシュケース、巾着袋、カードケース、バッグ等を作製している。今年度3年生は、前期は染め、加工グループが第二キャンパスまで移動し1・2年生と共に仕事をしたが、後期から本校で専門実習に取り組んだ。織りグループの3年生は、年間通して第二キャンパスに移動し仕事に取り組んだ。

2 ねらい・目標など

- ・染色、手織り、ミシンによる製品作りを通して、一人一人が力を発揮し、働く喜びとその大切さを知る。
- ・手芸の基本的知識と技能を高めながら、社会自立・職業自立につながる働く意欲と態度を育てる。
- ・製作活動や販売活動などを通して、社会生活に必要なコミュニケーション能力の向上を図る。

3 キャリア発達を促すポイントについて（キャリア発達の視点における授業改善方針）

12月単元「目標達成 染め・織り・加工の技をみがこう！」で、自己の現状分析をして課題を明確にし、目標達成に向け手立てや注意点を考えるようにした。確実な仕事ができるように、自分で出来栄も確認した。

4 取り組みの成果

自分の決めた目標（みがきたい技）達成に向け、毎回、自分で目標を決め、終了時には振り返りと自己評価を行ったことで、目標の立て方や仕事の仕方の工夫など、次はどうしたら良いかを考えるきっかけとなった。技術の向上や仕事への意欲が高まり、時間いっぱい集中して仕事に取り組める生徒が増えてきた。働く力の基本としての挨拶や報告、連絡、確認を心掛ける生徒が増えてきた。

5 課題

目標に向け取り組んだが、目標達成のための注意点は何かなど場面ごとに具体的に指導する必要があった。また、分からないことや失敗した時に確認、相談することが苦手な生徒には、模範例を提示し伝えた。今後も、仕事を進めていく上での基本をきちんと身に付けるようにしながら、見通しをもって意欲的に活動できるように教師の手立てを考えることが大切である。また、本校、第二キャンパスと活動場所や活動学年が分かれることで活動内容や活動方法を検討する必要があると考える。

授業改善シート

学年	全学年	場所	セミナーハウス2階	単元の目標	自分の立てた目標が達成できるように取り組む。 仕事の手順や出来栄を確認し、染め・織り・加工の技を身につける。 販売コーナー、体験コーナーを自分達で企画し、仲間と協力して運営する。
コース名	生活技術科手芸コース	指導者	T1 高田政敬 T2 岡田道子 T3 西尾香里		
単元名					

現状と課題
手芸コースでは生徒の特性、実態に合わせて、染めグループ・加工グループ・織りグループの3つに分かれて活動している。1・2年生は7月のレインボーフェスタを経験して、自分達の仕事に自信を持ち始めた。基本的な技術に関しても身に付けてきた。今後の課題は、より良い製品作りのためにどんな点に気をつけたら良いか、現時点での自分の課題をしっかりと考えるように指導する。また、仕事の手順や仕事のできえを自ら確認することを心掛けさせ、確実に仕事ができるようになることである。
自立へのステージ表との関連
【問題解決力・実践力】目標を決め、振り返りと自己評価、目標の立て方や仕事の工夫の仕方など、次はどうしたらよいか考える。 【知識技能】作業内容、活動の意味を理解して取り組む。

現状の写真など before


改善点
“現時点での自分の課題をしっかりと考えるようにする” → 先輩の仕事、製品を見て学ぶ ・・・日頃一緒に空間で仕事をしているが、自分の仕事を止め先輩の仕事を見る機会はない。この機会に先輩が仕事をしている様子や作った製品を見て、自分との違いを探す機会を設ける。 “仕事の手順や仕事の出来栄を自ら確認することを心掛けられるように支援する。” → 資料を見て、自ら確認 ・・・見本となる資料を渡し、工作中、常に横に置くように伝える。教員に報告する前に、良い製品のポイント・自分の課題を資料と照らし合わせ自ら確認をする。教員に報告する前に自ら確認することが習慣となるよう指導していく。

改善点の写真など after


改善後の生徒の様子
先輩の製品や仕事をしている様子は見たことがある。しかし、ある程度技術を身につけた現時点で“自分との違いを探す”という見方をすることで、自分の足りないところや、もっと頑張りたいこと等を見つけることができた。また、指示だけではなく、自分で先輩の製品との違いを探したことにより、意欲が高まってきた。 資料を参考に、自ら確認することを徹底することで、自分の課題に対してより意識して取り組むことができるようになってきた。自分の仕事に対して、確実に仕事ができるよう意識も高まってきた。

⑧福祉・流通サービス科 福祉サービスコースの実践

「キャリア発達を促す」福祉サービスコースの取り組み

生徒の身近にある仕事に関心の高い「介護」「喫茶サービス」「パン製造」を活動内容として、主体的に活動できる環境を整え、自らの目標に対して意欲的に取り組む姿勢を育てる実践。



1 コースの概要

(1) グループ編成

- ・ 1. 2年（31名） 10名～11名の3グループ編成
福祉実習、接客実習（パン製造）、接客実習（喫茶サービス）の3グループに分かれて実習を行う。
- ・ 3年（15名） 8名と7名の2グループで編成
福祉実習（介護）・福祉実習（家事援助）の2グループに分かれて実習を行う。

(2) 実習の内容

- ・ 福祉実習は、タオル、シーツ、衣類等リネン関係と、基礎的な介護に関する知識や技術を学習している。
- ・ 接客実習は、第二キャンパスセミナーハウスに”n cafe bakery”を開設し、営業許可を取得して、地域の方に向けた販売、喫茶サービスを学習している。

2 ねらい・目標など

- ・ 福祉、接客を含めた対人サービスに関心を持ち、自ら進んで意欲的に取り組もうとする態度の育成を図る。
- ・ 福祉、接客に関する基礎的・基本的な知識と技能の習得を図り、より実践的な態度を育てる。
- ・ 安全に留意した活動が行えるように、福祉や接客、食品製造の道具や器具、機械等の名称とその正しい操作方法の習得を図る。
- ・ 学び合いの学習機会をとおして、コミュニケーション力の育成を図る。

3 キャリア発達を促すポイント

- ・ 1, 2年生は、基礎として活動のスキルを身につけ自信をつける。自らが主体的に活動し向上している点を評価する環境を設定する。
- ・ 3年は、1, 2年で培ったスキルを発揮して、自分が役に立つ経験ができる環境を設定する。（キャリアチャレンジとの連携を含む。）

4 取り組みの成果

- ・ 生徒の身近にある仕事（福祉・パン製造・喫茶）を学習内容とすることで、関心も高く主体的に学習する姿が多く見られる。
- ・ コミュニケーションなどの場面を多く設定することで、人との関わりへの苦手意識が弱まり、自信を取り戻して自分から笑顔で接することができるようになった。
- ・ 各自の役割を明確にすることで、自分の責任を果たす自信をつけて率先して行動する場面が多く見られた。



5 課題

- ・ 地域や福祉施設との連携により、コミュニケーションの場面を多く設定する。
- ・ 接客実習では、活動時間が販売や喫茶サービスでの活動が中心で、後片付けや振り返りの時間が確保できず不十分である。

授業改善シート

学年	3年	場所	生活実習棟(本校) 福祉実習室(本校)	単元の目標	日常的な介護技術及び家事についての知識や技術を身につける。 KOYO祭で、今まで学習してきた内容を発表する。
コース名	福祉サービスコース	指導者	伊藤貴之 土佐江梨香 田中沙希 山寺健二		
単元名	家事援助・介助			キャリア発達を促すポイント	自分の課題を知り、解決に向けて工夫する。主体的に活動する。

現状と課題
1, 2年で福祉実習・接客実習(製造・喫茶)を行ってきた。生徒は、このコースを希望するにあたり、福祉関係の仕事をしたい、接客をしたいという目標を持って入学してくる。自分から取り組む姿勢があり、スキルが定着すると自信をもって活動することができる。課題は、もの作りのような明確な責任分担や、集中し継続した取り組みが少ない点である。本コースは1か月ごとに実習内容を変え、各実習内容が、コミュニケーションを中心とした内容であることである。
自立へのステージ表との関連
(A)コミュニケーション能力 (C)生活力(意欲・積極性・共同作業) (D)知識・技能 (E)問題解決能力・実践力

現状の写真など before

介護実習日誌より

- ・ベッドメイキングがうまくできなかったの次は上手にやりたいです。
- ・声かけが、自信がなかったためかうまくできませんでした。
- ・久しぶりだったので、手順を忘れてしまいました。忘れないようにしたいです。
- ・先生に注意されたことを、次はできるようにしたいです。

これまでのコース実習日誌

日	日	曜日
今日の実習内容		
実習内容	授業チェック 反省 報告、連絡、相談	○×
既往から		
日	日	曜日
今日の实習内容		
実習内容	授業チェック 反省 報告、連絡、相談	○×
既往から		

今日の実習内容、反省、教師の評価を記入する。

改善点
1, 2年でスキル面やコミュニケーション面で自信をつけてきた生徒が、3年では仕事に対してじっくりと取り組むこと、そして自分の培ってきた力を発揮することをねらいとして計画をした。そのため家事援助では、清掃を中心に実習日誌の形式を工夫した。目標、活動内容、時間の他に自己評価を5段階で点数化して記入することで、生徒自身が課題や達成したことを分かりやすいようにした。活動を継続していくことで、自分の課題をつかむことができるようになり、活動目標も具体的に記入するようになった。介護では、KOYO祭の取り組みが挙げられる。生徒たちはお互いに話し合い、友達の意見を受け入れ、自分の役割を果たしている。その表情は、明るく意欲的である。KOYO祭感想は、普段の実習日誌で記入している内容より強い達成観が表れていた。

改善点の写真など after	
KOYO祭感想より ・今までのKOYO祭で一番楽しい文化祭になりました。 ・1人でやるのがとても不安でしたが、ちゃんとできて、たくさんの人がきてくれてうれしいです。 ・練習している時は不安で、前の夜にたくさん練習しました。本番でみんなが楽しんで踊ってくれたのでとてもうれしかったです。	家事援助で使用している実習日誌  評価表の項目を5段階で自己評価する。教師の評価も同じ項目で評価し得点を比較する

改善後の生徒の様子
家事援助では、家庭からは、家の手伝いを良くするようになりましたという声が届くようになった。生徒からも、窓ふきをしましたなど報告が多くなった。学校での自信が手伝いの意欲となったことが分かる。目標達成については「トイレ掃除が30分でできるようになりました」と、親しい先生に報告する生徒も多くなった。目標を設定して、それが達成した喜びが表れた。 介護では、教師が相談調整役となり、生徒が自主的に計画、実行することができた。


⑨福祉・流通サービス科 流通サービスコースの実践

「キャリア発達を促す」農業コースの取り組み

生徒が興味・関心・意欲をもって学習活動に取り組み、自分の役割をやり遂げていく中で、キャリアアップを実感しながら「働く力」を身に付けていく流通サービスコースの実践。



1 コースの概要

学習指導要領「流通・サービス」に明記されている内容「商品管理」「販売」「清掃」「事務」を主な学習内容とし、すべての活動を通して、基本的な働く力と専門的な知識・技能を身につけることを目標にしている。

専門実習は、第二キャンパスで1、2年生が活動を行い、本校で3年生が活動している。現在①「商品管理」②「事務サービス」③「クリーンサービス」の3グループに分かれて活動を進めている。生徒は「商品管理グループ」と「事務サービスグループ」にそれぞれ所属し、「クリーンサービス」の活動については日替わりでローテーションしながら取り組んでいる。その他に、全体活動として、校外の専門家を招いて「清掃講座」、「パソコン講座」を行い、校外実習として「流山生涯学習センター」の清掃活動、「あじさい通り」の整備活動を定期的に実施している。

2 ねらい・目標

- ・挨拶・返事・報告など、社会人としての基本的な態度を身につける。
- ・「流通サービス」の知識・技能を学び、社会の仕組みや自己と社会の関係を理解する。
- ・仲間や依頼主など、相手の気持ちを考えて仕事に取り組むことで、社会や人との間で仕事をする力を高める。
- ・道具や機械の扱いを理解し、操作能力を高めるとともに、専門的な知識・技能を身に付け、正確・確実・安全に作業する態度を育てる。

3 キャリア発達を促すポイントについて

- ・自分の役割や責任感を意識しやすくするために、少人数のグループで活動を行う。
- ・正確に仕事をするという気持ちが高まるように、製品の数や情報などの記入内容を要所にチェックする。
- ・作業手順が確認できるように、「入庫」の流れを示した手順表を準備する。
- ・自分の役割を理解し、仲間と協力してやり遂げることで自信をつけ、意欲を高めることができるように、「ピッキング」から「売上処理」までの全手順に取り組む。
- ・自ら活動の反省を行い、修正して次の目標を設定することで、意欲的に取り組むことができるように、作業手順表を活用した。

4 取り組みの成果

商品管理では、「入庫」や「販売準備」の活動を通して、手順表を活用し、手順に沿って、ミスのない活動を意識しながら取り組んでいる。「入庫」「出庫」の仕事では流れがパターン化しているが、製品の種類や数は変化する。繰り返しのうちに「思考・判断・表現」が必要になり、正確に仕事を進めるために、製品を検索し、ミスのないように自己チェックをしながら取り組んでいる。「販売準備」では、販売会に向けて製品を用意していくことで、本校製品の流通を担っているという意識を持ちやすく、意欲的に取り組んでいる。「思考・判断・表現」を繰り返し行う中で、販売準備を進め、達成感を味わいながら活動を進めることができている。

5 課題

「入庫」「販売準備」とともに、検索が重要な役割を示している。興味・関心に沿って教材を準備しているが、見てわかりやすい検索の教材を準備していく必要がある。手順では、「入庫」と「販売準備」を比較した場合に、「販売準備」の手順が簡素化しているため、できるだけ「入庫」に沿った流れを維持しながら、準備を進めていけるように整理していく必要がある。作業の振り返りとして、評価の充実が必要であるために、活動の中に活かされた評価の取り組みを行っていきたい。

授業改善シート

学年	3	場所	本校 総合実習室	単元の目標	○正確に製品の確認・補充を行い、確実な「販売管理」を行う。 ○作業の流れが分かり、進んで作業に取り組むことができる。 ○仲間と協力して取り組むことができる。
コース名	流通サービスコース	指導者	T1本間 T2松見		
単元名	キャリアチャレンジ校外販売実習(サービスチャレンジ)の商品管理			キャリア発達を促すポイント	・自分の役割を理解し、仲間と協力してやり遂げることで自信をつけ、意欲を高める。 ・作業手順表を活用することで、自分で活動を振り返ることができ、活動の反省を行い、修正して次の目標を設定し、意欲的に取り組むことができる。

現状と課題
「商品管理」の学習活動は、流通に関する実的な知識や技能が得られるような内容とし、「製品情報の検索」、「情報の記入」、「正確に数を数える」、「データを入力する」、「確認作業をする」といった学習内容を明確にした。また、発展的な学習として「販売実習の商品管理」につなげている。 販売準備から売上処理まで行うことで、売れ筋に応じて製品の発注や数の調整ができることから、意欲的に取り組み、責任感や達成感が増していると考え。仲間と協力しながら、作業手順に沿って正確・確実な作業を目指した取り組みにしたい。
自立へのステージアップ表との関連
○コミュニケーション能力(挨拶、返事、報告、仲間との協力) ○問題解決力・実践力(目標設定、製品情報の検索、自己確認) ○知識・技能(製品・道具の扱い方、製品の仕分け、パソコン操作) ○体力(集中力、根気) ○生活力(身だしなみ、ルール、意欲、役割をやり遂げる)

現状の写真など before
販売準備の様子  

改善点
学習活動は、販売準備、販売、売上処理と大きく3つに分かれる。この取り組みでは、1、2年生で行ってきた「入庫」作業を土台としながら、正確さや確実さの向上を目指すとともに、挨拶や返事、報告などをしっかりと行うことで、基本的な働く力を身につけるようにした。また、売上後の処理を行うことによって、会場ごとの売り上げが分かり、売れ筋なども分かることから、達成感と働く意欲の向上を図った。 「販売実習の商品管理」を行うことで、販売までの流れを知ることができ、本校の製品の流通を担っているという意識を持ちやすくなると考える。また、少人数でグループを編成し、1会場分の販売準備から売上処理まで担当することで、責任感も増し、仲間と協力して取り組みやすくなったと考える。生徒の働く力の基礎・基本を確実なものにし、正確な知識・技能と仕事に必要な態度を身につけることで、働く目的の確認や仕事への意識を高め、社会自立・職業自立に必要な力を身につけていくための学習として取り組んだ。

改善点の写真など after
自己評価の記入と振り返り  

改善後の生徒の様子
ワークシートに自己チェック欄を設けることで、教師に確認をとる前に、もう一度自分で確認する意識が高まってきた。 作業後に自己評価を行い、自分のミスについて具体的に振り返ることで、生徒自身が次の目標設定ができるようになってきた。また、アドバイスを聞きながら、自分で改善策を考え、取り組むことができるようになってきている。 具体的な目標を設定することで、前回ミスした部分ではいつも以上に注意を払いながら確認を行い、集中して作業に取り組むことができた。 少人数で取り組むことにより、グループごとに声を掛け合い協力しながら、お互いのミスをカバーしたり、効率よく進めようと意識しながら作業を進めることができた。 自己評価をしっかりと行うことで、生徒の意識向上と基礎・基本の確認ができたと考え。

(2) 「キャリア・チャレンジ」(学校設定教科)の実践

～千葉県教育委員会研究指定「キャリア発達を促すカリキュラムづくり」～

① 平成24年度千葉県教育委員会研究指定について

ア 研究課題の区分

特別支援教育

イ 研究課題

「平成24年度特別支援学校高等部における職業的自立を目指す調査研究」

ウ 研究のねらい

キャリア教育の充実を目指す取組として、職業教育を重点的に取り組んでいる専門学科を有する特別支援学校を指定して、キャリア発達を促すカリキュラム作りと実践の検証など、社会自立・職業自立に向けた多様なカリキュラム開発を行う。

エ 研究の概要

研究指定校 (市町村名)	千葉県立特別支援学校流山高等学園 (流山市)
研究期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
研究主題	社会自立・職業自立をめざすキャリア発達を促すカリキュラムづくり ～地域社会と連携・協働した「キャリア・チャレンジ」(学校設定教科)の取組～
研究計画	①地域社会の中で、社会自立・職業自立に向けたキャリア発達を図り、体験的・実践的な活動の中で、就労先への円滑な移行に向けた知識・技能・態度を高めることを目標に、今年度より「キャリア・チャレンジ」(学校設定教科)を導入する。 ②体験的な学習場面を設定し、社会人として主体的に生きるために必要なコミュニケーション能力やソーシャルスキルを養うことで、キャリア発達の向上をねらいとする実践を行っていく。 ③主に3年生が取り組み、専門家による清掃講座やビジネスマナー講座などサービスに関する能力向上をねらった講座や、近隣施設での販売活動、企業や地域住民と連携した授業に加え、各専門コースの特色を生かした地域と連携・協働した活動を実践していく。 ④実践の検証を行い、経過や成果、課題等を明らかにしてまとめる。

② 研究の経過

ア 「キャリア・チャレンジ」(学校設定教科)の目標

○地域社会の中で、社会自立・職業自立に向けたキャリア発達を図り、社会人として主体的に生きるために必要・有用な知識・技能・態度を高めるとともに、地域社会の活性化に資する。

○地域社会と連携・協働した体験活動や社会人を活用した授業により、青年期に向けたキャリア発達を図る。

○体験的・実践的な活動の中で、就労先への円滑な移行に向けた知識・技能・態度を高める。

○社会自立・職業自立に必要なコミュニケーション能力やソーシャルスキルを養う。

イ 授業実践

(ア) クリーニング・サービス

a 清掃実習

地域の保育所、幼稚園、コミュニティーセンター、消防署、あじさい園の10か所において、年8回、午前中にコースごとに分かれて実施する。実習を通して、清掃に関する実践的な技能を習得するとともに、地域に貢献する喜びを実感し、働くことへの意欲を喚起する。



b 清掃講座

センター事業団東葛地域福祉事業所の方を、年2回、午後の授業にお招きし、清掃に関する基本的な知識や技能を習得し、清掃実習に生かしていく。講義だけではなく、体験活動を積極的に取り入れ、清掃に対する意欲の向上を図っていく



(イ) サービス・チャレンジ

a 校外販売実習

地域のショッピングモール、駅通路など、7か所で販売活動を行う。コースを2つに分けたグループで、延べ24回、1日を通して実施する。自分たちのコース製品の販売だけでなく、他コース製品の販売や会計処理も行う。この活動を通して、マナーの向上やコミュニケーション能力の育成を図っていく。



b ビジネスマナー講座

ビジネスマナーインストラクターの外部講師をお招きし、実社会に必要なマナーを習得する。年2回、午後の時間に実施し、ロールプレイや様々な場面を想定したシミュレーションを行いながら、実践的に学習していく。



(ウ) スペシャリスト・チャレンジ

これまでに専門教科で身に付けた力を生かし、地域や企業等と連携・協働した学習活動を実践し、交流を通して、働くことへの意欲や自信の向上を図る。コースの状況に合わせ、午前中の時間帯又は1日を通して実施する。

(各コースでのこれまでの取組)

- 農業コース・・・近隣保育園生や地域住民を対象とした野菜の収穫体験
- 園芸コース・・・駅前や地域での植栽活動
- 木工コース・・・あじさい通りの階段作り、高島屋への製品納入
- 窯業コース・・・地域住民を対象とした陶芸教室
- 成型コース・・・地域住民宅へのコンクリート造成、オーダー物の作製・発注
- 福祉サービスコース・・・高齢者との交流活動
- 流通サービスコース・・・企業と連携した販売活動、地域の清掃活動



(エ) ソーシャル・チャレンジ

販売実習に必要なポップの制作や接客実習を通して、情報収集能力、仲間と協働する力、コミュニケーション能力等の育成を図る。また、企業等の社会人や地域住民・大学生と



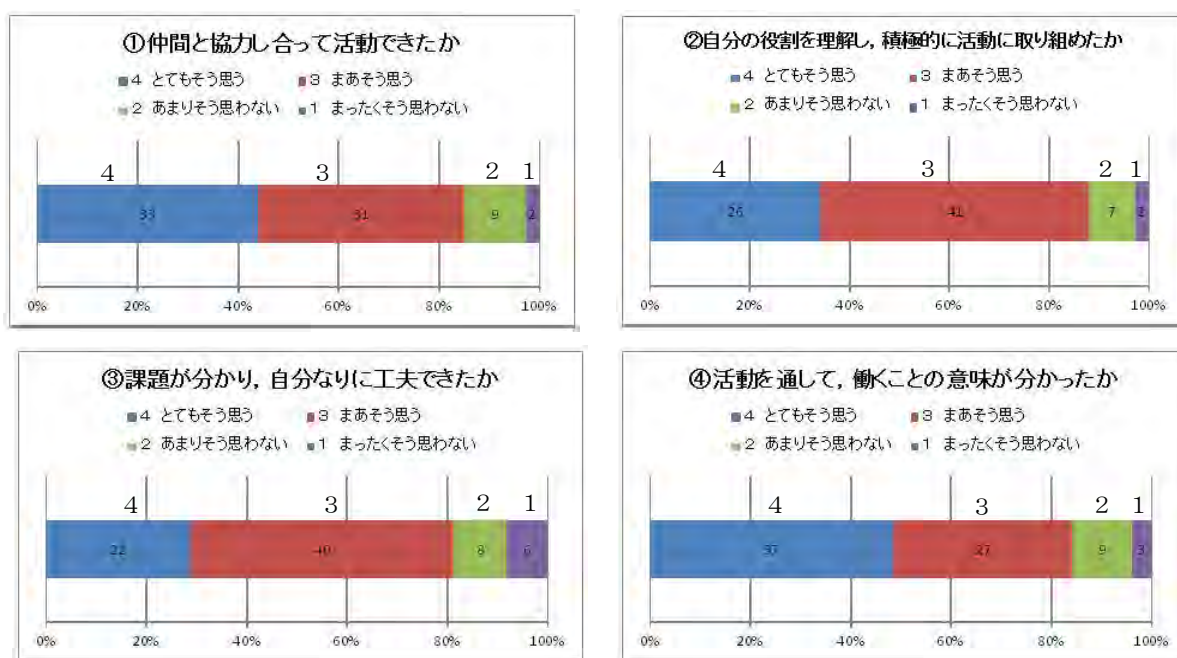
連携することで、実社会との関連性をもたせ、学習意欲の向上を図る。午後の時間帯に実施し、継続的なプロジェクト型学習を行う。

③ 成果

ア 生徒の授業評価

2月上旬、1年間の「キャリア・チャレンジ」の授業の成果を把握するために、生徒に授業評価を実施した。

評価項目は、①仲間と協力し合って活動できたか ②自分の役割を理解し、積極的に活動に取り組めたか ③課題が分かり、自分なりに工夫できたか ④活動を通して、働くことの意味が分かったか の4項目で、それぞれ4段階評価(4…とてもそう思う 3…まあそう思う 2…あまりそう思わない 1…まったく思わない)で記入してもらった。



イ 生徒の授業感想

授業評価とともに、授業の感想を記入してもらった。授業評価の理由、この1年間で進歩したと思う点、授業の中で感じたことなどについて自由に記入してもらった。

この1年間で、勉強になったことは、仲間の大切さや地域の方々とのコミュニケーションです。清掃実習では、掃除の楽しさを学び、施設の方に喜んでもらえるように清掃を頑張りました。販売実習では、地域の方々に商品进行る作業をしました。地域の方々とコミュニケーションが勉強になりました。

清掃実習では、コミュニケーションをとり、施設の方が喜ぶように一生懸命、きれいに清掃できたことです。これからは、最後まで道具を確認できたらいいと思います。企業の方と触れあう中で、スマートフォンの勉強をして、変な人からメールが来たら、送らないで消すことと、お金の使い方について勉強になりました。

○話し合っで決めたことをみんなの前で言えるようになった。

○清掃実習で、掃除をした時、園児達から「ありがとうございました。」と言われ、嬉しかったです。

○販売実習では、お客様に対する接し方で、うまく説明ができて良かったです。お客様が商品を見て、「いいですね」や「かわいいね」とほめてもらったことが印象に残りました。

仲間と協力したことは、ポップ作りの時に、販売の仲間と声をかけながら、絵を描いたり、キャッチフレーズを考えたりして良かったです。僕は縫製コースを担当したので、どういうイメージかをつかめました。販売会では、ビジネスマナー講座・接客実習を実践して、お客様にデパートのように接客できた。メモは、読売新聞社の方に聞いて、上手にできるようになった。

キャリアチャレンジは、仲間とよく協力して意欲的にやるようにしていきました。清掃実習では、僕は掃除が苦手でしたが、先生に教わりながら上手にできるようになってきました。ソーシャル・チャレンジは、積極的に発表したりしました。ポップ作りでは責任者となり、良い言葉を考えてよく動くことができました。そして販売会では、学んだことを生かして、お金のやりとりや説明や接客用語をよく言えました。他にも、インタビューしたり、言葉遣いやビジネスマナーなどを学び、今後の生活に役立てることばかりでした。自分なりに工夫をして、そして活動を通して働くことの意味が分かりました。1年間ありがとうございました。キャリアチャレンジの時間を作ったことは正解でした。

3年生になってから、キャリアチャレンジがありました。一番思い出に残っているのは、サービス・チャレンジの校外販売実習です。PAT流山やイオンモール柏などのお店に行きました。最初は、接客の声やお客様との対応が難しく、ぼーっと立っているだけでした。でも、授業でやったポップやビジネスマナーなどをやっていくうちに、販売がなんだか楽しくなりました。それから、笑顔で接客をしたり、大きな声で言うことができるようになりました。もう一つは、清掃実習です。すみずみまできれいにして、施設の人たちに「ありがとう、きれいになったね」と言われて、掃除をして良かったなと思いました。1年間、いろいろなことが学べて良かったです。

④ 課題

- キャリア発達を促すために、学校と地域や企業が連携・協働していくには、どのような取り組みが必要か。また、それを推進するための校内組織はいかにあるべきか。
- キャリア発達を促すカリキュラム作りの一環として、地域資源を活用した学習内容はどのようなものが適正か。
- 教職員、企業、地域、学生、保護者等への理解促進をどのように進めたらよいか。
- 学習意欲が減退している生徒への指導・支援は、どのように進めたらよいか。

7 考察

(1) キャリア発達を促すポイントを明らかにした授業実践

平成23年1月中央教育議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」において、キャリア教育の新たな定義が明らかになった。キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」であり、キャリア発達とは、「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」である。（中央教育議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」平成23年1月）

キャリア教育の定義は、本校教育目標「一人一人の能力や特性に応じ、社会自立・職業自立に必要な基礎・基本の定着と生きる力の育成」と合致し、本校においてキャリア発達を支援する教育を進めていくことはとても重要な意味を持つ。

今年度、本校でキャリア発達を支援する教育を進めていくために、主に次の3点に取り組んだ。①外部専門家の講師による研修会を開催。②専門教科研究授業において、学習指導案にキャリア発達を促すポイントを明記。③地域と連携・協働した体験的な活動の設定である。地域と連携・協働した体験的な活動については、キャリアチャレンジ（学校設定教科）で考察する。ここでは、専門教科各コースでキャリア発達を促すポイントを明らかにして授業実践に取り組んだ成果面について考察を進める。

キャリア発達を促すポイントについては、これまで各専門コースで取り組んできた実践を基に、年間指導計画や指導案で明らかにしてきた各コースの「指導のポイント」を参考にし、明らかにしていった。はじめは、キャリア発達を促すポイントについてなかなか視点が定まらない状況もあったが、外部専門家講師による「キャリア教育」の研修会で学んだ、「キャリア発達を促す授業」についての助言等を参考にすることで、明らかにしていくことができた。

各コースで明らかにしたキャリア発達を促すポイントは、どれも、これまでの取り組みをまとめたものであり、すでに取り組んでいる内容をキャリア発達を促すポイントとして整理したものであると言える。しかし、キャリア発達を促すポイントとして文章に表し、明らかにすることで、授業の「意味付け」「価値付け」につながり、取り組みのねらいや付けたい力などを職員間で再確認し共有することができた。このことは、各コースが工夫を凝らし、実践を深めてきたこれまでの取り組みのどの部分がキャリア発達を促す支援につながっているのかについて確認することになり、これまでの授業の価値にあらためて気づき、さらに価値を深めるための授業展開や支援方法の工夫につながったと考える。

キャリア発達を促すポイントを明らかにして、授業の「意味付け」「価値付け」が共有できたことは、指導者の意識改革につながったと考える。キャリア教育の概念理解が深まり、キャリア発達を支援する授業作りについて考えられるようになった。そして、授業の意味や価値を意識することは、授業展開や支援方法を工夫する具体的な授業改善行動につながった。このことは、他の教科にも応用できると考える。専門教科で取り組んだ、キャリア発達を促すポイントを明らかにした実践は、キャリア教育を学校全体の全ての活動を通して取り組む土台作りになったと考える。

（２）３年間の系統的・段階的・発展的な教育活動の構築

本校は、第二キャンパス開設により、本校舎と第二キャンパスの二校舎で教育活動を展開することになった。校舎は前述した通り学年で分かれ、１・２年生が第二キャンパス、３年生が本校舎を主生活の場として専門教科や各教科の学習に取り組んでいる。第二キャンパスの開設で１学年１２学級となって、今年度はじめて３学年がそろったこともあり、あらためて３年間の活動について整理していくことが課題となった。専門教科をはじめ、各教科など全ての教育活動について、これまで積み重ねてきた実践があり、３年間の活動は、各学年のねらいや具体的な活動がすでに整理されている。今回特に見直しを図ることとなったのは、３年生の取り組みについてである。今年度はじめて３年生の１２学級が本校舎で生活することになり、１・２年生の活動からより発展的な活動を意識して取り組むようにした。本校は、学年を基本に第二キャンパスと本校舎に分かれて活動している。こうした環境での実践例は他になく、本校の特色であると言える。この特色を生かした教育課程を創造することは大きな課題でもあり、本校のキャリア教育をさらに推進することにもつながると考える。これまでの実践を基に、系統的・段階的・発展的な新たな教育活動を構築していくことで、職業自立・社会自立に向けた教育実践をさらに深めていくことができる。

専門教科では、１・２年生の活動（第二キャンパス）と３年生の活動（本校舎）を整理した。研究授業では、各コース第二キャンパスと本校舎それぞれの活動について学習指導案を作成し、学年ごとのねらいや活動内容を明らかにした。また、３年生の取り組みについては、どの部分が発展的な活動なのか明記するようにした。発展的な活動については、すでに実践がある「もの作り」のコースでは、これまでの活動を見直し、整理を進めていくなかで授業展開の工夫を図っていくコースが多かった。例えば農業コースでは、学年混合のグループ活動が主であることもあり、３年生の先輩がグループのリーダーとして後輩の指導にあたる本校の伝統的な実践を深める一方、食品加工など３年生の発展的な活動を準備した。木工コースでは、難易度の高い製品を３年生が制作している。成型コースでは、３年生の新しい活動を年度当初から準備し、作業のステージを明らかにした取り組みとガス溶接の資格取得を目指した活動などを進めた。福祉サービスコース、流通サービスコースは、今年度はじめて３学年がそろったこともあり、３年生の発展的な活動を新しく築いていった。流通サービスコースでは、商品管理の活動をさらに発展させ、販売会用の製品を管理する作業に取り組んだり、企業と連携した商品管理の活動に取り組んだりした。どのコースも、３年間の活動について整理を進めながら新しい活動を展開していくことができた。また、活動内容に加え、３年生の発展的な活動を考えることで、３年生の活動のねらいがはっきりしてきた。３年生は、卒業後の就職を控えていることもあり、就労生活への最終的な移行段階に入ったという意識が強くでている。本校舎で生活するのは３年生だけなので、より意識が高まってくるのかもしれない。今回、専門教科で１・２年生の活動（第二キャンパス）と３年生の活動（本校舎）を整理し、特に３年生の発展的な活動の創造に取り組むことで、「基礎・基本の充実から発展へ」という流れが明らかになってきたと考える。３年生の発展的な活動には、他に今年度より実践している「キャリア・チャレンジ」（学校設定教科）の取り組みもある。体験的・実践的な活動の中で、就労先への円滑な移行に向けた知識・技能・態度を高めることを目標にしており、１・２年生の活動から３年生のより発展的な活動を意識したものである。１・２年生で基礎・基本の充実を図り、３年生は発展的なチャレンジの学年であることを明らか

にすることで、本校の特色を生かした新しい3か年の系統的・段階的・発展的な実践を深めていくことができると考える。

(3) 「キャリア・チャレンジ」(学校設定教科)の取組について

① 生徒の授業評価から

生徒の授業評価では、4つの評価項目とも、積極的に評価している生徒の割合が8割を超えた。このことから、「キャリア・チャレンジ」の授業実践は、一定の成果を得ることができたと判断できる。

一方、消極的な評価をする生徒が数名おり、学習意欲の減退がうかがわれた。「ねらい」を明確にして教材を選択・開発して授業を行ったが、今後は、さらに教材の工夫改善を図って、より興味・関心を喚起できる授業にしていく必要がある。また、そうした生徒への個別の指導・支援を充実するための校内体制の整備も必要である。

② 生徒の授業感想から

生徒の授業感想をから、次のような観点で評価できる。

ア 自己肯定感の醸成

販売実習や清掃実習において、地域の方々から感謝の言葉や、お褒めの言葉をいただくことによって、生徒たちは喜びを実感し、また、次の活動をより良いものにしていくとする意欲や態度の向上に結び付いている。学校内の指導・支援とともに、地域と連携・協働することにより、生徒の自己肯定感がより一層育まれたといえる。今後も、地域とともに歩む学校づくりを推進していきたい。

イ 仲間と協働する力やコミュニケーション能力の育成

本校生徒の課題として、人間関係形成力とコミュニケーション能力の未熟さがあげられる。実社会では、周りの人たちとコミュニケーションをとりながら協働して物事を進める力が求められる。

そこで、活動の中で、個人で考える→グループで共有する→全体で共有する という活動を意図的に組み込みながら、他者と協働する場を設定していった。また、「質問する・記録する・文字で表現する・口頭で表現する」などの言語活動を重視して取り組んでいった。

このような活動を継続することで、チームで協働することやコミュニケーションの大切さを自覚する生徒が多く見られた。今後は、より効果的な指導・支援の在り方を追求し、学習活動を精選していきたい。

ウ 企業等との効果的な連携・協働

学校の学習内容と社会とを関連付け、実社会に関心を持てるように、学習テーマに深く関わる企業の授業参画を図ってきた。プロとしての視点を、学校の授業でどう活用できるか、事前の打合せ等を十分に行いながら、授業を実施してきた。

特に、今年度は、これまで実施してきた清掃講座・ビジネスマナー講座に加え、販売実習をより充実するために、①読売新聞社記者による情報収集に関する授業、②総合商社（株）ヒロモリ社員によるポップ作りの授業、③（株）三越伊勢丹ヒューマンソリューションズ社員による接客実習を実施した。

これらの授業を通して、生徒たちは販売実習との関連付けを理解し、ポップで製品を効果的に紹介できるようになったり、お客様との接客が上手にできるようになったりするなど、自分の進歩を実感する生徒が多く見られた。

8 まとめ ～キャリア発達を促す授業のあり方とは～

（１）一人一人のステージに合わせた支援を行う

ステージアップ表では、生徒が社会自立・職業自立する力をつけていく過程をステージととらえ、生徒が主体的に自立へと近づいていくことをステージアップとし、専門教科におけるアセスメントの視点を整理した。指導案作成等に活用し、定員増における生徒の実態把握と専門教科の授業改善、支援の工夫に役立てた。生徒主体の授業実践を進めていく上で、アセスメントの視点を明らかにすることはとても重要であると考ええる。生徒一人一人のステージを明らかにすることで、個のニーズに合わせた支援を工夫することができる。生徒の実態を的確に捉えて一人一人の自己実現を支えるなど、生徒主体の授業実践を深めていくことが大切であると考ええる。

（２）キャリア発達を促すポイントを明らかにして授業の「意味付け」「価値付け」を進める

研究授業では、各コースの授業実践において、キャリア発達を促すポイントがどこにあるのか明らかにして文章で記すようにした。この作業は、各コースの取り組みをあらためて振り返る機会となり、これまでの実践が具体的にどんな力の成長に役立つのか再確認することになった。確認されてきたねらいや活動内容であるが、あらためて授業の「価値」を共有することで、キャリア発達の視点から授業展開の工夫や支援方法の工夫につなげていくことができた。授業のねらいを明確に意識して取り組むことで、生徒にとっても、「何のために」取り組むかが明確になってくるのではないかと考える。

（３）キャリア発達を支援する環境を作る

本研究では、主題に「授業改善」を掲げ、キャリア発達を促す授業作りを進めてきた。授業改善シートの作成では、生徒の増員に伴うニーズの広がりへの対応、授業の振り返り、改善に重点を置き、「特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック」（国立特別支援教育総合研究所）を参考にして本校独自の授業改善シートの作成を行った。各コースでの主な改善の成果は次の通りである。

①グループ編成の工夫

能力別、課題別など生徒の力が十分に発揮できるための環境作りを進めた。

②製品の工夫

生産物の難易度に幅を持たせ、多様な実態の生徒に対応できるようにした。

③作業工程の見直し

生徒の実態に合わせて工程を見直し、手順も改善した。

④働く意欲を引き出す工夫

意欲が高まるように達成目標を共有したり、明確な評価基準を生徒に示したりした。

授業改善では、生徒一人一人のニーズに合わせることで、キャリア発達を促す授業実践の工夫へとつながったと考える。本校では、これまでも授業作りに力を入れてきた。今後も授業実践を深め、継続的な授業改善を行うことでキャリア発達を支援する環境作りを進め、本校のキャリア教育を推進していきたい。

9 今後の課題

(1) 約300名の全校生徒のニーズを的確に捉え、授業改善に活かしていくこと

- ・自立へのステージアップ表の活用方法についてさらに検討を進め、生徒一人一人のアセスメントや目標設定に活かしていく。
- ・個別の教育支援計画の活用をさらに充実し、授業改善に活かしていく。
- ・学習評価の工夫を進める。

(2) キャリア発達を支援する教育の充実を進めること

- ・キャリア教育の概念を職員間で共有し、学校全体でキャリア教育を推進する。
- ・専門教科と他の教科・領域との関係を保ちながら、教育課程全体で「キャリア発達」を促す支援の充実を図る。

(3) 一貫性、系統性のある3年間の学習内容を明らかにして学習活動の充実を図ること

- ・1、2年生の基礎・基本的な活動と、3年生の発展的な活動の充実。
- ・「キャリア・チャレンジ」（学校設定教科）の取り組みをさらに充実すること。
- ・第二キャンパス1・2年生、本校舎3年生という他に例のない環境を活かした特色ある学校づくりを進める。

10 関係資料

(1) 自立へのステージアップ表

(2) 研究授業の記録

(3) 「キャリア・チャレンジ」活動の記録

①年間指導計画（生活・福流版）

②関係機関との連携一覧1

③関係機関との連携一覧2

④外部講師や企業からの感想や御意見など

(4) 平成24年度第16回公開研究会の記録

(5) 公開研究会焦点授業学習指導案

①園芸技術科 園芸コース学習指導案

②工業技術科 成型コース学習指導案

③生活技術科 縫製コース学習指導案

④福祉・流通サービス科 流通サービスコース学習指導案

資料「自立へのステージアップ表」

●アセスメントの観点

流山高等学園が考える「働く力の基礎・基本」

- ・コミュニケーション能力
- ・体力
- ・生活力
- ・知識・技能
- ・問題解決力・実践力

●アセスメントの観点一覧表

<コミュニケーション能力>

対人スキル	あいさつ	自分から挨拶できたらステージ4とする。
	返事	返事ができる。尚、あいまいな返事、口先だけの返事は低い評価とする。
謝意	謝罪	自分から失敗を謝ることができる。こだわりのため謝ることができなかつたり、自省する気持ちが弱く、謝ることができない場合評価が低くなる。
	お礼	自分から感謝の気持ちを伝えることができる。礼儀や常識が身についているかも同時に評価する。
報告等	報告・連絡	自分から報告・連絡できる。仕事の進み具合や不具合を適切なタイミングで自分から報告・連絡することができるかどうかを評価する。
	質問・相談	自分から質問・相談することができる。「分からないことが分からない」「確認することが分からない」場合はステージ1。
	意思表示	自分から好き・嫌い・同意・不同意をはっきり相手に伝えることができる。その際、ふてくされた態度や反発する態度はとらないものであるとし、そのような態度があった場合評価は低くなる。

<体力>

	集中力	集中して作業に取り組める。作業の難易度に関係なく気を散らさないで黙々と作業に取り組めるかを評価する。ここでは作業のスピードや仕上がりについては問わない。
	忍耐力	途中で投げ出さず、作業に取り組める。難しい仕事、苦手な仕事、あるいは嫌いな仕事であっても放棄せず前向きに取り組む姿勢があるかを評価する。上記項目と同様作業スピードや仕上がりについては問わない。

<生活力>

モチベーション	意欲	働きたいと思っているか。働く動機がはっきりしている。働く意欲を評価する。その評価が難しい場合には働きたい理由の有無があるかどうかを評価する。
	積極性	積極的に作業に取り組むことができる。理由の有無、理由の如何に関わらず仕事に対する積極性の有無を評価する。
生活習慣	身だしなみ	服装の着こなしではなく清潔であるかを評価する。
	髭・爪など	爪切り・ひげそり・調髪・歯磨きなどの身だしなみを整えることが自分でできる。
共同作業	他の人と協力することができる	共同で物を運ぶ、ペアで作業を行う、流れ作業などの共同作業ができるか評価をする。好きな人とはできるが嫌いな人とはできない場合はステージ1。
ルールの理解	作業場面などにおいて働く場のルールを理解している	各専門のコースにおいて決まりを守れているか。

<知識・技能>

緻密性	細かい作業ができる	趣旨の巧緻性を評価する。
正確性	正確な作業ができる	作業手順を間違えない。不良品を発生させないということを評価する。
効率性	工夫しながら作業ができる。	作業をするに当たって自分でやりやすいように部品を並び替える等、工夫を加えながら効率よく、能率よく仕事をするかどうかを評価する。無用なこだわりは「工夫」とは評価しない。
生産性	慣れると作業スピードが上がる。	同じ動作、同じ作業を繰り返し行うことにより、作業スピードが上がるかどうかを評価する。仕事が完遂した後の結果 {所要時間}、作業等)をもって評価する。
指示の理解	口答での指示が理解できる。	職場における指示は通常口頭によるものがほとんどである。口頭だけの指示でどの程度理解できるかが評価の対象である。手話や筆談等のコミュニケーション方法や指示書等の特別な配慮が必要な場合にはここでの評価は低くならざるを得ないが、そのことと就労の可能性とは直接結びつかないものとする。
スケジュールの理解	一日のスケジュールが理解できる。	一日のスケジュールを理解できているかを評価する。同時に作業場面における手順の理解も評価する。

＜問題解決力・実践力＞

状況判断	自分で状況判断しながら作業できる。	仕事には様々な状況判断が求められる。従って評価の基準となる「状況」については、特に設定しないが、少なくとも「作業の流れ」「周囲の人の動き」「気持ち」を理解しながら取り組んでいるかについて評価するものとする。例えば、急ぎの仕事があった場合に自分から意識して作業スピードを上げることができるかどうかなどを評価する。
危険認知	危険を察知し、回避することができる。	作業に当たっては、周囲に気を配り、危険な場面においては、適切に回避する行動をとることができるかどうかを評価する。また、回避する行動そのものが適切な行動であるかについても、同時に評価するものとする。
安全管理	周りの人に危険がないよう配慮しながら作業できる。	周囲に危険を及ぼさないよう配慮しながら作業できるかどうかを評価する。例えば自らが使用する工具で周囲の人を傷つけることがないよう配慮しながら作業できるかどうか等を評価するものとする。
清掃作業能力	一人で先を見通して清掃作業ができる。	汚れているところを自身で見つけきれいにできたらステージ4。（日常清掃を手順通りに一人でこなすことができる。）

●「自立へのステージアップ表」 目的と実施時期

◇目的

- ・キャリア発達を促し、生徒個々の就労に必要な要素の到達度を把握するとともに、指導の課題を明らかにするために実施する。

◇評価の利用

- ・生徒個々の課題をもとに、専門教科等の授業作りに反映させる。
- ・企業就労に必要なスキルの到達度を評価し、課題を教師・生徒間さらには授業者間で共通理解するためのツールとして使用する。

◇評価の時期

- ・職場実習に行く前の9月中に行う。その評価を10～12月の授業研の生徒の実態把握に使用する。
- ・3月に行い、次の学年に向けての課題を明確にする。

参考文献

千葉県立特別支援学校流山高等学園（2008）：研究のあゆみ13号「キャリア発達段階から見た『人間力』チェック表」

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者総合センター（2006）：就労移行支援のためのチェックリスト

独立行政法人国立特別支援教育研究所（2011）：特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック

障害者就業・生活支援センターしゅーと（2009）：就労支援のための評価シート（とっとり版）

自立へのステージアップ表

学年 組		記入日	評価者名
年 組		平成 年 月 日	

働く力基礎基本5項目	中項目	小項目	具体的項目	ステージ			
コミュニケーション能力 (A)	対人スキル	あいさつ	自分からあいさつすることができる	1	2	3	4
		返事	返事ができる	1	2	3	4
	謝意	謝罪	自分から、失敗を謝ることができる	1	2	3	4
		お礼	自分から、相手に感謝の気持ちを伝えることができる	1	2	3	4
	報告等	報告・連絡	自分から、報告・連絡できる	1	2	3	4
		質問・相談	自分から、質問・相談できる	1	2	3	4
体力(B)	遂行能力	意思表示	自分から、好き・嫌い、同意・不同意を他者に伝えることができる	1	2	3	4
		集中力	集中して作業に取り組める	1	2	3	4
		忍耐力	途中で投げ出さず、作業に取り組める	1	2	3	4
生活力 (C)	モチベーション	意欲	働く理由、動機がはっきりしているか、働きたいと思っている	1	2	3	4
		積極性	積極的に作業に取り組むことができる	1	2	3	4
	生活習慣	身だしなみ	清潔な服装ができる	1	2	3	4
		髭・爪など	ひげそりや、爪切りができています	1	2	3	4
	協調性	共同作業	共同作業ができる	1	2	3	4
		ルールの理解	きまりを守ることができる	1	2	3	4
知識・技能 (D)	作業スキル	緻密生	細かい作業ができる	1	2	3	4
		正確性	正確な作業ができる	1	2	3	4
		効率性	工夫しながら作業することができる	1	2	3	4
		生産性	慣れると作業スピードが上がる	1	2	3	4
	理解力	指示の理解	口答での指示が理解できる	1	2	3	4
		スケジュールの理解	本日の作業内容等が理解できる	1	2	3	4
問題解決力・実践力 (E)	マナー	言葉遣い	丁寧な言葉が使える。	1	2	3	4
	問題解決	状況判断	自分で状況判断しながら作業ができる	1	2	3	4
	安全管理	危険認知	危険を認知し、回避することができる	1	2	3	4
		安全管理	周りの人に危険がないよう、配慮して作業できる	1	2	3	4
	清掃	清掃作業実行力	一人で先を見通して清掃作業ができる	1	2	3	4

評価は以下の4段階を参考に行います

1…できない(できていない) 2…あまりできない(あまりできていない) 3…だいたいできる(だいたいできている) 4…できる(できている)

評価できること

今後の課題

研究授業の記録

(○…生徒のよい点、●…生徒の改善点、□…教員のよい点、■…教員の改善点)

1 園芸技術科

研究授業日時：平成 24 年 10 月 30 日(火)

研究授業場所：あんこう畑・調理室・家庭科室・グラウンド前花壇・パイプハウス前花壇

研究協議会日時：平成 24 年 10 月 31 日(水) 16:00～16:50

研究協議会場所：第 2 キャンパス流通実習室

園芸	本校		第二キャンパス
	○デザイン画を書くことで、意欲的に取り組むことができていた。 □生徒が達成感を得ることができるような評価が行われていた。		○デザイン画を書くことで、意欲的に取り組むことができていた。 □生徒が達成感を得ることができるような評価が行われていた。
農業	C グループ	B グループ	A グループ
	○生徒の忍耐強さを感じた。 ●生徒同士の助言がもっとあってもよい。 □時計が設置されていてよい。 ■つる切りの時の安全確認が必要。 ■落ち着いた話し方が、生徒にもっと伝わると思う。	○作業を理解し、協力できていた。 ○話し方がよかった。 ●報告の仕方に課題があった。 □目標数が決めてあり、よい。 ■土を落としすぎないことなどを伝える方法に工夫が必要。	○生徒同士の確認があってよい。 □写真入りの手順があってよかった。 ■衛生面や最後の確認が課題。

指導助言<校長>

○生徒が自ら考えて作業できていてよい。

□外作業で体力がついていくと感じた。

□手順がよくおさえられていてよかった。

■衛生面での指導がもう少し必要。

■生徒同士のやりとりができるような支援がもっと必要。

ものの作りに、コミュニケーションの部分をどう取り入れていくかを意識してほしい。

そのことで、生徒のキャリア発達を促してほしい。

2 工業技術科

研究授業日時：平成 24 年 10 月 24 日(水)・25 日(木)

研究授業場所：各専門実習室

研究協議会日時：平成 24 年 10 月 25 日(木) 16:00～16:50

研究協議会場所：第 2 キャンパス流通実習室

	本校	第二キャンパス
成型	☐ マスク・メガネを着用し、生徒自身が安全面に気をつけていた。 ☐ 生徒との距離感・交流の仕方がよかった。	
窯業	☐ お客様とのコミュニケーションが上手にとれていた。 ☒ 粘土の扱いが悪い生徒がいた。	☐ 目標数に向けて作業に取り組んでいた。 ☐ 生徒同士のコミュニケーションがよかった。 ☒ 休憩時間にふざけすぎていた。 ☒ 反省をうまく言えない生徒がいた。
木工	☐ 生徒同士が教えあっていた。 ☐ 生徒の自主性があった。 ☒ 私語が多かった。 ☒ 教師の指導があまりなかった。 ☒ 専門の授業を通して、社会のルールを身につける必要がある。	☐ 作業に真面目に取り組んでいた。 ☐ マスク着用で、健康面への配慮がなされていた。 ☒ 教師の目が行き届くようにして、安全面に気をつける必要がある。

指導助言＜研究主任・副校長＞

- ☐生徒の自主性が尊重されていた。
☒反面、教師のかかわりがうすかったように思う。
☐「何をしているのですか？」と質問したところ、的確な返事があった。
 作業について、よく理解している。
☐整理整頓が身についている。

3 生活技術科

研究授業日時：平成24年10月12日(金)

研究授業場所：各専門実習室

研究協議会日時：平成24年10月12日(金) 16:00～16:50

研究協議会場所：第2キャンパス流通実習室

縫製	手芸
☐ 相手の名前を呼んでから、お願いができていた。 ☐ 取り組みの姿勢が良い。 ☐ 集中していた。 ☐ 自分の仕事に見通しをもっていた。 ☒ 声の小さい生徒がいた。 ☐ 工程がわかりやすい。 ☐ 注意点がわかりやすい。 ☐ 補助具のテープがよかった。 ☐ 一人ひとりの責任がはっきりしている。 ☒ もう少し生徒とのやりとりがあるとよい。 ☒ 集中できていない生徒に声をかけていなかった。 ☒ 目標数があるとよい。	☐ すすんで仕事をしている。 ☐ 生徒同士の声かけがさかんであった。 ☐ 集中力があり、黙々と仕事をしていた。 ☐ 目標をよくわかっていた。 ☐ 工程がわかりやすい。 ☐ 写真を使った説明がされている。 ☐ 教師の働く姿が見本になっている。 ☐ 「です」「ます」調の声かけが適切で、職場の雰囲気を出している。 ☐ 職場の環境がよい。 ☒ 手本・見本があるとよい。 ☒ 生徒自身で出来の評価ができるような手立てがあるとよい。 ☒ ほめることが次につながるの、一人ひと

■生徒に背を向け作業していて、安全面で不安。	りにあったほめ方をするとよい。
------------------------	-----------------

指導助言＜教頭＞

- 質の高い活動をしている。
- 自分の仕事に自信をもっている姿がよかった。
- 教員の準備・状況作りがよい。
- 教員と一緒に働く姿勢がよい。
- 教員の立ち位置・配置を、全体を見ることができるよう工夫する必要がある。
- 一人ひとりのステップアップをどう支援するか
- 教員は失敗をさがすのではなく、うまくできたかを確認する必要がある。
- 生徒が適切に報告できるよう、もっと支援する必要がある。

4 福祉・流通サービス科

研究授業日時：平成24年10月17日(水)

研究授業場所：各専門実習室・生活実習棟・2－5教室・2－6教室

研究協議会日時：平成24年10月17日(水) 16:00～16:50

研究協議会場所：第2キャンパス流通実習室

	本校	第二キャンパス
流通	○主体的な取り組みである。 □作業のシステムをうまく作っている。 ●職場で求められる話し方をもっとみにつける必要がある。 ■場の設定が複雑	○仕事に集中している。 □教師が上司のような役割。 ●モチベーションの維持が課題。 →モチベーションをあげるために、評価を大事にしている。
福祉	○自主性があってよかった。 □教師がモデルを示していた。 ■チェック表を改善してもよい。 ■個人目標があってもよい。 ■スピードだけでなく、あいさつや返事を目標に入れてもよい。	●声の大きさや服装の面で課題がある生徒もいた。 ■もう少し、ほめる声かけがあってもよかった。 ■ベッドメイキングはスピードだけでなく、正確さも評価する。 ■地域に出ることが、生徒の達成感につながる。

指導助言＜校長＞

- 生徒に自主性がある。
- 自分の仕事に責任を持っている。
- 教師と一緒に働き手本を見せていた。
- 福祉は、周囲を見る力をつけることが課題。
- 流通は、モチベーションの維持が課題。
- 検定をうまく使い、モチベーションを高めることができるのではないか。

「キャリア・チャレンジ」年間指導計画(生活・福流版)

回数	月日		学習内容		
	生・福 (木曜実施)	曜	午前	午後	清掃実習場所, 販売場所, 外部講師
1	4月26日	木		ソーシャルC	セブンイレブンオーナー 今道 均 様
2	5月17日	木	クリーニングC(あじさい苑整備)	クリーニングC(清掃講座①)	あじさい苑, 清掃センター事業団
3	5月23日	水	クリーニングC(清掃実習①)		みらい保育園, おおたかの森聖華保育園, つつじ園, 八木幼稚園
4	5月31日	木	スペシャリストC/サービスC(校外販売実習①…生活)		おおたかの森駅, ららぽーと, PAT流山, おおたかの森SC
5	6月8日	金	スペシャリストC/サービスC(校外販売実習②…福流)		柏駅, 高島屋, おおたかの森SC, PAT流山
6	6月14日	木	スペシャリストC	実習壮行集会	
7	7月5日	木	専門教科	クリーニングC(清掃講座②)	センター事業団東葛地域福祉事業所
8	7月11日	水	クリーニングC(清掃実習②)	サービスC(ビジネスマナー講座①)	みらい保育園, おおたかの森聖華保育園, つつじ園, 八木幼稚園, 鈴木七恵様
9	8月30日	木	スペシャリストC	ソーシャルC(導入)	
10	9月5日	水	クリーニングC(清掃実習③)	ソーシャルC(商品を調査する)	みらい保育園, おおたかの森聖華保育園, つつじ園, 八木幼稚園
11	9月13日	木	スペシャリストC	ソーシャルC(インタビューをしよう)	読売新聞記者, 事業所, NPO法人
12	9月27日	木	クリーニングC(清掃実習④)	サービスC(ビジネスマナー講座②)	みらい保育園, おおたかの森聖華保育園, つつじ園, 八木幼稚園
13	10月4日	木		ソーシャルC(ポップの作成)	
	10月11日	木	スペシャリストC/サービスC(校外販売実習③…福流)		PAT流山, おおたかの森駅, イオンモール柏, おおたかの森SC
14	10月18日	木	スペシャリストC/サービスC(校外販売実習④…生活)		PAT流山, おおたかの森駅, イオンモール柏, おおたかの森SC
15	11月8日	木	クリーニングC(清掃実習⑤)	ソーシャルC(中間チェック)	第一・第二・第三コミュニティーホーム, 流山東消防署, (株)ヒロモリ 吉村寛子 様
16	11月29日	木	スペシャリストC	ソーシャルC(ポップの再考①)	
17	12月6日	木	クリーニングC(清掃実習⑥)	ソーシャルC(販売演習)	第一・第二・第三コミュニティーホーム, 流山東消防署, (株)三越伊勢丹ヒューマンソリューションズ 緒方かよ 様
18	12月11日	火	スペシャリストC	ソーシャルC(ポップの再考②)	
19	12月20日	木	クリーニングC(清掃実習⑦)		第一・第二・第三コミュニティーホーム, 流山東消防署
20	1月10日	木	スペシャリストC/サービスC(校外販売実習⑤…生活)		PAT流山, イオンモール柏, モラージュ柏
21	1月24日	木	スペシャリストC/サービスC(校外販売実習⑥…福流)		PAT流山, イオンモール柏, おおたかの森SC, モラージュ柏
22	1月31日	木	クリーニングC(清掃実習⑧)	お金の学習	第一・第二・第三コミュニティーホーム, 流山東消防署, SMBコンシューマーファイナンス 神内直子 様
23	2月6日	水	スペシャリストC	ケータイについて	ソフトバンクのDVDを使用

「キャリア・チャレンジ」関係機関との連携一覧 1

学習内容		関係機関
サービス・チャレンジ	ビジネスマナー講座	ビジネスマナーインストラクター 鈴木 七重 様
	販売実習	柏駅 東口
		高島屋 柏店
		イオンモール柏
		ららぽーと柏の葉
		おおたかの森S・C
		PAT流山
		モラージュ柏
		流山おおたかの森駅自由通路
クリーニング・チャレンジ	清掃講座	日本労働者協同組合連合会 センター事業団
	清掃実習	第一コミュニティホーム
		第二コミュニティホーム
		第三コミュニティホーム
		流山東消防署
		おおたかの森聖華保育園
		宮園保育園
		八木幼稚園
		つつじ園（社会福祉法人）
		みらい保育園
		あじさい苑（南柏本州団地自治会）
スペシャリスト・チャレンジ	農業コース	おおたかの森聖華保育園との交流（ジャガイモ掘り）
	園芸コース	宮園地区，流山おおたかの森駅等の植栽
	木工コース	あじさい通りの階段づくり，高島屋への木工製品納品
	窯業コース	地域住民を招いた陶芸教室
	成型コース	コンクリートブロックの施工工事（地域宅）
	福祉サービスコース	高齢者福祉施設の訪問，高齢者との交流（流山音頭）
	流通サービスコース	あじさい通り・生涯学習センターでの清掃実習，企業と連携した販売活動

「キャリア・チャレンジ」関係機関との連携一覧 2

学習内容		関係機関
ソーシャル・チャレンジ	企業を活用した授業 (外部講師)	セブンイレブン長崎小学校前店オーナー 今道 均 様
		読売新聞東京本社 記者 近藤裕子 様, 原 隆也 様
		株式会社ヒロモリ 吉村 寛子 様
		株式会社三越伊勢丹ヒューマンソリューションズ 緒方かよ 様
		SMBCコンシューマーファイナンス株式会社 神内 直子 様
	授業に御協力いただいた企業・NPO法人・学生ボランティア	NPO法人企業教育研究会
		PAT流山店長 鈴鹿 芳樹 様
		太田建設社長 太田次男 様
		NPO法人温暖化防止ながれやま 代表 平手 彰 様
		NPO法人防災対策サポート 代表 岩佐 善之 様
		(株)川和 柏配送センター 専務 川和 利行 様
		(株)ミツワ堂 代表取締役社長 畔高 弘樹 様
		保護者 酒井 恵子 様 (1-6)
		桐友学園 生活支援ワーカー 市岡 武 様
		柏さかさい保育園 園長 中山 勲 様
		小さな森づくりin流山プロジェクト 秋元 五郎 様
		NPO法人K i K i (申請中) 藤岡 兼一 様
		わたなべ紙化株式会社 代表取締役 渡邊 隆 様
		スワンペーカリー柏店 店長 後藤 俊宏 様
		NPO法人おおたかスポーツコミュニティ流山 小林 幹夫 様
		センター事業団 東葛地域福祉事業所 羽賀 睦 様, 都留 芸 様
		KOYOクラブ 太田貴美子 様, 浅倉美枝子 様, 小山栄子 様, 永松静子 様
		流山市民活動推進センター センター長 木村 正夫 様
		幸栄自動車工業所・ゼネラルディレクター 大橋 勲 様
		(株)シモウネ企画 下采 柁彦 様・杉 奈於美 様
		流山東消防署 消防司令補 石山 泰司 様
		(有)神野浄書技研 代表取締役 神野 忠彦 様
		流山おおたかの森聖華保育園 園長 南雲 芳 様
		(株)トッパン建装プロダクツ 製版部加工グループ課長 金子 績 様
		柏市障害福祉課 増田 尚 様
		(株)匠工務店 代表取締役 日高 正一郎 様
		つつじ園 施設長 田口 英機 様
		東京メトロ 保護者 喜元 竜夫 様, 藤代 誠 様, 河満 雄貴 様
		センター事業団 東葛地域福祉事業所 金杉 慶一 様, 都留 芸 様
		千葉県赤十字血液センター 福島 徹 様
		聖徳大学 学生 大森 理佐 様, 池田 茜 様

「キャリア・チャレンジ」外部講師や企業等からの感想や御意見など

○「インタビューをしよう」の授業に御協力いただいた企業やNPO法人関係者からの御意見

大変良い試みだと思います。もっと地域や企業だけでなく、一般の方々とのやりとりも行っていければ、より理解が深まり、先生方の日々のご苦勞がよい形となって反映されると思います。生徒たちだけでなく、我々にとって大変有意義な時間でした。

実体験が一番だと思います。遠慮せずに地域の人々をもっと引っ張り込んで、何でもやってみる。根回しのために、今回のような授業どんどん行って、垣根を取り払うことが必要だと思います。協力させていただきます。（販売実習を行っているショッピングセンター店長）

新しい試みとして非常に良かった。子どもたちが話を良く聞いてくれた。人の話をきちんと聞かない子どもが多い。今回の試みは、人の話を1から10まで聞かないと記事が書けない。毎年この企画を続けていってください。我々は精一杯応援させていただきます。取材をする前にもう少し情報を与えてあげた方がよいと思った。もう少し的確な質問ができたと思う。

（NPO法人関係者・本校卒業生保護者）

緊張をほぐすためにも、インタビューをする前に仕事やその他の仕事について会話をしてからだと、さらに生徒たちもインタビューしやすくなると感じました。生徒たちと話せて楽しかったです（普段の業務と離れて新鮮でした）。生徒たちが現場に行き行って学びに行く企画も良いかと思いました。同じ企業で2日間行うことで、さらに深くコミュニケーションがはかれると思ったので、もう1日ほしいです。（保護者、企業関係者）

学校内に入ってすぐに校風、雰囲気を感じるものがありました。私はかつて岩手県内の高等学校へ7月になると会社の求人活動をやっておりました。盛岡市等の都市部の学校より農村部、漁村部の学校の方が特徴が見られたように思う。久々に学校の雰囲気に当時を思い出し、活気ある学園生活を肌で感じることができました。これは学校の方針や各先生方のキャラクターが良い影響をしていると感じました。この学園のあたたかさ、熱血先生がおられるから、外来者に対してしっかり挨拶ができる社会人として基本的なことができていると感じました。今回のキャリア教育の授業は、社会人の授業としてもすぐに役立つ内容でした。スポーツクラブの広報の作業で、「つつこみの入る」文章を書けば生きた記事となるものを、我々自身も良い体験でした。最近の授業ってこんなこともやっているんだと感じました。学校内の授業だけで社会人として出て行くことが多い中で、社会に出て役に立つ人間って何だろうと考えたとき、今回の企画は良かったと思います。次回は、地域の事業所や団体の活動状況も実際に出かけて、自分の目で見て体験も良いのではないかと思います。（初めて来校したNPO法人関係者）

○ポップづくりの外部講師 (株)ヒロモリ 吉村 寛子様の御意見

・準備段階

社会人を対象としたセミナーと異なり、どのような内容が適正かが、判断が難しい状況。野尻先生との事前打合せでおおよその方向が確認できたのが良かった。

・実際の授業

生徒さんのグルーピング、個人差を留意しながら、進行したが、サポートに先生方が入っていただく必要があり、内容と進行方法について検討が必要。

・成果

POP作品、随分見やすくレイアウトされています。イラストもかわいく描けています。実際の売り場での展開が楽しみです。

・留意、お願い事項

他サポート先生方との事前お打合せ

・社会貢献（CSR）活動されている企業への積極的アプローチ

特に大手メーカーは様々な活動をされているので、広報部、社会環境室等に製品の紹介（教育活動）についてリーフレットなど送付されてはいかがでしょうか。

○接客実習の外部講師 三越伊勢丹ヒューマンソリューションズ 緒方 かよ様の御意見

・グループメンバーへの助言，レスポンス，代表発表者への声援があり，他者への反応の良さを確認できた。

・3年間継続されていることもあり，ノウハウの蓄積があり，それを体現することができています。

・生徒の皆さんの新たな可能性を見出すお手伝いのできたのではないかと考えます。

・今研修のノウハウの持続，フォローアップ研修により，格差の是正や体得向上を目指されると良いと考えます。

・お客様の声を収集し，それを商品製作に生かしていくなど，次に向けたカリキュラムの導入を考えてことも必要だと思います。

平成24年度 第16回公開研究会の記録

研究主題

「キャリア発達を促す専門教科のあり方」
～自立へのステージアップを促す授業改善～

◇日程

9:00 9:30 11:20 11:40 12:10 13:00 13:30 14:30 14:45 15:25 16:25 16:30

受付	公開授業	休憩	全体会	昼食 ・ 休憩	12:45～ポ スター 発表	テーマ別 分科会	休憩	分科会 まとめ提言	講演会	閉 会
----	------	----	-----	---------------	----------------------	-------------	----	--------------	-----	--------

◇公開授業 9:30～11:20

◇全体会 11:40～12:15 (第二キャンパス体育館)

- ・校長挨拶 校長 京坂 和憲
- ・講師紹介
- ・研究報告 研究主任 松見 和樹

◇休憩・昼食 12:10～13:00 (第二キャンパス体育館)

- ・教育活動全体のポスター発表 (12:45～13:30)

◇テーマ別分科会 13:30～14:30 (第二キャンパス)

一分科会	キャリア発達を促す園芸技術科の取り組み	園芸実習室
講師	渡辺 三枝子 氏 (立教大学大学院ビジネスデザイン研究科 特任教授)	
二分科会	キャリア発達を促す工業技術化の取り組み	音楽室
講師	菊地 一文 氏 (国立特別支援教育総合研究所 主任研究員)	
三分科会	キャリア発達を促す生活技術科の取り組み	縫製実習室
講師	小倉 京子 氏 (千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課 指導主事)	
四分科会	キャリア発達を促す福祉・流通サービス科の取り組み	流通実習室
講師	渡辺 明弘 氏 (国立大学法人静岡大学大学院教育学研究科 教授 静岡大学教育学部附属特別支援学校校長)	
五分科会	地域社会や企業と連携・協働した「キャリア発達を促す」取り組み	図書室
講師	森脇 勤 氏 (京都市教育委員会指導部総合育成支援課 専門主事 前白河総合支援学校校長)	

◇分科会まとめと提言 14:45～15:15 (第二キャンパス体育館)

講師 菊地 一文氏 (国立特別支援教育総合研究所 主任研究員)

◇講演会 15:25～16:25 (第二キャンパス体育館)

「学校のカタチ～キャリア発達を支援する学校のデザイン～」

講師 森脇 勤氏 (京都市教育委員会指導部総合育成支援課 専門主事 前白河総合支援学校校長)

園芸技術科 園芸コース 学習指導案

日 時 平成24年12月13日(木) 1～4校時
場 所 本校 グラウンド前花壇周辺
指導者 T1 高木 歩美 T2 石井 葉子

場 所 第二キャンパス パイプハウス周辺
指導者 T1 片倉 喜朗 T2 齋尾 宏信

1 単元名「地域の植栽を成功させよう」

2 単元設定について

(1) 単元設定の理由

園芸コースは、1年生12名(男子10名、女子2名)、2年生15名(男子8名、女子7名)、3年生15名(男子13名、女子2名)の計42名(男子31名、女子11名)の生徒が在籍している。園芸コースでは、年間を通して季節の草花の栽培、ドライフラワー用の花の栽培、及び花の加工・販売・納品の作業を主な活動として学習を進めている。

日々の実習では、同じ単元の学習内容を3つのグループに分かれて活動している(異なった単元を同時展開している場合もある)。各グループは、グループ長を中心として準備から後片づけまでの一連の作業を任されており、自主的に活動できるように、教師は様子を見て助言や支援をしている。活動はグループ毎に日替わりのローテーションで取り組み、全生徒が全ての作業を体験できるようにしている。作業内容の理解や技能の定着に時間をかける場合もあるが、ローテーションを繰り返す中で技術を身につけていくことができる。一連の活動を通して、日々の植物の生長を実感し、花を育てていくことの楽しさや開花した時の喜びを実感することもできる。同時に、花を育てることの難しさや、肥料、水、温度管理の大切さも学習することができる。心を込めて育てた花を販売したり植栽したりすることにより、人に喜ばれることのうれしさを生徒一人一人に味わうこともねらいとしている。

本単元は、地域の植栽に向けて、正確な位置に正しい方法で花を植え、効率よく取り組む技術を身につける大切な単元である。1・2年生は、所定の形にブロックを置いていく花壇作りと、一定の手順で正確・ていねいに花を植えていく植栽作業に取り組む。3年生は、自分たちが計画したデザイン通りに寄せ植えをする作業を行う。どちらも、仲間とのコミュニケーションや報告、連絡を必須とする作業であり、社会自立に必要な基礎を養うことができる。また、自分たちが作った花壇や植えた花を来校者に見てもらい、働くことの意義や意欲を高めることができる。そして、自分たちと社会とのつながりや地域社会の一員としての役割に気付き、キャリア発達を促すものとする。

なお、作業にあたっては、その日の天候や個人の体調等に配慮し、水分の補給や体調の管理、道具の使用の安全確保にも注意しながら活動を進めていくことにしている。

(2) 働く力の基礎基本との関連

○コミュニケーション能力 (A)

- ・場に応じた挨拶や返事、報告を行い、わからないことは自ら質問することができる。

○体力 (B)

- ・時間一杯、根気よく作業に取り組むことができる。

○生活力 (C)

- ・身だしなみを整え、積極的に作業に取り組むことができる。
- ・グループの仲間と協力して、正確に効率よく作業することができる。
- ・自分の活動を見直し、さらに良い働きをしていこうという向上心がもてる。

○知識・技能 (D)

- ・作業の手順を理解し、正確・ていねい・迅速（合理的に）に作業することができる。
- ・仕事の分担を理解し、自分の役割に精一杯取り組むことができる。

○問題解決力・実践力 (E)

- ・天候や状況に応じた作業場所の設定ができる。
- ・作業場所の周囲に気を配り、動きやすさ、安全性を考えた行動ができる。

3 単元の目標

○花の生長に関心をもち、一連の作業に意欲的に取り組むことができる。

○ていねいで確実な作業に心がけ、効率よく作業するための方法や、道具の扱い方を身に付ける。

○仲間と協力し合い、最後まで粘り強くやり遂げようとする気持ちや体力を身に付ける。

【 本校 】

4 指導計画（本時 2 3 ～ 2 6 時間 / 3 0 時間扱い）

月日	曜	目標	（時数）学習内容	備考
12/3	月	一人一人が自分の担当を理解し、協力して作業を進める。	（3）花壇作り（除草・整備）	
/4	火		（4）花壇作り（デザイン画作成）	短縮日課
/6	木		（4）花壇作り（デザイン画作成）	
/7	金		（4）花壇作り（除草完成）	高等部駅伝大会
/10	月		（3）花苗の準備	
/12	水		（4）花壇への植栽（最終確認）	短縮日課
/13	木		（4）花壇への植栽	本時／短縮日課
/14	金		（4）花壇への植栽（相互評価）	

5 本時の指導

（1）小单元名「自分たちで考えたデザインの植栽をしよう。」

（2）ねらい

○植栽の作業に意欲的に取り組む。

○自分たちがデザインした通りに花を配置し、植える。

○一人ひとりが自分の担当を理解し、協力して作業を進める。

(3) キャリア発達を促す授業のポイント

- 事前に自分たちで考えたデザイン画を参考にすることで、主体的、意欲的に取り組むことができる。デザイン画と実際に植える花の位置の違いに自分たちで気付くこともできる。
- 自分の役割を理解し、仲間とコミュニケーションを取りながら仕事をやり遂げていくことで、達成感を得ることができる。
- 完成した花壇について、見学者や来校者からの評価を受けることで、仕事をする喜びや自信を持つことができる。

(4) 作業工程表と育てられる主な力

作業	作業工程	作業のポイント	育てられる主な力
道具、 花の準備	・必要な道具と花を準備する。	・お互いに確認しながら、必要な人数分の道具や花を正確に揃える。	A 報告・連絡 C 共同作業 D 指示の理解 E 状況判断
植栽作業	・必要な色の花を花壇毎に用意する。 ・花壇に花を並べる。 ・花を移植する。	・自分たちのグループ分の花を用意する。 ・声をかけ合って正確に並べる。 ・デザイン画を確認しながら効率よく取り組む。 ・ていねいに花を植える。	A 報告・連絡 B 集中力・忍耐力 C 積極性・共同作業 D 生産性・指示の理解・言葉遣い E 状況判断・危険認知・安全管理
片付け	・使用した道具を洗う。 ・残った花を片付ける。	・きれいに洗う。 ・所定の場所に片付ける。	C 積極性 E 清掃作業実行力

(5) 展開

<花壇 寄せ植えづくりグループ> 指導者 T1、T2

時配	学習指導	学習への支援
3	1 確認 ・身だしなみを確認し合う。 ・各グループで本日の作業内容をグループ長を中心に確認する。 コミュニケーション能力 生活力 一日の作業内容を知り、活動の見通しを持つ。	・各人の健康状態を確認する。 ・作業内容を簡潔に板書する。 ・おおよその時間配分を示す。 ・グループ長を中心にスムーズに実習に移れるよう簡潔な言葉で声をかける。
1 3 5	2 準備・移動 ・前日に準備した花苗と必要な道具をお互いに声を掛け合いながら準備する。	・声かけは控え、見守り支援をする。 ・必要な道具を用意しているか様子を見てから気づいた時の報告を待つ。

	人数分の【花苗・移植ごて・バケツ 軍手・ジョーロ・一輪車】 コミュニケーション能力 問題解決力・実践力	・報告を受けてから、移動を開始する。
	活動内容を理解して、作業に必要な道具や花苗を確認し合いながら準備する。	
	3 植栽準備 ・リーダーが今日の作業目的（寄せ植えの技術を高める）を伝える。 ・所定のペアを組む。 ・デザイン画をもとに花苗を置く場所を相談し、花苗を置く。 ・花苗がデザイン画通りに配置できたら担当の教員に報告し、確認を受ける。 コミュニケーション能力 問題解決力・実践力	・声かけは控え、見守り支援をする。 ・報告を受けたら、デザイン画通り配置できているか確認する。修正する点があった場合には、答えを教えるのではなく生徒が気づけるような声かけを行う。
	場所や配色のバランスを考え、相談し合いながら準備する。	
	4 花苗の移植 ・どの位置から移植したら効率よくできるかを相談する。 ・置かれたポットの位置をずらさないように気をつけながら、移植する。 ・道具の置き場所にも配慮しながら、作業を進める。 ・相談しても判断に迷う場合には、教員に相談する。 ・お互いに確認しあい、完成したら、教員に報告する。 ・完成後、水やりを行う。 コミュニケーション能力 知識・技能 問題解決力・実践力 体力	・声かけを控え、見守り支援をする。 ・安全面で配慮した方がいい場合には、デザイン画通りに配置できているか声かけを行う。 ・完成の報告を受けたら、デザイン画をもとに一緒に確認する。 ・完成した花壇のよい点を評価する。 ＊作業の進み具合や天候を考え、活動の切りの良いところで休憩を入れるようリーダーに伝える。

	協力して、デザイン画通りにていねいに植栽する。 5 後片付け ・使用した道具を、所定の場所に片付ける。 ・自分の担当が終わったら、グループ内全てで終わっているか確認する。まだ作業中の人がいれば、声をかけ手伝いをする。 ・グループ内全員の道具の片付けが終了したら、教員に報告する。 コミュニケーション能力 生活力 問題解決力・実践力 次の作業がしやすいように後片付けを確実にする。	・声をかけず、見守り支援をする。 ・報告を受けたら、確実に片付けが行われたかを確認する。
17	6 終わりの会 ・リーダーは、今日の作業の成果と反省点を、コース全員の前で発表する。 ・実習日誌に今日の作業について記入する。 コミュニケーション能力 問題解決力・実践力	・実習日誌に書かれた反省を元に、本日の作業を振り返り、次回に生かせるよう評価する。

(6) 評価

①学習の評価

- ・本日の活動内容を理解し、協力しながら道具や花の準備ができたか。
- ・声をかけ合い、意欲的に植栽ができたか。
- ・デザイン画を参考にしながら、色の順番や配置など正確に植栽できたか。

②支援の評価

- ・一人一人に対して、わかりやすい声かけや指示を行うことができたか。
- ・グループ全体の意欲が高まる声かけができたか。

(7) 環境設定について

《 本時で植栽する花壇とデザイン画 》



生徒⑩と生徒③



生徒④と生徒⑤



生徒⑩

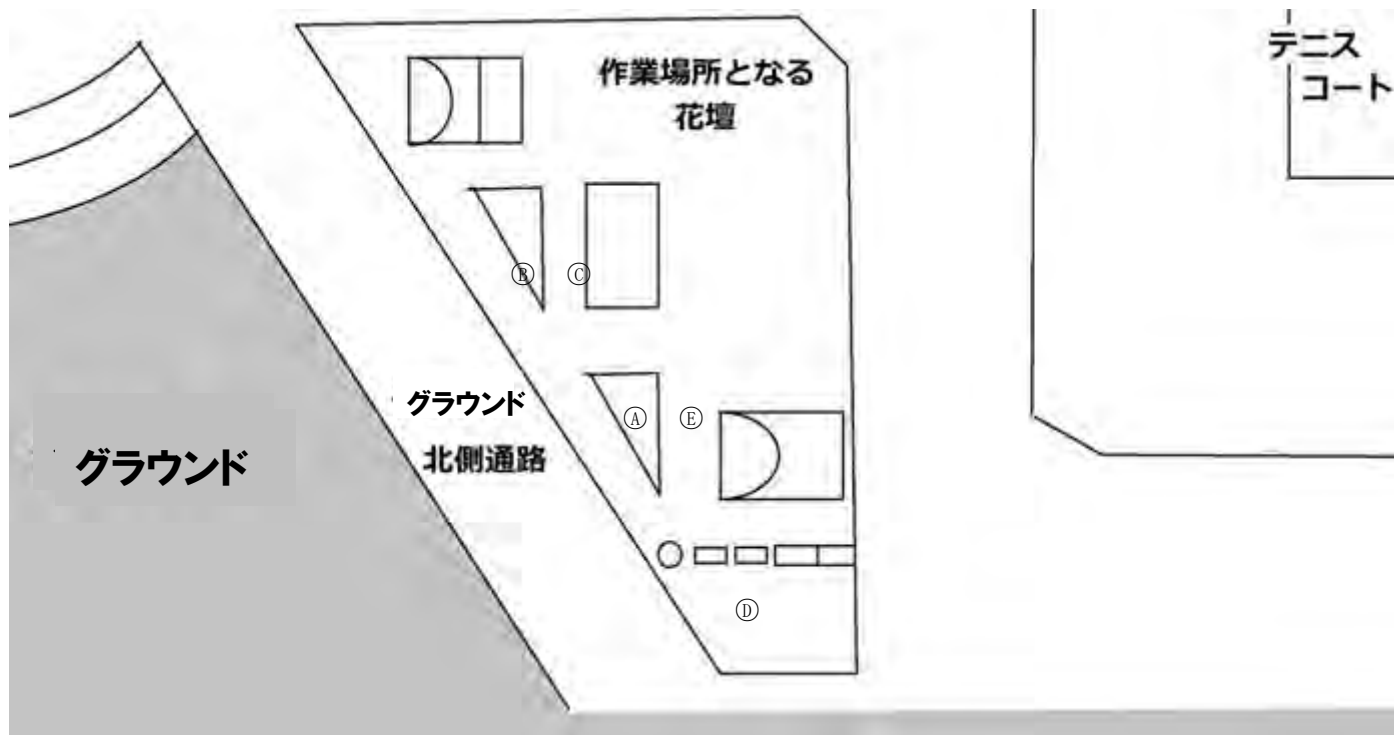


- ①花壇と同じ形のデザイン用紙を作る。
- ②色のイメージを考え実際に配色してみる。

以上の手立てにより
生徒自身がデザイン
を考えることができる



(8) 場の設定 (本校 グランド前花壇)



【 第二キャンパス 】

4 指導計画（本時 2 6 ～ 2 9 時間 / 3 3 時間間扱い）

月 日	曜	目標	（時数） 学習内容	備考
11/28	水	ていねいで正確な作業を心がける。 仲間と協力して作業する。	（3）花壇作り（除草）	（介護等体験生）
12/3	月		（4）花壇作り（整地）	
/4	火		（4）花壇作り（ブロック置き）	短縮日課
/5	水		（3）花壇作り（ブロック置き）	
/7	金		（4）花壇用土作り	高等部駅伝大会
/10	月		（4）植栽準備 計画書作成	
/12	水		（3）花壇への植栽	短縮日課
/13	木		（4）花壇への植栽	本時
/14	金		（4）花壇への植栽・相互評価	午前火曜日課

5 本時の指導

（1）小単元名「色の順番に気をつけ、計画書通りに花を植えよう」

（2）ねらい

○植栽の作業に意欲的に取り組む。

○自分たちが計画した通りに花を植える。

○一人ひとりが自分の分担を理解し、グループで協力して作業を進める。

（3）キャリア発達を促す授業のポイント

○事前に自分たちで考えた計画書を参考にすることで、主体的、意欲的に取り組むことができる。

また、計画書と実際に植えた花の配置の違いに自分たちで気付くことができる。

○自分の役割を理解し、仲間とコミュニケーションを取りながら仕事をやり遂げることで、達成感を得ることができる。

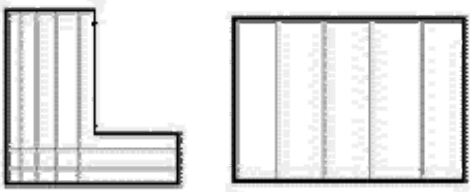
○完成する花壇について見学者や来校者から評価を受けることで、仕事をする喜びや自信を持つことができる。

（4）作業工程表と育てられる主な力

作業	作業工程	作業のポイント	育てられる主な力
道具、花の準備	・必要な道具と花を準備する。	・必要な人数分の道具と必要な色の花を正確にそろえる。	A 報告・連絡 C 共同作業 D 指示の理解 E 状況判断
植栽作業	・必要な色の花を花壇ごとに用意する。 ・花を花壇に並べる。 ・花を植える。	・自分たちのグループ分用意する。 ・声を掛け合って、正確に並べる。 ・真っ直ぐ植えられてるか確認しながら取り組む。	A 報告・連絡 B 集中力、忍耐力 C 積極性、共同作業 D 生産性、指示の理解、言葉遣い E 状況判断、危険認知、安全管理
片付け	・使用した道具を洗う。 ・残った花を片付ける。	・きれいに洗う。 ・指定された場所に片付ける。	C 積極性 E 清掃作業実行力

(5) 展開

〈花壇づくりグループ〉 指導者 T 1 T 2

時配	学習指導	学習への支援
5	1 挨拶 ・副コース長の進行で出席・作業内容を確認する。 コミュニケーション能力 2 本日のグループ別の作業内容を確認する。 一日の作業内容を知り、活動の見通しを持つ。 3 2グループに分かれて活動を開始する。	・個人の健康状態を確認する。 ・黒板とホワイトボードを利用し、手順を書きながらグループ別の活動内容を説明する。 ・グループ長を中心に準備する物品や手順について確認し、スムーズに移動できるようにする。
135	4 倉庫、温室内、パイプハウスから今日の作業に必要な道具や花を道具名や数を確認しながら手分けして準備を行う。 コミュニケーション能力 問題解決力・実践力 活動内容を理解して、作業に必要な道具や花を確実に準備する。 5 互いに声をかけ合い、協力しながら準備する。 コミュニケーション能力 移植ごて (5)、バケツ (2)、補助ひも (10) } 計画書に基づき、各色 20 パンジー } ポットずつ用意 ビオラ } (1チームあたりの道具数) 6 花壇に花を正確に植えるための補助ひもをはる。 コミュニケーション能力 知識・技能 生活力 花壇の形を確認して、正確に補助ひもをはる。 L字型と長方形での補助ひものはり方  ・ひもの間隔は移植ごて1本分空ける。 計画書通りに進んでいるか仲間と確認をしながら、正確に植栽を行う。	・必要な道具や花をグループ内で再確認するために、計画書を参考に必要物品をチェックするように伝える。 ・作業場所に用意した花が計画書通りか、「計画書に書いている花がこの場にあるか確認してください」と声をかける。 ・全ての道具が揃ったかどうか、「今ある道具で仕事はできますか」と声をかける。 ・正確にひもがはれているか、「移植ごてを使ってひもの幅を確認してください」と声をかける。

	7 補助ひもに苗の中心を合わせて、自分たちが決めた計画書通りに花をポットごと置いていく。 コミュニケーション能力 知識・技能 生活力 8 置いた位置通りに移植ごてを使って、花を植えていく。 コミュニケーション能力 知識・技能 生活力 9 花壇ごとに植え終わったら、色の順番が合っているか、真っ直ぐ植えられているかを確認する。 コミュニケーション能力 知識・技能 生活力 10 使い終わった枠トレイやポットをまとめる。 問題解決力・実践力 知識・技能 生活力 7～10を花壇全部に植栽が終わるまで繰り返す。 11 後片付けをする。 道具を点検し、責任を持って決められた元の場所に戻す。 *作業の進み具合や天候を考え、活動の切りの良いところで、休憩を入れる。 問題解決力・実践力	・「花を渡す人、置く人に役割分担をして、取り組んでください」と声をかける。 ・置き終えた後に、「間違いがないか、計画書通りですか」と声をかける。 ・正しく植えたことが確認できるように、見本を提示しする。 ・「計画書を確認する人と実際に植えた花を確認する人に分かれて、正しく植えられたか確認してください」と声をかける。 ・作業をしている周りに使った道具が散乱しないように「整理をしながら作業を進めてください」と声をかける。 ・移植ごてやポット枠トレイなどは、洗ってもとの位置に正しく戻すことができたか「～はどこに片付けましたか」と確認しながら作業を進める。
15	12 実習室に集合する。 13 本日の反省用紙を提出する。生活力 14 本日の反省を担当者で行う。 コミュニケーション能力 15 副コース長の進行で反省会を行う。 ・各グループ長は前に出て、本日の作業の反省を発表する。 ・次回の活動予定を聞く。 16 挨拶をする。	・生徒の書いた反省用紙を元に、「～にすると、目標が達成します」という振り返りを行う。 ・グループ長を中心にスムーズに発表できるように反省内容をグループ長と教師が相談をしておく。 ・グループ長の発表が円滑におこなえるよう、場合によっては補足をする。 ・怪我・体調の確認をする。

(6) 評価

①学習の評価

- ・ 本日の活動内容を理解し、協力しながら道具や花の準備ができたか。
- ・ 声をかけ合い、意欲的に植栽ができたか。
- ・ 計画書を参考にしながら、色の順番や配置など正確に植栽ができたか。

②支援の評価

- ・ 個人に対して、わかりやすい声かけや指示を行うことができたか。
- ・ グループ全体の意欲が高まるような声かけができたか。

(7) 環境設定について

①花壇全体図



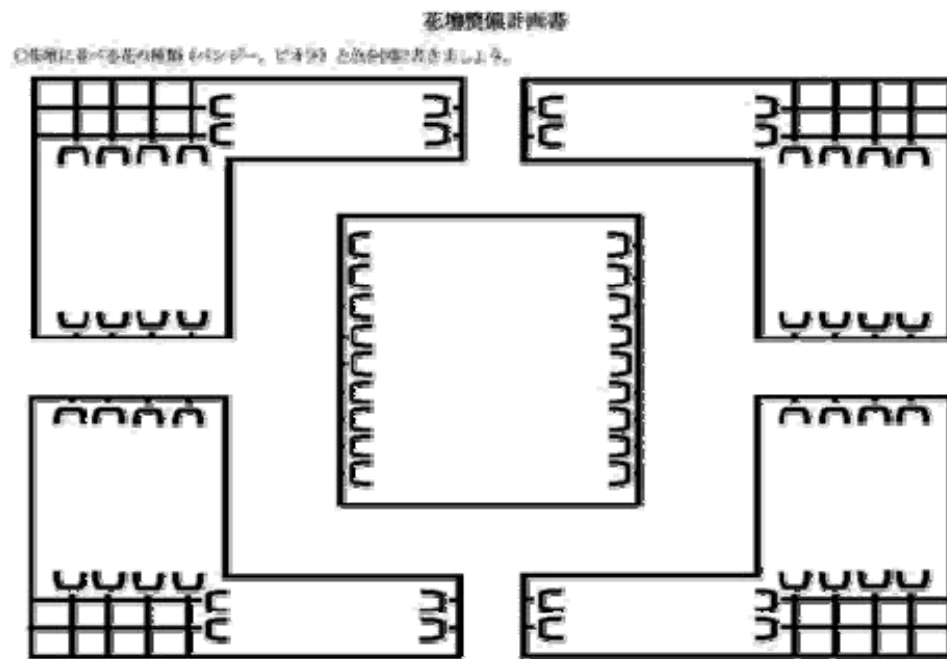
②補助ひもの見本 (L字型花壇)



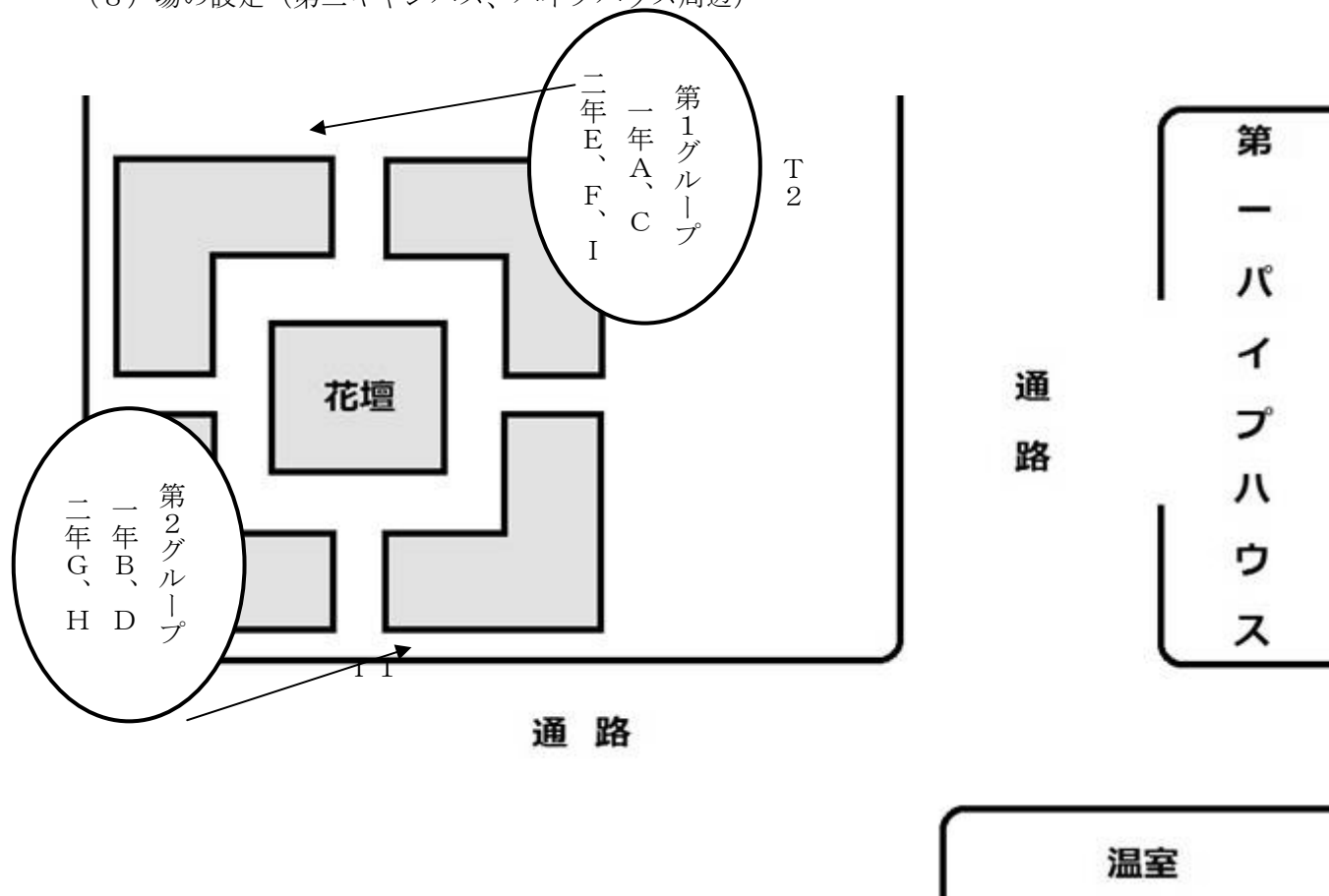
③植栽の見本図



④花を植える計画書

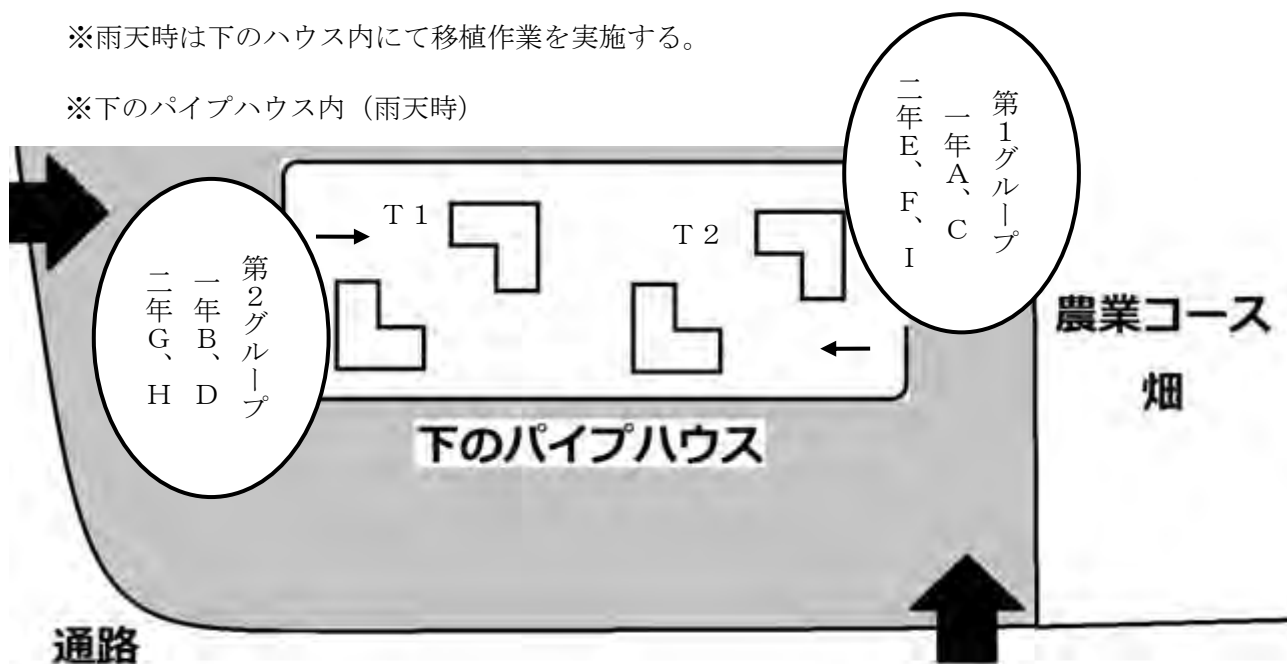


（8）場の設定（第二キャンパス、パイプハウス周辺）



※雨天時は下のハウス内にて移植作業を実施する。

※下のパイプハウス内（雨天時）



工業技術科 成型コース 学習指導案

日 時 平成24年12月13日(木) 第1～4校時

場 所 本校 成型実習室

授業者 T1 鳥潟 朝子 T2 鳥井 圭子

1 単元名 「年内に注文品(椅子2台・表札・白ツリー・食台)を完成させよう！」

2 単元設定について

(1) 単元設定の理由

成型コースは、男子生徒25名、女子生徒1名が所属している。本校では3年生が鉄加工と紙工、第2キャンパスでは1、2年生合同でコンクリート製造とガラス金属加工を行っている。数年来、コース内で活動内容の見直しを行ってきており、この活動形態になって2年目である。鉄加工では、2、3年生の希望者を対象にガス溶接免許取得を目指した学習にも取り組んでいる。昨年度から6名の合格者を出している。また、今年度から行っている3年生の学校設定教科「キャリア・チャレンジ」にも関連させ、地域から自宅へのコンクリートブロック敷き等の工事依頼が来たときは、全学年で協力して施工実習を行っている。

鉄加工の活動は、切削・研磨・溶接・溶断いずれの作業も安全の配慮を十分に行う必要がある。生徒自身の製作意欲が高まると、安全の配慮を含めた集中力の持続が可能となる。そのため、活動は生徒のモチベーションが高まるように希望制でグループ編成をしている。学年や校舎が変わっても活動が継続して行えるように、2年生のガス溶接希望者は週1～2回のペースで本校に通い、3年生と一緒に鉄加工や免許取得の学習を行っている。

鉄製品の製造過程は、鉄材の切削→部材研磨→部材曲げ→溶接(組み立て)→仕上げ研磨→塗装の工程に分かれる。ガス溶接機の取り扱い免許取得の生徒(現在3年生3名)に限って行っている。未取得の生徒(3年生2名、2年生6名)は、切削・研磨・部材曲げを担当し、鉄の取り扱いの基礎を学習しながら製作に関わっている。

年度前半は、免許取得の学習を中心に行い、注文品の製作にも取り組んだ。後期に入り、製品製造を活動の中心に切り替えた。2年生も安全かつ確実に生産ラインに沿った活動ができ、鉄加工の技術を習得できるように、鉄加工ステージアップ表を作製した。作業工程を難易度順にステージ分けしたこの表に沿って作業を進めることで、自分でステージアップを確認しながら学習をすすめている。各工程を担当する3年生は、責任を持って主体的にアドバイスできるように、習熟度を高めるよう指導している。

成型コースの実習で培う「勤労観・職業観」として、以下の5点に重点をおいて指導している。

- ① ルールを守る力 安全のための身だしなみ、装備の徹底を行い、自分で項目チェックをしつつ、生徒同士が随時注意を促すようにしている。
- ② 協力や責任の力 各工程の部材一つ一つに責任を持つことで、質の高い製品ができることを自覚し、自分の仕事を全うできるようにしている。
- ③ 体力 高熱処理の作業を続けながら時間いっぱい集中できるように、休憩時間はしっかり休むようにメリハリを付けている。また、キャリア発達の実践としても、地域からの施工工事の依頼を1日専門の日に積極的に受け、9時から3時までの施工作業を数日間行う経験を大切にしている。
- ④ 安全への配慮をする力 鉄加工の作業の性質上、安全を最重要課題として日々確認を遂行している。確実に自分から確認を行えるように取り扱い確認書を掲示し、手順の確認、報告の遂行を続けている。道具の使い方を随時確認し、引火や事故を防ぐためにも作業場、作業道具の整理整頓を随時行っている。
- ⑤ 良否を見分け、改善しようとする力 製造過程で随時製品を点検し、不良品が出た時はすぐに修

正し、次は成功するようにしている。

本単元はK O Y O祭で受けた注文品を、各自が責任をもって今年中に完成させることを目指している。2年生は確実に技術を習得し、ステージアップを目指してほしい。また、ステージアップの過程で作る部材がすべて製品のの一部となって完成につながることを各自が自覚し、役割意識をもって取り組んでほしい。

以上の取り組みから、自分の活動に自信をもち、卒業後の社会自立・職業自立に向けて必要な力等を身につけてほしいと願っている。

(2) 働く力の基礎基本との関連

○コミュニケーション能力(A)

- ・挨拶、報告、連絡、相談を適時、確実に行う。
- ・チームで話し合い、役割分担や製品の仕上がりの確認を行う。
- ・注意や指示の理解が確実にできるように、分からないときはすぐに質問する習慣を身につける。
- ・チームの作業安全を配慮し、溶接機可動の合図を大きな声ではっきりと行う。

○体力(B)

- ・施工工事实習、材料準備、販売会準備等で進んで体を動かし、効率的な作業態度を身につける。
- ・時間いっぱい集中して、安全に配慮した仕事を続ける。

○生活力(C)

- ・身だしなみ、持ち物、約束事のルールの徹底を行う。
- ・自分の係り活動に責任をもって行う。
- ・安全確保のため自分で必要な鉄加工作業着や装備をそろえ、確実に装着することを習慣化する。

○知識・技能(D)

- ・取り扱い確認書を活用して安全かつ正確な作業を行う。
- ・単元予定表や黒板、作業進行状況をみて、必要な情報を得る。
- ・溶接機、切断機、ペンチ、ハンマー等の工具を正しく安全に扱う。
- ・ガス溶接免許取得を目的に、安全なガスの取り扱いや溶接・溶断の技術を身につけ、日々の作業で実践する。

○問題解決力・実践力(E)

- ・日々の生産目標、作業目標を自分で決め、目標達成に向けて取り組む。
- ・製品の良否を基準に合わせて自分で判断する。
- ・毎回作業後の清掃を確実に行之、整理整頓を習慣化する。

3 単元の目標

- 年内に注文品（椅子2台、表札、白ツリー、食台）を完成させる。
- ステージアップ表の段階にもとづき、各作業工程で正確な作業方法を確認し、身に付ける。
- 挨拶、返事、報告、確認、安全面などを意識して取り組む。

4 指導計画（本時38～41時間目／60時間扱い）

月日	曜	目標	(時数) 学習内容	備考
11/26	月	せ品年 ようを内に うを完成に さを注文	(3) 新単元ガイダンス・単元の目標設定 各自のステージにそった製品作り	
11/27	火		(4)	2年合同作業
11/28	水		(4)	

11/29	木		(4)	2年合同作業
12/3	月		(3)	
12/4	火		(4)	短縮日課
12/6	木		(4)	2年合同作業
12/10	月		(3)	
12/11	火		(4)	
12/12	水		(4)	短縮日課
12/13	木		(4)	本時
12/14	金		(4)	
12/17	月		(3)	
12/18	火		(4)	2.3年マラソン大会
12/20	木		(4)	
12/21	金		(4) 大掃除・反省	

5 本時の指導

(1) 小単元名「質の良い製品を作るために、自分の担当の仕事を実践に行おう」

(2) ねらい

- 自分の担当の製品完成に向けて、集中して取り組む。
- ステージアップを目指し、鉄加工・製品作りの正確な作業工程を身につける。
- 挨拶、報告、連絡、相談を適時おこない、安全面に配慮して意欲的に作業に取り組む。

(2) キャリア発達を促す授業のポイント

- 自分の役割を理解し、責任を持って後輩に伝え、正確に作業をやり遂げることで自信を付ける。
- 各自が本時の目標達成にむかって取り組めるようにステージアップ個人記録表に目標を記入する。また、次の目標への意欲がより高まるように、ステージアップ表や鉄加工ガイド等に沿って作業をすることで、自分で「習熟度」や「出来栄」を確認する。
- 担当ステージの作業を確実にマスター（10個以上正確に製作できる）し、自分から確認や報告が確実にできたら、意欲がより高まるように次のステップに進むように声をかける。
- 生徒の取り組みの様子や体調を見ながら、必要に応じて気持ちを切り替えて、より達成感を得られるように、塗装の仕事に担当を変える。

(5) 作業工程と育てられる主な力

作業	作業工程	作業のポイント	育てられる主な力
① 鉄曲げ	- 鉄筋切り - 曲げ - ゆがみ直し	- 目的のサイズに合わせて正確に切る - 曲げ方のポイントを理解し、目安に合わせて曲げる。	B 集中力・忍耐力 D 正確性・緻密性 C ルールの理解
② 研磨	- 両刀グラインダーベルトサンダーによるバリ取り - エアグラインダーによる最終仕上げ	- 部材の角を落とすように傾けてかける - 表面が滑らかになったか、触って確かめる。 - 内側や細部をていねいにかけ、凸凹がないか素手で触って磨きを確認する。	B 集中力・忍耐力 C ルールの理解 A 報告・連絡 質問・相談 E 安全管理・危険認知

③ 切削	・高速切断機による鉄筋・パイプのカット ・ボール盤による穴あけ	・周囲の安全を確認し、設置準備をする。 ・部材が動かないように確実に固定する。 ・指定の厚さに合わせ、正確に切る。 ・滑らないように固定してから、穴あけポイントにオイルを付け、正確にドリルをあててあける。	B 集中力・忍耐力 D 正確性・緻密性 C ルールの理解 A 報告・連絡 質問・相談 E 安全管理・危険認知
④ 溶接	・ガス溶接機による曲げ加工 ・ガス溶接機による組み立て仮止め ・アーク溶接機による溶接仕上げ	・取り扱いの安全を確認をし、曲げる場所とタイミングに注意をする。 ・全体のバランスと強度を配慮して組み立てる。 ・周囲への安全面配慮を促す。 ・取り扱いの確認を正確に行う。	B 集中力・忍耐力 C ルールの理解 D 正確性・緻密性 A 報告・連絡 質問・相談 E 安全管理・危険認知
⑤ 塗装	・錆止め塗装 ・仕上げ塗装	・塗り残しがないように、色々な角度から確認する。	A 報告・連絡 B 集中力・忍耐力

(6) 展開

時配	学習活動	活動への支援
15	1 はじめの会 ・準備体操 体力 ・挨拶 ・出席確認（健康観察） ・作業内容・身だしなみの確認 生活力 ・コース長の話 ・作業開始の気合い入れ	・体調の確認をし、安全に活動できるよう支援する。 ・意欲的に取り組み、1日の活動内容を各自で確認できるように、連絡などは板書しておく。 ・本日の作業を確認し、自分で考えてできるよう前回までの製作段階を確認する。
125	2 各自が自分のステージの製品作りを行う。 知識・技能 ・道具の準備・組立て 3A さん、3E さん・・・椅子組み立て 3D さん・・・食台組み立て、2年切断指導 3B さん・・・研磨仕上げ、2年研磨指導 3C さん・・・塗装 2A、2B さん・・・鉄曲げ、研磨ステージへ 2C さん・・・研磨～切断ステージへ ・確認 コミュニケーション能力 問題解決力・実践力	・本時の作業を確認して、各自の作業がステージに合わせて安全に確実に取り組めるよう支援する。 3A さんのより正確な作業を進めるために ・座面が平面に仕上がるように、溶接する前に自分で部材の形を整え、重ならないように確認する。 3E さんの確認不足を解消するために ・パーツがまっすぐの溶接できるように磁石で固定し、溶接前に必ず口頭で確認する。 3D さんの集中力を高め私語をなくすために ・2年に切断の模範を示したら必ず担当教員に報告し、自分の溶接の仕事に戻るようにする。 3B さんの仕事の効率をあげるために ・エアグラインダーの圧力が下がった時は、棒ヤスリで細かい研磨を行うように声かける。 3C さんの塗り残しを減らすために ・塗り残しがわかるように、塗装段階で錆止めの塗装の色を変える。 2A・B さんの曲げのゆがみを少なくするために

	4 各自が生産数確認、記録記入をする。	- 修正ポイントに気づいて、自分でどうすればよいと考えられるようにガイドと見比べながら声をかける。 2C さんの安全な切断作業を進めるために - 切断手順確認書を作業場所に明示しておく。 - 道具の片付けが責任をもってできるように、作業終了時間 5 分前に声をかける。 - 次回の目標を具体的に立てられるように、本時の生産数を確認する。
1 5	5 実習日誌記入 ・作業の感想や気づいた点を担当教員と振り返る。 6 終わりの会 ・各班の反省 ・次回の作業内容の確認	問題解決力・実践力 コミュニケーション能力 - 反省点や次回の目標を具体的に書くように、話し合いながら支援する。 - 次回の作業の製作目標をあげて、確認し見通しが持てるように支援する。

（7）評価

①学習の評価

- ・生産目標達成に向けて、集中して取り組むことができたか。
- ・鉄加工基本の正確な作業工程を身につけることができたか。
- ・挨拶、報告、連絡、相談を適時行い、安全面に配慮して意欲的に作業に取り組むことができたか。

②支援の評価

- ・目標を明確にして、自分から意欲的に取り組むことができる言葉かけや配慮ができていたか。
- ・正確な作業工程を確認し、的確な報告や連絡ができるように配慮できていたか。
- ・学習活動内容は生徒の実態に適したものであったか。

<ステージアップ表>

		ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4	ステージ5
		難易度・安全管理度高し				
		鉄曲げ	研磨	切削	ガス溶接	アーク溶接
A	難易度・正確度高し	3mm鉄筋S字 ① 20cm ② 15cm ③ 30cm	両刀グラインダー	高速切断機	熱加工 ① たたき ② 曲げ ③ ねじり	仕上げ溶接
B		4mm鉄筋S字	ベルトサンダー	ボール盤穴あけ	平面溶接 ① フック溶接	大物溶接 ・トレリス ・傘立て ・棚
C		円	エアグラインダー		立体溶接 ① キャンドル台 ② かご ③ ツリー	

○作業工程を難易度順にステージ分けし、自分でステージアップが確認できるようにしている。

(8) 環境設定について

- 工具名と置き場所が分かるように、棚にネームプレートをつけて、場所を固定している。
- 鉄曲げの目安が分かるように、各サイズの曲げガイドを用意し、自分で確認できるようにしている。
- 効率よく鉄曲げ作業が進められるように、鉄筋サイズに合わせた補助具を各種設置しておく。

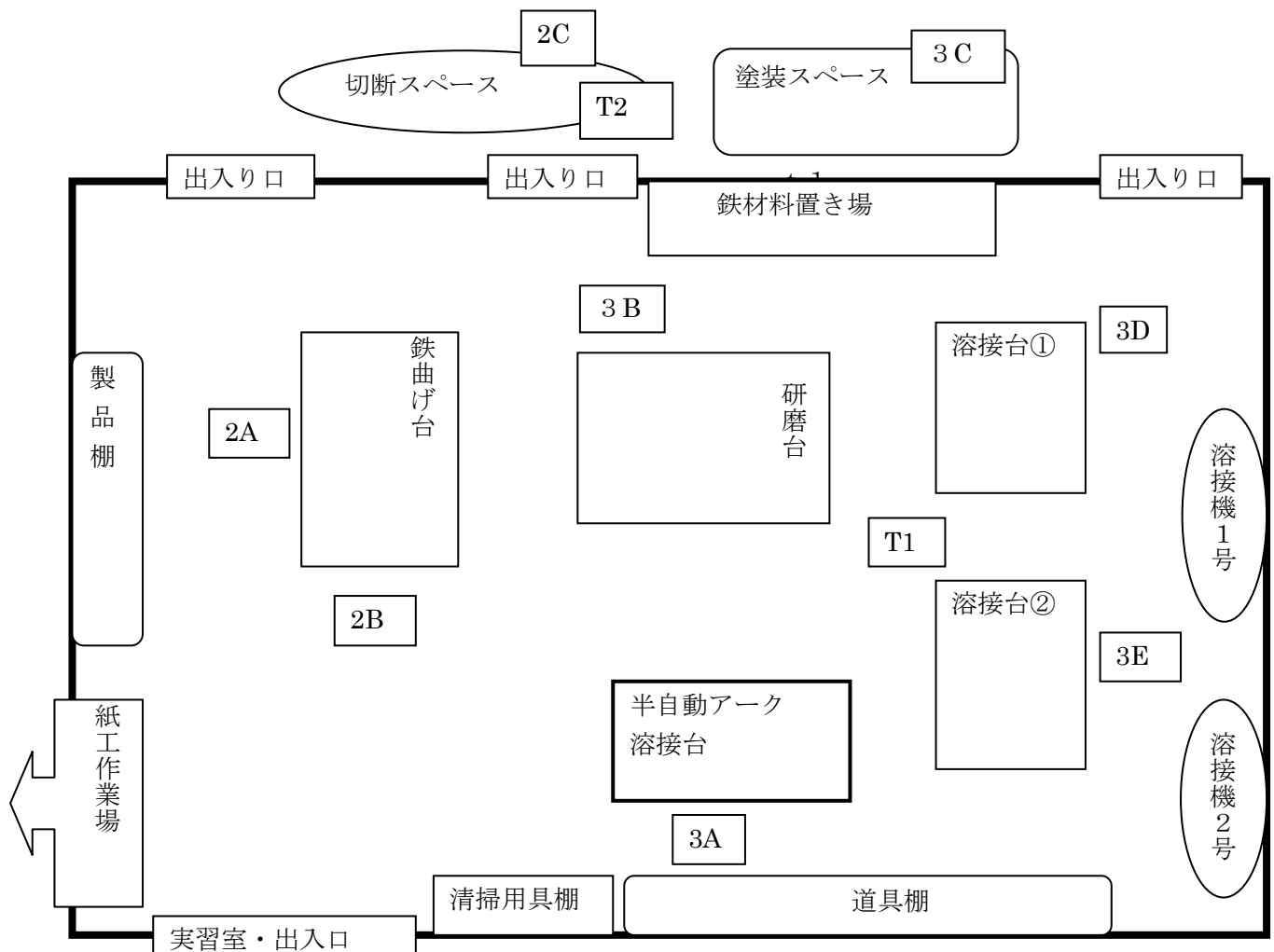


3mm鉄筋20cm、円曲げガイド



鉄曲げ加工台・補助具（3，4，5，6mm用）

(9) 場の設定



生活技術科 縫製コース 学習指導案

日 時	平成24年12月13日(木) 1～4校時		
場 所	縫製実習室(第2キャンパス)		
授業者	T1 手塚幸子	T2 山崎唯光	T3 猪越裕子
	T4 福田繭美	T5 石戸哲治	T6 中島則子

1 単元名 「ステップアップ」～新しい課題や仕事に挑戦しよう～

2 単元設定について

(1) 単元設定の理由

第二キャンパス縫製コースには、1年男子5名女子3名、2年生男子7名女子8名、計23名が所属している。

今年度は、「ていねい、正確、心のこもった製品作り」を目標にして、工業用ミシン太糸グループ、工業用ミシン細糸グループ、職業用ミシングループ、部品グループの4つのグループ編成で、専門実習作業を行っている。

専門実習を開始するに当たり、お試し活動期間を設けて1年生の適正グループを確認し、5月より本格的なグループ別の製作活動を開始した。グループ内では、先輩が1年生に教えたり以前からグループにいる生徒が昨年とグループが変更になった友達に教えたりするなどの様子が見られた。普段の個別の製作活動と違う面が随所で現れた。6月に入り、7月の全校販売会に向けて製品作りに取り組んだ。自分の担当の仕事を覚え、正確に製作することに重点を置いて進めてきた。

製作では工程を分担してできる仕事を行うことで自己肯定感を高めることを願った。また、単元はじめの会では、作業面と態度面での個々の目標を決め、自分が決めた目標を達成できるように、毎時間ごとの目標設定を行った。作業工程表や作り方の注意点表を活用し、手順の確認や出来栄を確認しながら仕事を進め、確実な仕事、ていねいな縫製ができるように、自分の担当工程に責任を持って取り組めるように、支援を続けた。また、日々の製作活動の中で、社会生活に必要な働く基本についても身につくように、実習日誌で毎日自分を振り返ることも継続した。一つの製品を分担して作り上げるので、製作工程表を活用して協力して製品が出来上がることに意識できるように支援をした。9月からは、「KOYO祭」に向けて協力して製品作りに励み、結果としてたくさん製品が売れ、喜びを味わうことができた。

本単元では、仕事の再確認を中心にして、個々が自信を持って自己肯定感を高めながら、働く力が高めることを一番の目標とした。また、さらなる技術向上や、新しい仕事に取り組むことで個々がステップアップが図れるようにしたい。

新しい仕事を体験するので、先輩から後輩へ教え合う、またグループ同士で教え合う機会が作れるよい場としていきたい。また製品製作が効率よく分業できるようにしたいと考えている。さらに個々のステップアップ課題を明らかにして、各自が自信を持って意欲的に縫製実習に取り組めるように支援し、向上できるようにしたい。来年度スムーズにスタートがきれるような単元にしたいと考えている。

(2)「働く力の基礎・基本」との関連

○コミュニケーション能力 (A)

- ・相手に聞き取れる声の大きさを話すことを習慣づける。
- ・報告、連絡、確認を適宜確実に行う。
- ・場に応じた言葉遣いができる。
- ・生徒同士で教えあうことができる。

○体力 (B)

- ・ミシンの手元を見て集中してていねいに縫う。
- ・時間いっぱい集中して製作を続ける。

○生活力 (C)

- ・作業着を正しく着用する。
- ・始まりと終わりの掃除を進んでできる。
- ・道具の整理整頓を習慣化する。

○知識・技能 (D)

- ・工程表や製作の注意点表を活用して正確に製作する。
- ・ミシン、目打ち、糸切りはさみなどを正しく安全に使う。
- ・工程表や黒板などで必要な情報を得て活用する。
- ・製品の出来栄の確認ができるようにする。

○問題解決力・実践力 (E)

- ・その日の目標を自分で決めて製作できるように努める。
- ・仕事の始めと終わりには製作の注意点表を確認する。
- ・自分の仕事に責任を持って行い伝票にサインをする。
- ・ミシンの調子が悪くなった時は報告する。
- ・失敗した時は素直に謝り次の指示を確認する。

3 単元の目標

- 自分の課題や目標が達成できるように努力する。
- 工程表や注意点表を活用して正確に製作をする。
- 新しい仕事に取り組み、技術向上に努める。
- 挨拶、報告、返事や態度、働く姿勢を意識して取り組む。

4 指導計画 (本時 3 4 ～ 3 7 時間 / 1 0 6 時間扱い)

月日	曜日	目標	(時数) 学習内容	備考
1 1 / 2 6	月	新しい仕	(3) 単元はじめの会・アンケート	
2 7	火	事の手順	(4) 新しい仕事に挑戦・課題確認	1 年心電図検査
2 9	木	を覚える	(4) 新しい仕事・課題に挑戦	

1 2 / 3	月	ステップ	(3) 新しい仕事・課題に挑戦	
4	火	アップ課題	(4) 新しい仕事・課題に挑戦	短縮日課
6	木		(4) 新しい仕事・課題に挑戦	
7	金		(4) 新しい仕事・課題に挑戦	駅伝大会
1 0	月		(3) 新しい仕事・課題に挑戦	
1 1	火		(4) 新しい仕事・課題に挑戦	
1 3	木		(4) 新しい仕事・課題に挑戦	本時・公開研究会
1 4	金		(4) 新しい仕事・課題に挑戦	
1 7	火		(4) 新しい仕事・課題に挑戦	
1 8	水		(4) 新しい仕事・課題に挑戦	
2 0	木		(4) 新しい仕事・課題に挑戦	
2 1	水		(3) 大掃除	
1 / 7	月	グループ	(3) 新しいグループ編成で製品作り	
8	火	編成	(4) 新しいグループ編成で製品作り	
1 0	木	製品作り	(4) 新しいグループ編成で製品作り	短縮日課
1 1	金		(4) 新しいグループ編成で製品作り	
1 5	火		(2) 新しいグループ編成で製品作り	入学選考前日準備
1 8	金		(4) 新しいグループ編成で製品作り	
2 1	月		(3) 新しいグループ編成で製品作り	
2 2	火		(3) 新しいグループ編成で製品作り	避難訓練
2 4	木		(4) 新しいグループ編成で製品作り	
2 5	金		(4) 新しいグループ編成で製品作り	
2 8	月		(3) 新しいグループ編成で製品作り	
2 9	火		(4) 新しいグループ編成で製品作り	
3 1	木		(4) 新しいグループ編成で製品作り	短縮日課
2 / 1	金		(4) 単元まとめの会	

5 本時の指導

(1) 小単元名「ステップアップ課題や新しい仕事に取り組もう」

(2) ねらい

- 仕事の手順、方法を覚え、正確な仕事ができる。
- 挨拶、相談、確認、報告を適宜行う。
- 個々のステップアップ課題が達成できるように努力する。

(3) キャリア発達を促す授業のポイント

- 自分が挑戦したい仕事の手順が正確に覚えられるように、適宜確認、助言する。
- 意欲的に取り組んで、個々のステップアップ課題が達成できるように、工程表や注意点表の確認を促し適宜できばえを確認をする。

○今まで行ってきた自分の仕事に自信が持てるように先輩から後輩、友達同士で仕事を教えあうことを大切にする。

○挑戦したい仕事ができるように、手立ての工夫をし、自信につながるように支援する。

(4) 作業工程と育てられる主な力

作業	作業工程	作業のポイント	育てられる主な力
裁断	・ 道具の準備 ・ 裁断	・ 必要な道具を準備する ・ 定規がずれないようにしっかり押さえる ・ カッターで押し切りをする	A 確認、報告 B 集中力 C 整理整頓 D 正確性、安全、道具の扱い、出来栄の確認 E 責任を持った仕事
目打ちでギー	・ 道具の準備 ・ 目打ちで線を引く ・ 折り目をつける ・ 洗濯ばさみで折り目を止める	・ 必要な道具を準備する ・ 布がずれないように固定する ・ 布が切れないように力加減に気をつける ・ 布を伸ばさないように洗濯ばさみで止める	A 確認、報告 B 集中力 C 整理整頓 D 正確性、安全、道具の扱い、でき栄の確認 E 責任を持った仕事
ラッピング	・ 道具の準備 ・ ラッピング	・ ラッピング早見表で確認し準備する ・ 製品の向きに気をつけて正確に入れる ・ メッセージカードを所定の位置に入れる ・ セロハンテープで止める	A 確認、報告 B 集中力 C 整理整頓 D 正確性、安全、道具の扱い、でき栄の確認 E 責任を持った仕事
ロックミシン	・ ロックミシンをかける	・ ロックをかける場所を確認する ・ 布にあった糸を使用する ・ ミシンのスピードを調整する	A 確認、報告 B 集中力 C 整理整頓 D 正確性、安全、道具の扱い、でき栄の確認 E 責任を持った仕事
ふちかがり	・ ふちかがりをする	・ ふちかがりをする場所を確認する	A 確認、報告 B 集中力 C 整理整頓

		・布にあった糸を準備する ・ミシンのスピードを調整する	D 正確性、安全、道具の扱い、出来栄の確認 E 責任持った仕事
--	--	--	------------------------------------

(5) ステップアップ課題一覧

学年	氏名	上達したい仕事・新しく挑戦したい仕事
1	A	ワッペン縫い付け・タブ作り
1	B	裁断・目打ちでギー・ふちかがり・裁断
1	C	ポーチ類ファスナー縫い付け
1	D	キューブポーチマチ始末・マチ縫い
1	E	キャンパスバック全工程・ビニールバック全工程
1	F	キャンパスバック全工程・ビニールバック全工程
1	G	カラフル小銭入れ、ペンケースなどのマチ縫い・まわり縫い
1	H	ふちかがり・ラッピング
2	I	キャラメルポーチ・キューブポーチのマチ縫い
2	J	ビニールバック口元縫い
2	K	ポーチ類まわり縫い、マチ縫い、両脇縫い
2	L	裁断・ふちかがり・ラッピング・目打ちでギー
2	M	タブ作り
2	N	ビニールバック口元縫い
2	O	ポーチ類のステッチ縫い
2	P	目打ちでギー・ラッピング
2	Q	カラフル小銭入れ、ポーチ、ペンケースのまわり縫い
2	R	ビニールバックの脇縫い、マチ縫い
2	S	底縫い、ワッペン縫い付け
2	T	まわり縫いの角をきれいに縫う・キューブポーチの底ステッチ
2	U	テフロン押さえでのファスナー付け
2	V	書類ケースのファスナー付け

(6) 展開

	学習活動	活動への支援
10	・仕事の準備をする。 ・拭き掃除（机上中心） 生活力 ・身支度を整えて集合する。 1 始まりの会 ・あいさつ、今日の予定 コミュニケーション能力	・新しい仕事に失敗してもすぐに報告をすれば良いと説明をして、意欲的に取り組めるよに話をする
60	2 各グループに分かれ製作活動に取り組む ・本日の仕事確認をする。 ・目標を日誌に記入する。 問題解決力・実践力	・生徒の立てた目標が達成できる目標かどうか確認し、必要に応じて助言をする。
	ステップ課題や新しい仕事に挑戦しよう	
	【部品グループの仕事に挑戦】 ○裁断に挑戦 ・定規を線に合わせ、ずれないようにしっかり固定する。 ・ロータリーカッターで切り出す。 ・始めから終わりまで一定の力で押し切る。 体力 知識・技能 ・確認、相談をする。 コミュニケーション能力 ・できあがった製品の点検をする ・伝票に製作者名を記入する。 ・製作数の確認をする。 問題解決能力・実践力 ○目打ちでギーに挑戦 ・定規をしっかりと線に合わせ、ずれないように固定し、目打ちで線を引く ・線で布を折り曲げ洗濯ばさみで止める。 体力 知識・技能 ・できあがった製品の点検をする。	・共に活動しながら、適宜声をかけたり確認したりする。 ・挑戦を進める中で、さりげなく出来栄を確認し助言する。 ・仕事が終わったら報告、困ったことが起きた時に相談をするタイミングの行動を促すようにする。 ・出来栄を点検し、ほめたり、励ましたりして意欲を高める。 ・作業工程表で製品名を確認し何を製作しているのか理解できるように支援する。 ・製注意点表を活用し、正確にいていねいな製作ができるように支援する。 ・定規が線からずれていないか、押さえる位置を確認する。 ・出来栄を点検し、ほめたり、励まし

- ・確認、相談をする。

コミュニケーション能力

- ・伝票に製作者名を記入する。
- ・製作数の確認をする。

問題解決能力・実践力

○製品をラッピングする

- ・前後左右などを間違えないように袋に入れる。

体力

知識・技能

- ・確認、相談をする。

コミュニケーション能力

- ・できあがった製品の点検をする。
- ・伝票に製作者名を記入する。
- ・製作数の確認をする。

問題解決能力・実践力

○ロックミシンをかける

- ・伝票で糸の確認をして糸換えをする
- ・ロックミシンをかける位置を確認する。

体力

知識・技能

- ・確認、相談をする。

コミュニケーション能力

- ・できあがった製品の点検をする。
- ・伝票に製作者名を記入する。
- ・製作数の確認をする。

問題解決能力・実践力

【ポーチ製作挑戦グループ】

○ファスナー縫い付けに挑戦

- ・手順に従い、注意点などを守りファスナー縫い付けを進める

体力

知識・技能

- ・確認、相談をする

コミュニケーション能力

○ワッペン縫い付けに挑戦

- ・手順に従い、注意点などを守り製作を進める

知識・技能

たりして意欲を高める。

- ・作業工程表で製品名を確認し何を製作しているのか理解できるように支援する。
- ・製注意点表を活用し、正確にいていねいな製作ができるように支援する。
- ・線からずれずに目打ちができていないか点検し、次の活動への意欲を高める。
- ・作業工程表で製品名を確認し何を製作しているのか理解できるように支援する。
- ・製注意点表を活用し、正確にいていねいな製作ができるように支援する。
- ・出来栄えを点検し、ほめたり、励ましたりして意欲を高める。

- ・挑戦を進める中で、さりげなく出来栄えを確認し助言する。
- ・作業工程表で製品名を確認し何を製作しているのか理解できるように支援する。
- ・製注意点表を活用し、正確にいていねいな製作ができるように支援する。
- ・布端をそろえてロックをかけることができたか点検し正確な仕事ができるように支援する
- ・確認時にはほめたり、励ましたりして意欲を高める。
- ・共に活動しながら、適宜声をかけたり確認したりする。
- ・糸調子やミシンの調整を必要に応じて行う。
- ・挑戦を進める中で、さりげなく出来栄えを確認し助言する。
- ・作業工程表で製品名を確認し何を製作しているのか理解できるように支援する。
- ・製注意点表を活用し、正確にいていねいな製作ができるように支援する。

	○マチ縫い・まわり縫いに挑戦 ・手順に従い、注意点などを守り製作を進める 知識・技能 ・確認、相談をする コミュニケーション能力 ・できあがった製品の点検をする ・伝票に製作者名を記入する。 ・製作数の確認 問題解決能力・実践力 【バック製品作りに挑戦グループ】 ○口元縫いに挑戦 ・手順に従い、注意点などを守り進める 体力 知識・技能 ・確認、相談をする コミュニケーション能力 ・磁石や目印のテープに布端をあわせ同じ幅で縫う 問題解決力・実践力 ○ひも縫いつけ・底布縫いつけに挑戦 ・縫い目の上をずれのように縫う ・手順に従い、注意点などを守り進める 体力 知識・技能 ・確認、相談をする コミュニケーション能力 ○マチ縫い・脇縫いに挑戦 ・手順に従い、注意点などを守り進める 体力 知識・技能 ・確認、相談をする コミュニケーション能力	・返し縫いがずれていないか、線の上を縫うことができたかななどを点検し正確、ていねいな製品作りができるように支援する。 ・失敗した時にはなぜそうなったのか一緒に考え解決できるように支援をする ・確認時にはほめたり、励ましたりして意欲を高める。 ・共に活動しながら、適宜声をかけたり確認したりする。 ・製品の点検をし、出来映えを確認し、次の活動への意欲を高める。 ・仕事が終わったら報告、困ったことが起きたら相談をするタイミングをアドバイスする。 ・工程順序に従って責任を持った仕事ができるように適宜助言する。 ・仕事を進める中で、さりげなく出来栄を確認し助言する ・作業工程表で製品名を確認し何を製作しているのか理解できるようにする。 ・製注意点表を活用し、正確に、ていねいな製作ができるようにする。 ・確認時にはほめたり、励ましたりして意欲を高める。
30	3 まとめの会 ・コース長の声かけで片付、清掃をする。 生活力 ・日誌の記入をする。 ・反省発表	・日誌の記入をしながら本時の取り組みについて振り返り、次時へ向けてのアドバイスをする。 ・次への意欲につながるようにたたえたり励ましたり、意欲が高まるように次

	問題解決能力・実践力 ・評価、次時の連絡 コミュニケーション能力	時の予定を伝えたりする。
--	---	---------------------

(7) 評価

①学習の評価

- 仕事の手順、方法を覚え正確な仕事できたか。
- 挨拶、相談、確認、報告を適宜行うことができたか。
- 個々のステップアップ課題が達成できるように努力することができたか。

②支援の評価

- 自分が挑戦したい仕事手順が正確に覚えられるように、適宜確認、助言などの支援ができたか。
- 個々のステップアップ課題が達成できるように、工程表や注意点表の確認を促し適宜できばえを確認し意欲的に取り組めるように支援できたか。
- 先輩から後輩、友達同士で仕事を教えあうことで、今まで行ってきた自分の仕事に自信が持てるように支援できたか。
- 挑戦したい仕事ができるようになるように手立ての工夫をし、できる自信につながるように支援できたか
- 実習計画や場の設定は適切であったか

(7) 環境設定について

- 「目打ちでギー」が取り組みやすいように補助具を使用



○ラッピングの際、使用する袋や価格がわかりやすいように表にしてある

ラッピング早見表	
S12-18	カラフル小銭入れ
S12-30	ペンケース・はみがきポーチ・コンパクトバック
S14-30	ポーチ・Wポーチ・ビニールポーチ(小)・キューブポーチ(大)・キューブポーチ(小) セカンドポーチ・トラベルポーチ・ティッシュポーチ・帆布ポーチ
S17-30	キャメルポーチ
S30-30	ビニールポーチ(大)・お弁当バック
S30-45	ビニールバック・書類ケース・ビニールバック横型・お弁当バック(マチなし)
S34-65	キャンバスバック(大)・キャンバスバック(大ファスナー付き)
S38-60	キャンバスバック(小)・キャンバスバック縦
S45-70	花柄キャンバスバック・キャンバスバック特大・ビニールバック特大

○裁断仕事の注意点を確認できるように

裁断仕事の注意点		
作業内容	注意点	備考
裁断機使用	裁断機・のり付け機・圧着機・圧着機	
	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
ラッピング	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
ロックミシン	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
縫製ミシン	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
縫製ミシン	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	
	裁断機に材料を入れる際は必ず材料を固定する	

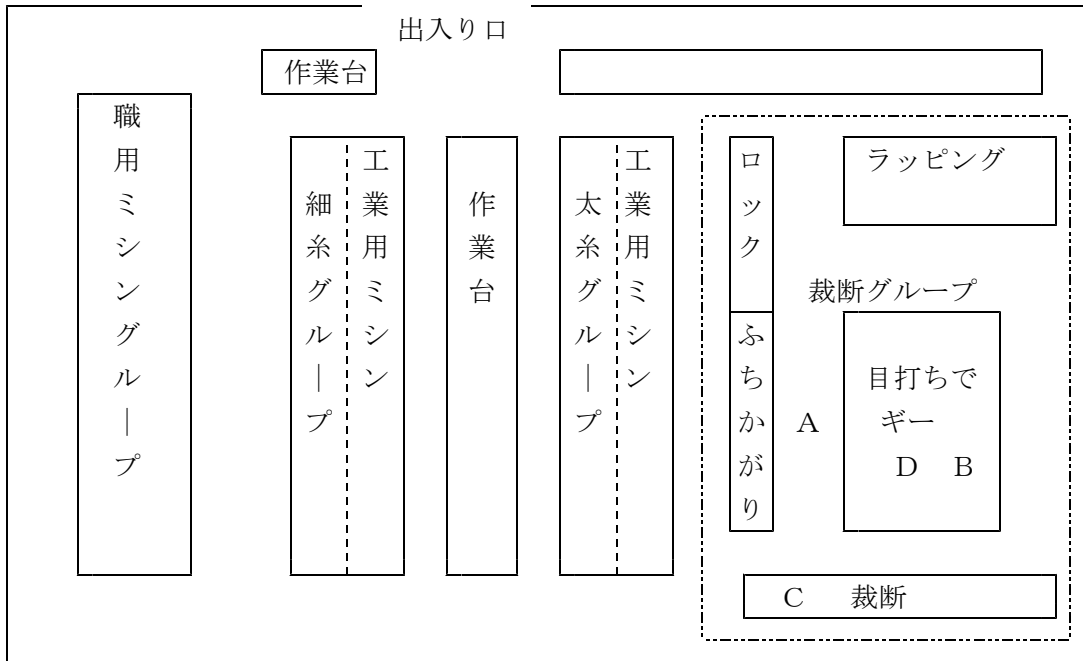
○布がずれないように洗濯ばさみで止める



○ラッピングしやすいように製品を重しで押さえる



(8) 場の設定



福祉・流通サービス科 流通サービスコース 学習指導案

日 時 平成24年12月13日(木) 第1校時～第4校時

場 所 本校総合実習室、第二キャンパス流通実習室

授業者 本校 T1 本間 大貴 T2 松見 和樹
第二キャンパス T1 清水 崇史 T2 菅野 絵莉菜
T3 廣明 純子

1 単元名「正確・確実な仕事」

2 単元設定について

(1) 単元設定の理由

流通サービスコースには、今年度1年生16名、2年生15名、3年生15名の計46名が所属している。学習指導要領「流通・サービス」に明記されている内容「商品管理」「販売」「清掃」「事務」を主な学習内容とし、すべての活動を通して、基本的な働く力と専門的な知識・技能を身につけることを目標にしている。

専門実習は、第二キャンパスで1、2年生が活動を行い、本校で3年生が活動している。現在①「商品管理」②「事務サービス」③「クリーンサービス」の3グループに分かれて活動を進めている。生徒は「商品管理グループ」と「事務サービスグループ」に分かれて所属し、「クリーンサービス」の活動については日替わりでローテーションしながら取り組んでいる。その他に、全体活動として、校外の専門家を招いて「清掃講座」、「パソコン講座」を行い、校外実習として「流山生涯学習センター」の清掃活動、「あじさい通り」の整備活動を定期的に行っている。

流通サービスコースでは、生徒の興味・関心を大切にしながら、自分の役割をやり遂げていく中で、キャリアアップを実感していくことができることを大切にしている。体験的な学習を重視し、「働く目的を確認する」、「働く態度への理解を深める」、「自分自身の興味や関心、能力・適正への理解を深める」ことができる具体的な経験を保証し、段階的な指導・支援を行うようにしている。1、2年生の商品管理グループは、本校の専門実習で生産した「窯業」「木工」「手芸」「縫製」の各コースの製品の「入庫」、「管理」、「出庫」を行い、継続的に商品管理をしている。各コースで生産した製品を、随時「入庫」、「管理」し、販売会前に、管理している製品を「出庫」している。「商品管理」はバーコードによる管理システムを導入し、流通に関する実践的な知識や技能が得られるような内容で取り組み、「情報を聞き取りメモをとる」、「製品情報の検索を行う」、「手書きで情報を記入する」「文章情報を正確に読み取る」、「正確に数を数える」、「データを入力する」、「確認作業をする」といった活動を設定し、基本的な働く力に加え、専門的な技能を身につけるための学習活動を展開している。

1、2年生の「商品管理」の中で大切にしていることは、「入庫」である。「管理」をしていく中で、「商品マスタ」と数量が異なると、実際に製品を何度も確認し直す必要が生じるため、「入庫」の正確さの重要性は生徒たちも活動を通して感じている。正確に「入庫」作業を行うには、カタログや色／柄見本などを活用しながらの正確な検索、自己確認の徹底を行わなければならない。そのため、商品を検索するためのツールとして、検索カタログやコード一覧等を用意し、タブレットPCでも検索ができるように用意している。また、月に一回「棚卸」を実施し、在庫の数量と実際の在庫の数量との差異がないか把握し、記載ミス等がないか、確認をしている。

本単元では、正確な「入庫」のために、「商品管理グループ」で扱う多くの製品の中からしっかりと製品を検索し、情報を記入していくことが大切となってくる。そのために、カタログやタブレットPCを活用した検索方法を身につけていくとともに、製品の情報を正確に読み取り、ていねいに記入していくなど、一つ一つの作業について精度を上げていくことに重点を置きたい。また、自己確認を行い、記入漏れや記入ミスを防いで正確に作業を進めてほしい。確かな作業の積み重ねを通して、働く力と「流通サービス」に関わる知識や技能を高めるとともに、仲間や教

師からの信頼を高め、仕事への意欲や達成感につなげていくことを願っている。

3年生は今年度から学校設定教科として、地域社会と連携・協働した体験活動や販売実習、社会人を活用した授業などを通して、青年期に向けたキャリア発達を図るとともに、就労先への円滑な移行に向けた知識・技能・態度の向上コミュニケーション能力やソーシャルスキルを養うことを目的とした学校設定教科「キャリアチャレンジ」を実施している。これに伴い「流通サービスコース」の商品管理グループの3年生は、キャリアチャレンジでの校外販売実習（サービスチャレンジ）の商品管理を担っている。販売実習（サービスチャレンジ）は、学科ごとに輪番で、「イオンモール南柏」や「おおたかの森ショッピングセンター」、「PAT 流山」などの地元にある商業施設（4か所）で販売活動を定期的に行っている。

3年生の校外販売実習の商品管理は、「入庫」、「管理」、「出庫」の活動を土台として、より発展的な内容としている。校外販売実習の「販売準備」では、バックヤードのような業務が盛り込まれ、複数の製品を同時に扱い、用意する製品の数量も多様となっている。自分たちで「販売準備」を行い、販売会後の「売上処理」や「会計」を行うことで、各製品の売れ行きや各販売会場の売れ筋が分かってくる。そして、次の「販売準備」を行っていく上で、売れ筋に応じて製品の発注や数の調整ができることから、実際のスーパーなどでのバックヤード業務の流れに近い、より発展的な活動となっている。4会場分の「販売準備」「売上処理」に取り組んでいくことで、より実践的な活動となり、一人ひとりの責任感や達成感が増し、製品の売れ筋も分かるため、今まで以上に意欲的に取り組んでいる。

「販売準備」の中で、昨年度より大切にし、重要だと考えていることは、「ピッキング」である。実際に「販売」活動が入ったことで、「ピッキング」時のミスが販売後の会計に影響を及ぼすことになったため、より正確な「ピッキング」作業が必要となった。また、同時に4会場分の製品を準備していくために、協力し合いながら作業を進め、ピッキング指示書や販売物一覧表などを正確に読み取り、会場ごとに用意されたコンテナにていねいに梱包していくことも重要となる。そのためには、カタログや色／柄見本、タブレット PC を活用しながら、正確な検索、徹底した自己確認を行なうことが大切となる。本単位では、ピッキングリストや販売リストを正確に読み取って「ピッキング」や「在庫確認」を行う、「販売準備」を通して、より実際の物流倉庫の流れに近い「ピッキング」、「在庫確認」、「出庫」、「売上処理」、「商品マスタの更新」「販売リストの作成」、「梱包」などの複合的な活動を行うことで、より職場に近い作業の体験と高い達成感を得ることができると考えている。

正確な「ピッキング」を行うためには、「商品管理グループ」で扱う多くの製品の中からしっかりと製品を検索・仕分けすることが大切となってくる。そのために、カタログ、コード一覧、色／柄見本を活用した検索方法やタブレット PC を活用した検索方法を身につけることを大切にしていきたい。また、「販売準備」における活動の流れに沿って、「手書きでの情報の確認」、「バーコードを活用しての確認」という二重の確認、さらには販売会前日に行う「最終確認」で在庫状況をきちんと把握し、正確な製品情報や数量の処理を行い、作業精度を高めていくことに重点を置きたい。「製品情報の検索」、「情報の読み取り」、「製品情報メモや在庫確認表の記入」など、一つ一つの作業の精度を上げていき、正確な「販売準備」に取り組めるようになってほしい。本時は、来月から行われる校外販売実習（サービスチャレンジ）にむけた「ピッキング」、「出庫」、「在庫確認」を展開する。商品管理グループ8名は、1会場を2名で担当し、「手書きでの情報の確認」、「バーコードを活用しての確認」を行い、リストに沿った製品の「ピッキング」や「出庫」、「在庫確認」に取り組む。作業手順に沿って正確・確実に作業を進め、仲間と協力しながら作業を効率よく進めてほしい。確かな作業の積み重ねを通して、働く力と「流通サービス」に関わる知識や技能を高めるとともに、仲間や教師からの信頼を高め、仕事への意欲や達成感につなげてほしい。

(2) 働く力の基礎基本との関連

○コミュニケーション能力（A）

- ・挨拶、返事、報告を確実に行う。
- ・仲間と協力して作業する。

○体力（B）

- ・時間いっぱい集中し、根気よく作業に取り組むことができる。
- ・製品の入ったケースを確実に運搬することができる。

○生活力（C）

- ・身だしなみを整え、ルールを守り、意欲的に取り組むことができる。
- ・作業の手順をしっかりと守ることができる。
- ・作業内容を理解し、自分の役割をやり遂げる。
- ・作業の流れが分かり、自分から進んで次の仕事を探すことができる。

○知識・技能（D）

- ・製品をていねいに扱うことができる。
- ・ていねいに文字を記入することができる。
- ・製品の検索を正確に行うことができる。
- ・製品を種類別に分別し、数えることができる。
- ・製品とバーコードのマッチングができる。
- ・パソコンの準備、操作ができる。
- ・バーコードリーダーの操作ができる。
- ・製品データを正しく読み取ることができる。
- ・製品データを正しく書き写すことができる。

○問題解決力・実践力（E）

- ・自分で目標設定を行い、実行していく。
- ・製品情報を検索して正しい情報を記入することができる。
- ・間違いがないか、自分で確かめながら作業を進めることができる。
- ・製品をケースに収納することができる。
- ・かご車にケースを安定させて積載することができる。
- ・作業机を常時きれいにする。

3 単元の目標

- 正確に製品の確認・補充を行い、確実な「販売管理」を行う。
- 作業の流れが分かり、進んで作業に取り組むことができる。
- 仲間と協力して取り組むことができる。

4 指導計画（本時42～45時間／60時間扱い）

月 日	曜	目標	(時数) 学習内容		備考
			1、2年生	3年生	
11/22	木	正確・確実な仕事	(4) 再入庫作業	再入庫作業	
11/26	月		(3) 再入庫作業	再入庫作業	
11/28	水		(4) 再入庫作業	再入庫作業	
11/29	木		(4) 再入庫作業	校外清掃実習	
12/3	月		(3) 再入庫作業	入庫作業	
12/5	水		(4) 入庫作業	入庫作業	

12/6	木	(4) 入庫作業	校外清掃実習	
12/7	金	(4) 入庫作業	入庫作業	高等部駅伝大会
12/10	月	(3) 入庫作業 出庫作業 本校へ出庫	入庫作業	
12/11	火	(4) 入庫作業出庫作業	パソコン講座	
12/12	水	(4) 入庫作業	入庫作業（第二キャンパスから入庫）	短縮日課
12/13	木	(4) 入庫作業	販売準備活動（ピッキング、在庫確認）	本時
12/17	月	(3) 再入庫 棚卸	棚卸	
12/19	水	(4) 校外清掃実習	棚卸	マラソン大会
12/20	木	(4) 棚卸 大掃除	校外清掃実習	
12/21	金	(4) まとめ	大掃除 まとめ	

5 本時の指導（第二キャンパス：1、2年生）

（1）小単元名「入庫情報処理を確実に行う」

（2）ねらい

- 製品の情報を正確に収集し、読み取ることができる。
- 製品の情報を間違いなく記入することができる。
- 「入庫作業」の流れが分かり、進んで仕事に取り組むことができる。

（3）キャリア発達を促す支援のポイント

- 自分の役割や責任感を意識しやすくするために、少人数のグループで活動を行う。
- 正確に仕事をするという気持ちが高まるように、製品の数や情報などの記入内容を要所にチェックする。
- 作業手順が確認できるように、「入庫」の流れを示した工程表を準備する。

（4）作業工程表と育てられる主な力

作業	作業工程	作業のポイント	育てられる主な力
①搬入	・製品の運搬	・元気よく挨拶する。 ・運搬する製品を確認する。 ・ていねい、確実に運ぶ。	A挨拶、協力 B体力 Dていねい E判断力
②検索・分類	・製品を検索し、種類別に分ける。	・製品のサイズの確認。 ・種類別に確認する。 ・ていねいに製品を扱う。	A協力 C主体性 Dていねい、正確 E判断力
③入庫情報メモの記入	・製品情報一覧を参照して製品データを確認し記入する。	・情報の検索ができる。 ・情報を正しく記入する。 ・もれなく記入する。	D読み・書き、数量計算、正確 E判断力
④入庫書の記入	・メモ内容を確認し、入庫書に記入する。	・記入内容の確認ができる。 ・正確に記入する。	D読み・書き、数量計算、正確 E判断力

⑤収納	・製品をケースにしまい、棚に戻す。	・ケース内に並べて、しまうことができる。 ・ていねいに製品を扱う。 ・棚に収納することができる。	D ていねい E 判断力、整理整頓
⑥データ入力	・入庫書を見て製品データを入力する。	・情報を正しく入力する。 ・エラーの自己チェックを行う。	C 責任感 D 知識・技能 E 判断力
⑦分類（バーコードシール貼り）	・製品を種類別に分けバーコードとマッチングする。	・製品の種類とバーコード No を正しくマッチングする。	A 協力 C 主体性 D 数量計算、正確、道具の扱い E 判断力
⑧製品にバーコードシールを貼る	・製品にバーコードシールを貼る	・貼付位置を確認する。 ・きれいにシールを貼る。	A 協力 C 責任感 D 正確 E 判断力

(6) 展開

時配	学習活動	学習への支援
15	1. 全体の打ち合わせ。 2. 各グループの打ち合わせ、準備。 入庫内容の確認 ・本時の仕事内容の確認 ・日誌の記入 3. 作業の準備を行う。 コミュニケーション力 生活力 問題解決力・実践力	・本日の入庫分の製品について、コース名、製品名、作業分担等をホワイトボードに記入しておき、確認作業を行う。 ・前回の活動を振り返り、気をつける内容を確認し、目標が明確に設定できるように「検索を正確に行う。」「正確に製品情報を記入する。」など一人一人話し合う。
110	4. 製品の運搬 コミュニケーション力 体力 知識・技能 問題解決力・実践力 ・「入庫棚」から作業机に製品を運搬する。 5. 製品の検索 生活力 知識・技能 問題解決力・実践力 ・製品カタログと巻き尺を使い、製品の検索をする。 6. 製品を種類別に分ける コミュニケーション力 生活力 知識・技能 問題解決力・実践力 ・トレイ等必要物の準備。	・運搬時にていねいに製品を扱うように、急がないこと、周りに注意することなどの注意点をあらかじめ伝えておく。 ・製品のサイズが記入された製品カタログを準備しておく。 ・生徒の検索技能に応じて、個別に対応し、製品のサイズの測り方やタブレット PC や製品検索カタログの使い方を確認する。

・色／柄見本を参考にして、製品を種類別に分ける。 ・製品情報メモ用紙の準備 ・製品名や色、個数などの製品情報をメモする。 ・メモ内容の確認を行う。 7. 「入庫書」を記入する。 知識・技能 問題解決力・実践力 ・製品メモの情報を正しく書き写す。バーコード No も記入する。 ・記入内容の確認をする。 ・入庫書とメモをホッチキスでとめて指定の場所に置く。 8. C 棚に収納する。 知識・技能 問題解決力・実践力 ・製品をコンテナにしまう。 ・収納先の確認。 ・コンテナを棚に収納する。 9. 製品の種類ごとに上記 5～7 の作業を繰り返す。 10. 在庫管理表への入力 生活力 知識・技能 問題解決力・実践力 ・ソフトの立ち上げ。 ・「入庫書」を見て入庫情報をデータ入力する。 ・入力内容の確認。 ・データの保存。 11. 「入庫製品」納品書の作成 生活力 知識・技能 問題解決力・実践力 ・「入庫書」を見て納品書を作成する。 ・入力内容の確認。 ・データの保存。 ・納品書の印刷。	・トレイやメモ用紙などの必要物は、場所を決めて置いておく。 ・製品の布の色や柄が識別できる色／柄見本を準備しておく。 ・色／柄見本にない種類の布があった場合は、すでに入庫している製品を確認するようにあらかじめ伝えておく。 ・製品情報の検索がうまくできない生徒については、一緒に検索したり、タブレット PC での検索、製品検索カタログの検索方法を確認する。 ・記入した文字の読み取りがうまくいくように、文字はていねいに書くように伝える。 ・記入内容にミスがあった場合は、原因を特定して修正できるように、その場でミスの内容を確認して、もう一度記入する。 ・製品の扱い方の様子を見て必要に応じてその場で注意し、製品を押し込んだりしない等、正しい収納方法をアドバイスする。 ・入力前にソフトや入力場所の準備が整っているか確認する。 ・入力内容の自己チェックを促す。 ・入力前にソフトや入力場所の準備が整っているか確認する。 ・入力内容の自己チェック、印刷済み納品書の自己チェックをするように声をかける。
12. 入庫処理済製品にバーコードシールを貼る。	バーコードシール貼り

15	コミュニケーション力 生活力 知識・技能 問題解決力・実践力 ・指定された製品をC棚から運び出す。 ・トレイを準備する。 ・製品を種類別に分ける。 ・製品、バーコードカード、バーコードシールを合わせる。 ・製品とコードが合っているか確認する。 ・製品にバーコードシールを2枚ずつ貼り付ける。 ・正しく貼れたか確認する。	・製品名や収納場所を予めチェックしておく。 ・準備物や種類ごとに分ける位置などの、作業の指示は仲間で協力して取り組めるように、グループのリーダーが行う。 ・製品とバーコードカード、シールのマッチングが確実にできるようしっかりと確かめる。 ・シールの貼り方がうまくできない生徒には報告するよう伝え、貼り方や位置調整の仕方を教師と一緒に言いながらアドバイスする。
	1 3. 棚に収納する 知識・技能 問題解決力・実践力 ・シール貼付の確認がすんだ製品をケースにしまう。 ・収納場所を確認する。(ロケーションの確認) ・ケースを棚に収納する。 ・正しく収納されたか確認する。	・製品の扱い方の様子を見て必要に応じてその場で注意し、製品を押し込んだりしない等、正しい収納方法をアドバイスする。 ・収納場所の確認ができるように、ロケーションを記したものを見える位置に貼り付けておく。
	1 4. 片付け ・使用した道具の片づけを行う。 ・使用場所の清掃を行う。	・様子を見て、後片付けや台ふき清掃に進んで取りかかれるように声をかける。
15	まとめ	
	1 5. 日誌記入 ・日誌に反省を記入する。	・記入内容を確認し、必要に応じて書き直すように伝える。
	1 6. 終わりの会 ・グループの活動報告（代表者） ・挨拶	・報告者は予め決めておく。

（7）評価

①学習の評価

- ・製品の情報を収集できたか。
- ・製品情報を正しく記入できたか。
- ・仲間と協力して活動できたか。

②支援の評価

- ・作業の流れや手順を明らかにし、分かりやすく提示することができたか。
- ・検品を確実にし、エラーの原因を生徒自身が理解できるように支援することができたか。
- ・エラーを正しく修正できるよう、生徒に適切なアドバイスができたか。

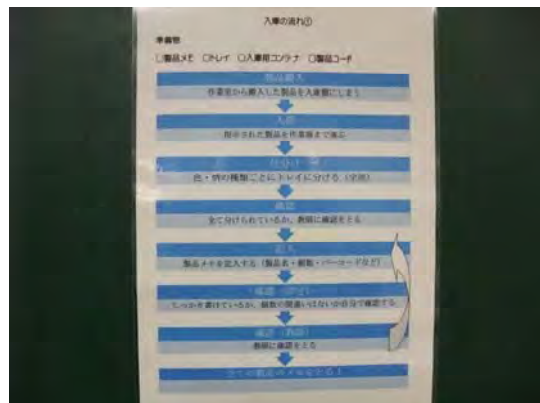
(8) 環境設定について

- ・「商品管理」における「入庫」から「出庫」までの流れを考えた動線を作った。



- ・3～4グループ（4、5名）での展開ができるように作業場所を確保した。

- ・「入庫」の流れを示した工程表を掲示している。

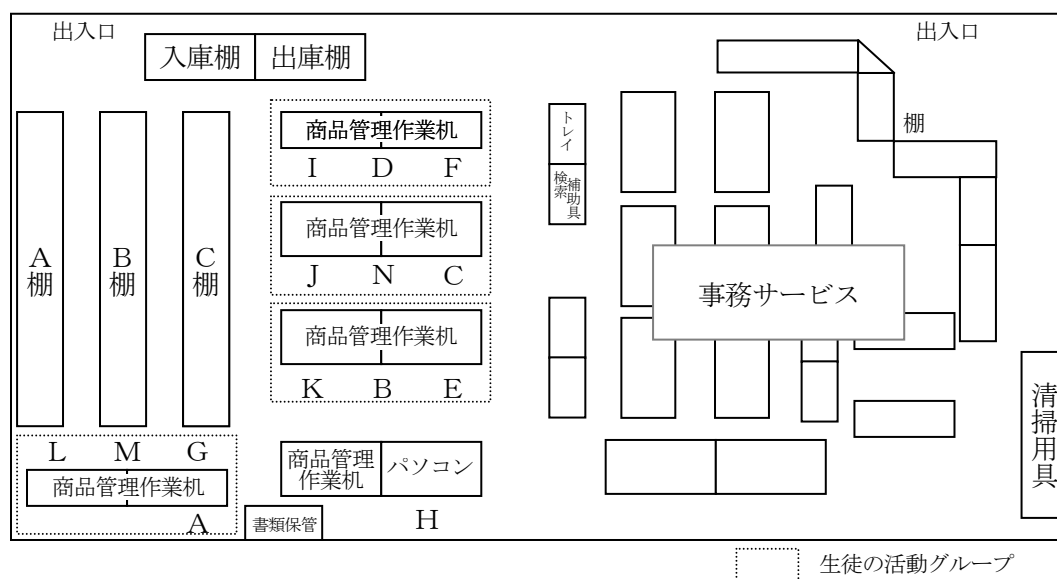


- ・「製品情報メモ」、「入庫書」の用紙と「製品カタログ」、「バーコード一覧表」、「バーコードカード」などの製品を検索するときに使うものは場所を決め、配置している。

- ・今までの「入庫書」や「伝票」を確認できるように、場所を決め、配置している。



(9) 場の設定



5 本時の指導（本校：3年生）

(1) 小单元名「正確なピッキング、在庫確認作業」

(2) ねらい

- 製品の情報を正確に読み取り、正確に仕分けや情報メモなどへの記入ができる。
- 「販売準備」の流れが分かり、進んで仕事に取り組むことができる。
- 正確に製品の確認・補充を行い、販売管理を行うことができる。

(3) キャリア発達を促す支援のポイント

- 自分の役割を理解し、仲間と協力してやり遂げることで自信をつけ、意欲を高めることができるように、「ピッキング」から「売上処理」までの全行程を行う。
- 自ら活動の反省を行い、修正して次の目標を設定することで、意欲的に取り組むことができるように、作業手順表を活用しながら、自分で活動を振り返る。
- 仲間と協力して取り組むことができるように、少人数のグループで活動を行う。

(4) 作業工程表と育てられる主な力

作業	作業工程	作業ポイント	育てられる主な力
ピッキング	出庫依頼書に沿って、記載された製品を用意する。	・依頼書を正確に読み取る。 ・ていねいに製品を扱う。	A. 協力 B. 主体性、確認、 C. 数量計算、正確、 ていねい、判断力 E. 責任感、手順の 理解
製品の分類	カタログ、色／柄見本を参照して、製品を種類ごとに分ける。	・カタログ・色／柄見本の情報を正しく読み取る。 ・種類別に分けられているか確認する。 ・ていねいに製品を扱う。	A. 協力 B. 主体性 C. 判断力、正確 E. ていねい
製品情報メモ・	カタログなどを参照して、	・情報の検索が正しくできる。	A. 協力

在庫確認表の記入	製品情報を正しく読み取り、記入する。	・情報を正しく記入する。 ・全ての内容を正しく記入する。 ・記入内容の確認ができる。	B. 主体性、確認、整理整頓 C. 読み・書き、数量計算、正確、ていねい、判断力 E. 責任感、手順の理解
収納	製品をていねいに扱い、コンテナに分かりやすいように収納する。	・ケース内に並べて片づけることができる。 ・ていねいに製品を扱う。 ・ラッピング等の乱れを直しながら収納することができる。 ・棚に収納することができる。	A. 協力 B. 整理整頓 C. ていねい、正確、判断力、道具の扱い E. 責任感
商品マスタ入力 販売システムへの入力	バーコードスキャンをして、製品の個数の確認をする。	・入力内容の自己確認ができる。	C. 知識・技能、判断力、道具の扱い E. 責任感、手順の理解

(6) 展開

時配	学習活動	活動への支援
15	1. 全体の打ち合わせ。 2. 各グループ打ち合わせ、準備。 ・台ふきをおこなう。 ・本時の仕事内容の確認 ・日誌の記入 活動内容を知り、具体的な目標を設定する。 3. 作業の準備を行う。 コミュニケーション力 問題解決力・実践力 生活力	・製品を扱うため、きれいにして作業を進めることを確認する。 ・グループごとに今日の活動、入庫分の製品について日報を準備し、確認する。 ・注意点を確認し目標が明確に設定できるように、前回の活動を振り返る。 ・グループでまとまって動く。 ・各グループごとに、販売場所ごとのコンテナ、出庫依頼書、トレイ、バスケットを用意しておく。
40	販売実習（サービスチャレンジ） 準備活動 4. ピッキング ・出庫依頼書を確認し、製品を用意する。 ・出庫依頼書に用意した製品数を記入し、自分で正確に作業が出来たか、確認をする。 ・製品と出庫依頼書を持って教師に確認を取る。 ・在庫確認表を指定の場所に置き、製品はコンテナに収納する。 コミュニケーション力 知識・技能	・仲間で協力して取り組めるように、準備物や種類ごとに分ける位置などを相談し合って決める。 ・記入ミスがないように、自分で確認するように伝える。 ・記入内容にミスがあった場合には、その場でミスの内容を確認して、もう一度検索し直し、修正する。

	問題解決力・実践力 体力 生活力 5. 出庫作業 - 作業の準備をする。 - 製品ごとに在庫確認表の作成を行う。 - すべての製品で行う。	- 各グループごとに、販売場所ごとのコンテナ、出庫確認表、トレイ、バスケットを用意しておく。 - 記入内容にミスがあった場合には、その場でミスの内容を確認して、もう一度検索し直し、修正する。
	商品マスタの入力（出庫作業） 6. 商品マスタの入力 - パソコンなど必要物の準備 - ソフトの起動 - バーコードの読み取り - 入力内容の確認 コミュニケーション力 知識・技能 問題解決力・実践力 体力 生活力	- 入力前にソフトや入力場所の準備が整っているか、教師が確認しておく。 - あらかじめソフトの操作の仕方を確認しあっておく。 - 入力内容の自己確認をするようにもう一度、出庫確認表を確認しながら、入力数を確認するように伝える。 - 入力ミスがあった場合には、原因を特定して、修正できるように出庫確認表を確認する。
100	7. 在庫確認表の作成 - 作業の準備を行う。 - 製品ごとにトレイやバスケットに仕分けをし、色／柄ごとに製品情報メモを作成する。 - 記入内容と製品が一致しているか、確認をする。 - 情報メモを確認し、コース名、製品名、色／柄ごとの個数などの製品情報を在庫確認表にまとめる。 - 記入内容の確認を行う。 - 在庫確認表を指定の場所に置く。 コミュニケーション力 知識・技能 問題解決力・実践力 体力 生活力 8. 製品の種類ごとに在庫確認表を作成し、上記手順に沿ってすべての製品の在庫を確認する。 キャリアチャレンジ販売製品確認システムの入力	- 仲間で協力して取り組めるように、準備物や種類ごとに分ける位置などを相談し合って決めるようにする。 - 文字の読みとりがうまくいくように、文字はていねいに書くように伝える。 - 記入内容にミスがあった場合には、その場でミスの内容を確認して、もう一度検索し直し、修正する。
	9. 「キャリアチャレンジ販売製品確認システム」を使い、バーコードリーダーで、製品の個数のチェック・確認を行う。 - パソコンなど必要物の準備 - ソフトの起動	- 入力前にソフトや入力場所の準備が整っているか、教師が確認しておく。 - あらかじめソフトの操作の仕方を確認し合っておく。 - バーコードがうまく読み取れないとき

	・バーコードの読み取り ・入力内容の確認 コミュニケーション力 知識・技能 問題解決力・実践力 体力 生活力	には報告するように伝え、読み取り方や手入力での確認方法を伝える。 ・ミスが無いように在庫管理表をもう一度確認しながら、入力内容の自己確認をする。 ・その場で在庫確認表を確認しながら、必要に応じて原因を特定して修正するようにする。 ・製品の取り扱いの様子を見て、必要に応じてその場で注意し、正しい製品の扱い方、収納方法をアドバイスする。
15	まとめ 9. 片づけ ・使用した道具の片付けを行う ・使用場所の掃除を行う 10. 日誌の記入 ・日誌に反省を記入する 11. 終りの会 ・グループの活動報告（代表者） ・挨拶	・置いてあった場所に綺麗に片付けるように「次に使いやすいように」等と声をかける。 ・記入内容を確認し、必要に応じて書き直すように伝える。 ・報告者はあらかじめ決めておく。

（7）評価

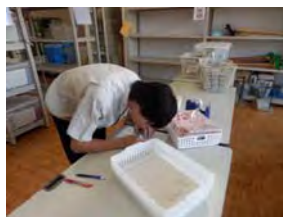
①学習の評価

- ・製品の情報を正確に読み取り、正確に仕分けや情報メモなどへの記入ができたか。
- ・「販売会準備」の流れが分かり、進んで仕事に取り組むことができたか。
- ・正確に製品の確認・補充を行い、販売準備を行うことができたか。

②支援の評価

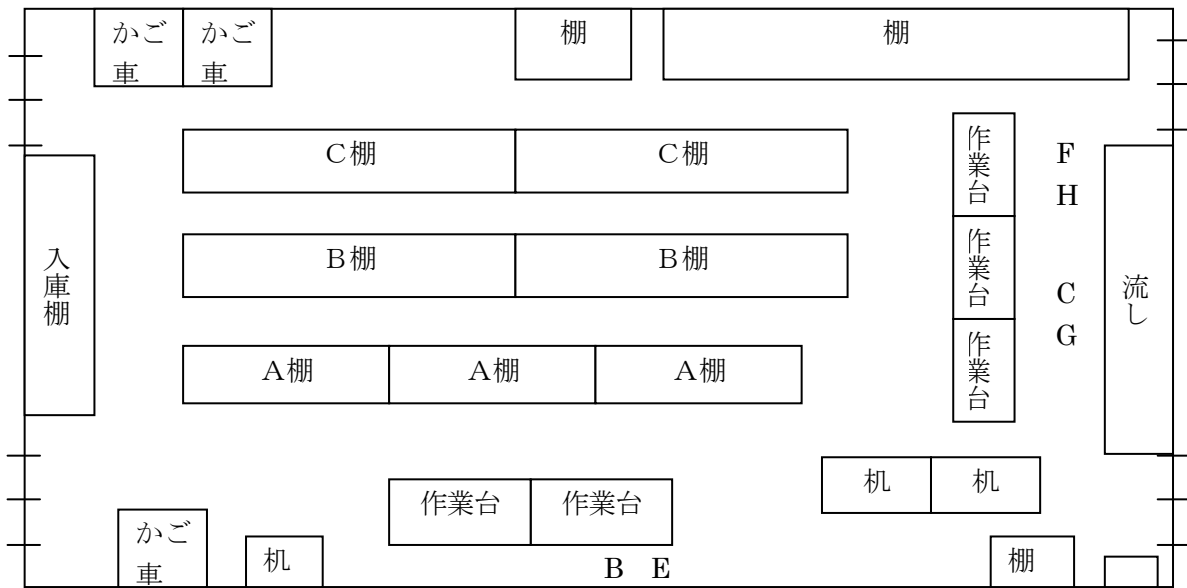
- ・仲間と協力して取り組めるように、適切にアドバイスできたか。
- ・検索を確実に行えるように、適切な検索方法を伝達できたか。
- ・エラーの原因を見つけて、正しく記入できるように生徒に適切なアドバイスができたか。
- ・進んで仕事に取り組めるように、活動の流れを分かりやすく提示することができたか。

（8）環境設定について

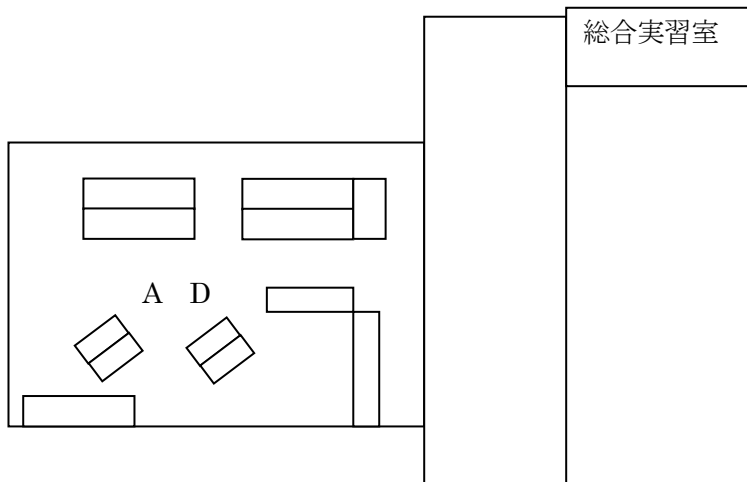


(9) 場の設定

総合実習室



ギャラリー



あ と が き

副校長 渡部 洋史

社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を
実現するための力を育むための教育活動を展開することが、キャリア教育の実践の姿とさ
れています。

本校は平成9年4月に社会自立・職業自立を目指す教育の充実を図り、職業教育を推進
する中核機関としての役割を担うことを使命として設立され、16年目を迎えています。

3学科（園芸技術科、工業技術科、生活技術科）5学級編成でスタートし、平成22年4
月より、福祉・流通サービス科を加えた4学科12学級編成の規模となりました。

今年度は平成22年度より取り組んできた研究テーマ「キャリア発達を促す専門教科の
あり方 ～自立へのステージアップを促す授業改善～」の3年目としての実践と研究成果
の発表を行いました。生徒一人一人のステージ（社会自立・職業自立する力をつけていく
課程）に合わせた支援のあり方に視点をのいた授業実践をグループ毎にまとめ、発表し合
うことで活発な協議となりました。引き続き、研究を積み重ねることで生徒の自立に繋がる
授業の充実を目指したいと思います。

公開研究会では、北は北海道、南は沖縄県まで100名を超える参加をいただきました
こと、また、本研究を推進するにあたり、多方面からの御支援・御協力をいただきました
ことに深く感謝申し上げます。研究のまとめを御一読いただき、御指導を賜りますようお願い
申し上げます。

最後になりましたが、公開研究会でご講演いただきました京都市教育委員会指導部総合
育成支援課専門主事の森脇勤先生、公開研究会や職員研修会で御指導いただきました国立
特別支援教育総合研究所主任研究員の菊地一文先生をはじめ、テーマ別分科会で講師とし
て御助言いただきました5名の先生方に心より感謝を申し上げます。

平成24年度 研究同人

校長 京坂 和憲 副校長 渡部 洋史 教頭 近藤 明紀
事務主幹兼事務長 岡本 廣子
教務主任 野尻 浩 副教務主任 正岡 嗣啓
研究主任 松見 和樹○

岩澤 花	福田 和司	高田 聡美	鎌田 崇史	齋尾 宏信	犬飼 奈美
古江 陽子	笠原 敏雄	永峯 和典	保泉 真由美	棚橋 彩香○	鈴木 幸保
神田 浩一	手塚 幸子	柳沢 美智代	石戸 哲治	高橋 義一	廣明 純子
松村 桂子	大谷 彰夫	大門 寛子	朝倉 洋一	清水 崇史	堀口 祐未
阿部 茂華	加藤 聡	早川 央紀	小原 光史	片倉 喜朗○	山崎 智美
平山 基樹	吉川 峰子	松澤 淳一	塩田 正勝	高橋 照代	須鎌 健一
山崎 唯光	有川 富子	高田 政敬	福田 繭美	猪越 裕子	時長 哲朗
樺澤 崇○	松村 恵子	柳澤 正人	菅野 絵莉菜	萩原 明子	福田 弘俊
上原 理恵	栃木 輝秋	高木 歩美	大野 照明	森 千賀子	鈴木 一弘
佐藤 拓馬	鳥井 圭子	山口 好見	内田 晋	飯田 圭一	菅原 雅子
平谷 貴司○	高橋 鉄	土屋 菜穂子	菊池 政俊	岡田 道子	本多 哲哉
鶴田 真一郎	土佐 江梨香	本間 大貴	田中 沙希	木内 あおい	伊藤 貴之
加藤 誠	塚本 秀昭	児島 昌子	奈良岡 俊介	浮田 眞理江	内田 務
岡田 敏夫	小口 智明	豊岡 優子	内田 博之	齋藤 典行	山形 敏明
長谷川 緑	鳥潟 朝子	藤川 佳子	山寺 健二	石井 葉子	阿部 佑亮
坂中 興栄	笠間 園子	谷井 美智子	東 誠一郎	淵上 由美	齋藤 美奈
小暮 君江	伊藤 皇成	齋藤 勝義	岡田 賢治	西尾 香里	中島 則子
細田 大輔	三浦 容子	横山 理恵子	浅利 邦子	船橋 誠	椎橋 克夫
市村 宜裕					

○ 研究推進係

平成24年度 研究紀要 第16号 実践のあゆみ

編集・発行

千葉県立特別支援学校流山高等学園

〒270-0135 千葉県流山市野々下2-496-1 (本校)

TEL 04-7148-0200 FAX 04-7148-0066

〒270-0145 千葉県流山市名都借140 (第二キャンパス)

TEL 04-7141-9900 FAX 04-7141-8202

発行日

平成25年3月22日

印刷

株式会社 学校写真

